Sports For All ～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

Sendai University Public Relations

SENDAI UNIV.

Monthly Report

Vol.72 ／ 2012 Apr.

仙台大学は今年、開学45周年

東北・北海道唯一の体育学部（体育学科）を有する四年制大学として1967年（昭和42年）に定員100名で開学した本学は、平成7年に健康福祉学科、平成10年に大学院、平成15年に運動栄養学科、平成19年にスポーツ情報マスメディア学科、平成23年に現代武道学科を開設し、学生数は2000名を超す大学へと成長し、今年で開学45周年を迎えました。

目　次

仙台大学開学45周年	1
仙台大学入学式 FDセミナー	2
青海省から2名留学 台東大学短期留学	3
柴田さくらマラソン ジュニア新体操開講	4
こども未来基金に寄付 学生が交通安全を呼びかけ	5
ベガルタ仙台ホームスタジアムに看板設置	6
お花見レガッタ	7

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
直通　0224-55-1802
内線　佐藤美保　256
土生佐多　200
伊東宏之　271
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

平成24年度 仙台大学入学式

4月7日（土）に本学第5体育館において第46回体育学部、第15回大学院入学式を挙行しました。朴澤学長より「体育学科333名、健康福祉学科111名、運動栄養学科81名スポーツ情報マスメディア学科44名、現代武道学科37名、編入生6名、大学院19名、計631名の入学を許可します」との入学許可告知がなされた後、入学者を代表して、今井優美さん(運動栄養学科／多賀城高卒)が「体育・スポーツ・健康に関わる諸科学を探求し、これからの時代の担い手となるよう身体を鍛え、教養を深め、心を磨き、豊かな学生生活を送るように努力してまいります。」と力強く宣誓しました。

＜平成24年度入学者＞

体育学部612名
- 体育学科333名、編入学3名
- 健康福祉学科111名、編入学3名
- 運動栄養学科81名
- スポーツ情報マスメディア学科44名
- 現代武道学科37名

大学院19名
- 2年コース16名
- 1年コース3名

平成24年度新任教員スタートアップ支援FDセミナー

4月10日（火）に教育改善企画委員会が主催する「平成24年度新任教員スタートアップ支援FDセミナー」がA棟大会議室で開催されました。このセミナーは新任の先生方が仙台大学に早く馴染んでいただくために、大学の教学経営や3つのポリシー、CAP制とGPA、新カリキュラム教養教育、諸手続きの仕方などを各担当教職員より説明するものです。コミュニケーションゲームやフリートークの時間もあり、セミナーに参加された先生方と新任の先生方の間で、色々なコミュニケーションが図られました。

留学生歓迎お花見会

4月19日（木）に船岡城址公園において学生支援センター主催の留学生歓迎お花見会が行われ、教職員・留学生・学生合わせて約50名が参加しました。今年は例年よりも開花が遅く、当日は咲きはじめということで花見客もまばらな状況でしたが、日本独自の慣習である花見を通し、留学生との親睦が深められました。

写真提供：学生支援室

大学院研究生として青海省体育科学研究所から2名が留学

4月11日に本学が高地トレーニングの研究等で国際交流協定を結んでいる中国青海省体育科学研究所職員の蘇（そ）青青（せいせい）さん（写真：中左）と杜（とう）霞（か）さん（中右）が大学院研究生として学ぶため来学し朴澤学長に挨拶を行いました。両名は語学を1年間学んだ後、平成25年4月から本学大学院（1年コース）に入学する予定となっています。同研究所からは昨年来日した祁（き）継良（けいりょう）さんが今年4月から学院（1年コース）で学んでおり、学術交流も順調に進捗しています。

台東大学（台湾）短期留学プログラム

写真提供：佐藤志帆さん、小林真衣さん

3月4日 - 29日、国際交流協定を結んでいる台東大学への短期留学プログラムに佐藤志帆さん（健康福祉学科4年）と小林真衣さん（体育学科3年）が参加しました。

小林真衣さん（体育3年／名取北高卒）

台東大学からダブルディグリー制度を使って仙台大学に留学した劉（リュウ）姿伶（シレイ）さん、曾（ソウ）鈺倫（ギョクリン）さん、盧（ロ）彦中（ゲンチュウ）さんから台東大学ではアウトドアの授業が多いことなどを聞くうちに台湾への興味が強くなりました。また、大学で語学支援に参加しているので中国語を学びたいとの思いもあり短期留学への参加を希望しました。

台東大学では佐藤さんと大学寮に入り、サーフィンやダイビング、空中探索などの実技の授業に参加したほか、台湾観光として野球記念館や台湾原住民の一つである布農族（ぶぬんぞく）の方との交流、小学校訪問などをしました。また、台湾滞在中に帯同してくれた盧彦中さんとともに台湾1周旅行も敢行し、台湾の文化に満喫することができました。今回の短期留学で中国語を学んできましたが、使わないとすぐに忘れてしまうのでもっと勉強をして、仙台大学に来る留学生たちと会話ができるぐらいになりたいです。

第8回 柴田さくらマラソン

～学生110名がボランティアとして大会をサポート～

4月21日（土）に「第8回柴田さくらマラソン（愛称：一目千本さくらマラソン2012）」が陸上自衛隊船岡駐屯地を会場に開催され、本学からも大会運営に仲野教授、柴田助教はじめ学生約110名がボランティアとして、コース誘導や準備運動指導、給水、総合受付等として係わりました。「柴田さくらマラソン」は2001年から柴田町主催で毎年開催されてきましたが、第6回大会を最後に休止となっていました。それを、住民有志で結成する実行委員会が柴田町役場や船岡駐屯地に交渉を行い開催までこぎつけました。残念なことに昨年3月に発生した東日本大震災により第7回大会は中止となりましたが、今大会は天候にも恵まれ、沖縄県や北海道など全国から約2000名が参加する一大イベントとなりました。

平成24年度 ジュニア新体操教室が開講

4月25日（水）に平成24年度の仙台大学開放講座「ジュニア新体操教室」開校式が第4体育館ダンス・新体操場で開催され、3歳から11歳までの受講生72名とその保護者に参加いただきました。開校式では新体操競技部員の司会のもと、大学を代表して事業戦略室の半澤担当課長から挨拶した後、新体操競技部の大山部長はじめ講師陣が紹介されました。

開講式終了後には第1回目の教室が行われ、子供たちの元気な歓声と笑顔が溢れていました。ジュニア新体操教室は監督の河野新助手、コーチのエレナ氏、新体操競技部部員の指導のもと、毎週水曜日に開講していきます。

第6回しばたまち白石川さくら回廊ボート体験会

4月14日（土）に本学漕艇部が中心となって「第6回しばたまち白石川さくら回廊ボート体験会」を北船岡白石川河川敷で開催し、柴田町内の中学・高校生40名に参加いただきました。例年であればこの時期は白石川堤の桜が咲き誇り、川面から桜並木を眺めながらの体験会となります。今年は例年よりも開花が遅れたため桜はありませんでしたが、参加者たちは普段体験できないボートの魅力と部員たちの指導に感心しているようでした。

NPO法人「東日本大震災こども未来基金」へ寄付

本学では、東日本大震災で親をなくしたり、親が重度の障害を負ったりした子ども達に学資支援を行うNPO法人「東日本大震災こども未来基金（理事長：高成田享氏）」に、学内で集めた338,814円を寄付しました。このお金は、昨年10月に開催した「東北こども博」のイベント売上金と商工会協賛金、大学祭でのチャリティーバザール売上金と募金、学内ボランティアセンターでのカウンター募金などで集めたものです。

4月27日（金）には本学学長室において贈呈式が行われ、仙台大学災害ボランティア組織の責任者である山谷教授より高成田理事長に目録を贈呈し、高成田理事長からは感謝状が授与されました。

学生が交通安全を呼びかけ

～平成24年度春の交通安全週間～

4月6日(金)－15日(日)の10日間、春の交通安全運動が実施されました。6日には柔道部女子25名、女子バレーボール部、学友会4名の総勢43名の学生が船岡駅前で行われた交通安全呼びかけ運動に参加し、柴田町町長、大河原警察署長のあいさつに続いて一斉にチラシを配布するなどして交通安全を呼びかけました。

今回の運動では、子どもと高齢者の交通事故防止を基本とし、特に（1）自転車の安全利用の推進、（2）全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底、（3）飲酒運転の根絶が重点項目におかれました。

学生に交通安全への注意を促すとともに、教職員も気を引き締め交通安全遵守に努めましょう。

「体育施設管理士」認定証授与式

4月26日（木）にA棟大会議室において「体育施設管理士」の認定証授与式があり、第6回仙台大学体育施設管理士資格認定試験に合格した48名に朴澤学長から認定証が授与されました。体育施設管理士とは、（財）日本体育施設協会が付与する、体育施設の維持管理や運営に必要な知識・技能を認定する資格です。式では朴澤学長より「資格を取ることよりも、その資格をどう生かすかが大事。この資格をそれぞれの職場で有効活用してほしい」と激励されました。

柴山一仁先生　柴田町住民の心の温かさに感謝

加納さんの奥様とお孫さんの佐間りつき君

大学近隣に住む加納宅に、4月に着任した柴山助教が約2週間、居候させていただき、たいへんお世話になりました。たいへん心温まる事案でしたので、ご紹介致します。

柴山助教

宮城県は東日本大震災後に津波の被害を受けた方々が内地のアパートを間借りしているため、空いている物件が見つからず、採用通知をいただいてからアパートを探すのが大変でした。ようやく見つけたアパートも入居できるのは4月中旬からということで、3月下旬に大学に電話で4月中旬までの期間を過ごす場所がないか相談させていただきました。

庶務課の方のご尽力により、大学近隣の加納さん宅に4月1日から2週間ほど居候させていただけることとなりました。はじめは2階の一室に泊めていただくだけのお話でしたが、奥様がたいへん面倒見の良い優しい方で、3日目ぐらいから朝・夕飯を、4日目からはお風呂も、1週間後にはお酒までいただきました。居候させていただくだけでもありがたいのに、最高のおもてなしにあずかり、たいへんありがたかったです。

宮城県に来てまだ間もないですが、加納さんのような人にも会えましたし、東北の方たちは関東地区よりも譲り合いの精神があるように感じ、風土的にも親切な人が多い印象を受けています。

加納さんご夫妻には2週間もお世話になり感謝の念でいっぱいです。大学から近いので、今後も時々お菓子でも持って顔を出して交流できればと考えています。

創立45周年記念事業としてベガルタ仙台ホームスタジアムに看板設置

開学45周年記念事業の一環として、サッカーJ1ベガルタ仙台のホームグラウンドであるユアテックスタジアム仙台に本学の看板を掲出しました（窓口：事業戦略室）。これまでも固定看板を設置しておりましたが、今回の看板はデジタル画像に映し出す仕様で、文字が前後左右に動く、たいへん目立つ看板です。ベガルタ仙台を応援の際には是非、ご覧下さい。

J1ベガルタ仙台・奥埜博亮選手からユニフォーム寄贈

今シーズンJ1ベガルタ仙台に入団した奥埜博亮さん（平成23年度卒）から大学にユニフォームを寄贈いただきました。特別指定選手として在学中に着用していた背番号35のユニフォームです。体操の植松鉱治選手（KONAMI）や柔道の田中美衣選手（了徳寺学園職員）のユニフォームとともに学長室に展示してありますので是非、ご覧下さい。

お花見レガッタ　～ボートシーズン開幕～

※写真提供：石森職員

4月1、2日にボートのシーズン幕開けとなる「お花見レガッタ」が埼玉県戸田市で開催されました。この大会に本学からは、男子エイト、女子舵手つきクォドルプルの2種目にエントリーし、女子クォドルプルが優勝、男子エイトは6位という成績を収めました。第一日目は悪天候のためレースが中止となるアクシデントもありましたが、学生はしっかりと戦い、今年度の良いスタートを切りました。今回のレースにより、冬季のトレーニングの成果を実感するとともに、各種の課題も明確になったようです。

今年こそチーム最大の目標である「インカレ・全日本選手権」での日本一を果たしてくれることでしょう。

Sports For All ～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

Sendai University Public Relations

SENDAI UNIV.

Monthly Report

Vol.73 ／ 2012 May.

学生食堂の愛称が「なちゅら」に決定

学内で「食の学びの場、癒しの空間」をポリシーとした学生食堂の愛称を募り117通の応募がありました。学食愛称選考審査員6名の厳正な選考の結果、成澤舞さん（運動栄養学科2年／酒田西高卒）の「なちゅら」に決定しました。5月19日（土）には学生食堂愛称披露式が行われ、愛称・ロゴマークの披露と、最優秀賞・優秀賞・佳作の各賞の表彰、選考審査員の方への感謝状贈呈が行われました。近々、「なちゅら」のロゴマーク看板が学生食堂に掲示される予定です。

最優秀賞	「なちゅら」	成澤（なりさわ） 舞（まい）さん（運動栄養学科2年）
優秀賞	「Dreamer」	畑（はた） 恭平（きょうへい）さん（運動栄養学科3年）
佳　作	「Hawkers」	細川翔貴（ほそかわしょうき）さん（体育学科2年）
〃	「SUPECS」	佐藤幸子（さとうゆきこ）新助手（平成23年度卒）

成澤 舞さん(運動栄養学科2年)

学生食堂を「食の学びの場」、「癒しの空間」と考え、自然を意味する‘Nature’と‘Natural’の言葉を組み合わせて「なちゅら」というネーミングを考えました。平仮名表記にしたのは柔らかなニュアンスと和める雰囲気を込めたかったからです。

今まで「学食」、「食堂」と呼んでいたのを突然「なちゅら」と呼んでと言われても難しいかもしれないですが、呼んでくれる人が増えたら嬉しいです。

目　次

学生食堂の愛称が「なちゅら」に決定	1
ノアフュンス国民大学と締結 仙台大学高校会へ感謝状	2
平田教授が永年勤続表彰 アナリスト渡辺氏講演	3
学術会：新任教員発表会 第3回体育祭	4
仙台国際ハーフマラソン JICAプログラムに参加	5
早川先生の研究紹介 プール解体工事はじまる	6
OBの活躍	7
学生の活躍	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
直通　0224-55-1802
内線　佐藤美保　256
　　土生佐多　200
　　伊東宏之　271
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

ノアフュンス国民大学（デンマーク）と国際交流協定締結

5月21日（月）、デンマーク国に所在するノアフュンス国民大学のMogens Godballe学校長と、日欧文化交流学院の千葉忠夫理事長が来学し、A棟大会議室において国際交流協定の締結を行いました。ノアフュンス国民大学は日本人留学生も多く在籍している学校で、本学からも健康福祉学科3年の三浦多輝美さんが現在留学しています。また、高橋まゆみ准教授や卒業生の二宮ゆかりさん(平成20年度卒)がデンマークに留学して社会福祉国家の実情を学んだ際にもご尽力いただいており、今回の締結により、更なる教職員・学生の交流、情報交換活動交流等を行う予定です。

調印式後にはB104教室において “世界一幸福な国”といわれるデンマークの社会福祉の仕組みや学校教育についてご講演いただきました。千葉氏からは「日本は幸せな国か？どうすれば幸せになるか？」との問題提起がなされ、そのテーマについて受講した健康福祉学科の学生約70名と共に意見を出し合い、解決策を探りました。

カヤーニ応用科学大学のTuro学長が来訪

4月29－5月2日に国際交流協定を結ぶカヤーニ応用科学大学（フィンランド共和国）のトュロキイルパライネン学長と教員2名が来仙し、今後の両大学間における国際交流に関しての協議や施設見学等を行いました。今回の協議では、相互の留学や共同研究、プラクティクストレーニング等について話しあいが持たれました。

仙台大学高校会へ感謝状

第5体育館に壁掛け時計を寄贈いただいた仙台大学高校会（宮城県内の高校教員になられた本学同窓生で組織）に感謝の念を表する感謝状贈呈式が5月19日（土）に学生食堂で執り行われ、朴澤学長より高校会の滝川雅啓会長（4回生）に感謝状が贈呈されました。

平田忠教授が永年勤続者表彰を受賞

5月11日（金）に法人事務局で永年勤続者表彰式が行われ、佐藤宏専務理事、藤田・齋常務理事、櫻井理事が臨席のもと、朴澤理事長より平田教授に表彰状と記念品が授与されました。この賞は本学園に教職員として25年在職した方に授与されるもので、本年度の対象者は平田忠教授お一人でした。

※撮影：日野職員（法人事務局）

第26回管理栄養士国家試験合格者

今年3月に行われた第26回管理栄養士国家試験の合格発表が5月7日に行われ、本学運動栄養学科卒業生6名がこの難関の合格を果たしました。今年の合格率は栄養士養成施設の全国平均22.9%を上回る23.1%で、東北所在の栄養士養成課程の中では26校中7位という結果でした。

真木瑛新（まきあきら）助手（平成22年度運動栄養学科卒）

自己採点では合格ラインをギリギリ上回る点数だったので、合格できて「ホッ」と安心しました。本格的に勉強を開始したのは、11月末に仙台大学修錬会が行った「合格した先輩方の体験談」に参加してからです。「今からでも十分間に合う」との話を聞いてから、平日は毎朝3時00分～7時00分まで勉強し、土・日は東京アカデミーの講座を4コマ（9時40分～17時00分）受講して頑張りました。

今回の試験では、東日本大震災の影響で4月1日から働くことができなかったため、1年間の実務経験の見込みがもらえず、受験資格を得ることができなかった同期もいます。また、後輩たちはこれから受験を迎えます。今度は私が体験談を伝えて、少しでも力になっていきたいです。

また、個人的には管理栄養士資格に合格したことで、スポーツ栄養士の受講資格を得ることができました。今度はスポーツ栄養士資格取得を目指して勉強を続けていきたいと思います。

全日本女子バレー「火の鳥NIPPON」アナリストの渡辺啓太氏が講演

撮影：大黒ゆきこさん（ISIM情報戦略グループ）

5月29日(火)に全日本バレーボール女子チーム「火の鳥NIPPON」アナリストとして活躍されている(公財)日本バレーボール協会の渡辺啓太（わたなべけいた）氏を講師に招き、スポーツ情報マスメディア学科の授業「スポーツ起業論」と「スポーツ情報戦略フォーラム(主催：スポーツ情報マスメディア研究所情報戦略グループ)」で講演して頂きました。

渡辺氏がアナリストを務める女子チームはこの2日前(27日)まで行われた世界最終予選でロンドンオリンピック出場を決めたばかりで、忙しい合間を縫って講演していただきました。「スポーツ情報戦略フォーラム」には男女バレーボール部を中心に約50名の参加があり、学生からの質問に渡辺氏が答える形で進められました。タイムリーな話題であること、男子バレーボール部が学生アナリストによるデータバレーをチームの戦略に取り入れていることもあり、学生たちから積極的な質問が出されていました。

渡辺氏は「パーセンテージの使い方は分母が低いほど次の1本によって大きく数字が変わってくるものなので、よく考えて示すことを心掛けている。」との話や、選手に向けて「1試合での数字をみて判断するのではなく、シーズンを通したデータを見て自分の課題を見つけるべき」など、第一線で活躍されている方の意見に学生たちは真剣に聞き入っている様子で、大変有意義な講演会となったようです。

平成24年度 新任教員発表会(主催:学術会)

5月22日（火）に第74回学術集会「平成24年度新任教員発表会」がA棟大会議室で開催され、4月に着任した9名の先生方よりこれまで取り組んできた研究内容や今後の研究計画等について発表がなされました。一人5分という限られた時間での発表でしたので先生方は時間内にまとめるのに苦慮された様子でしたが、それぞれの先生方の特徴をみて取ることができ、たいへん有意義な発表会となりました。

発表者	発表テーマ
入澤 裕樹 助教	体育科教育におけるベースボール型教材開発の検討
門野 洋介 助教	これまでの研究と仙台大学での研究計画
桑原 康平 助教	仙台大に着任するまでの活動報告&現在の活動報告
柴山 一仁 助教	110mハードル走の競技力向上に関するバイオメカニクス的研究
鈴木 良太 助教	跳馬における踏切り技術に関する伝承論的研究
高橋 陽介 助教	明成高校男子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰとしての活動報告と実績
田中 智仁 講師	警備業は学問になりえるか
藪 耕太郎 講師	二元論的スポーツ史像の再検討
山梨 雅枝 助教	学校教育におけるコンテンポラリー・ダンスの導入による発展的学習について

第3回体育祭

～学生同士の交流の場～

5月19日(土)に第5体育館を会場にして体育祭が開催されました。このイベントは学生同士の交流の場を提供し、クラスやサークル以外の交流を深めてもらうことを主目的として学友会および学生有志が中心となって開催しているものです。1、2年生を中心に約220名の参加があり、バレーボール、バスケットボールを介して交流を深めました。体育祭終了後には表彰式を兼ねた打ち上げ懇親会が学生食堂を会場に開催され、学生同士で大会の慰労しながら交流を深めました。体育祭を企画から進行まで務めた学友会および学生有志の皆さん大変お疲れ様でした。

[総合成績]
- 第1位　健康福祉学科1年C2クラス
- 第1位　健康福祉学科1年C1クラス
- 第2位　運動栄養学科4年生チーム
- 第3位　UNEI3＋α

[バレーボール成績]
- 優 勝　健康福祉学科1年C2クラス
- 第2位　UNEI3＋α
- 第3位　体育学科1年Fクラス

[バスケットボール成績]
- 優 勝　健康福祉学科1年C1クラス
- 第2位　運動栄養学科4年生チーム
- 第3位　留学生チーム

第22回　仙台国際ハーフマラソン

5月13日(日)仙台市内において、第22回仙台国際ハーフマラソンが開催されました。朴沢学園も開催に協賛し、ＣＭ放送で明成高校と仙台大学開学45周年をＰＲしました。

今年も仙台市と姉妹都市をむすぶ各国からの招待選手やロンドンオリンピック出場が決定した藤原新選手はじめ国内からも招待選手を招き、過去最高の参加者1万1300人のランナーが晴天のなか、杜の都を走り抜けました。

本学からは笹川スポーツ財団から助成金を受けている研究の一環として、柴田恵里香助教が大会当日にランナーへアンケート調査を実施しました。調査に関しては、仙台市スポーツ振興課と観光交流課からの協力を得ることができ、アンケート回答者へは観光交流課から提供を受けた仙台市の絵ハガキ４種類が記念に手渡されました。

本学の学生９名も調査員として参加し、積極的にランナーに声をかけ配布や回収作業を笑顔で行いました。今回の調査活動に参加した学生たちは、それぞれの卒業論文等に向け、調査経験を積むこともできたようです。アンケートは用意した６００部がすべて１時間半程度で配布終了してしまうほどの盛況ぶりでランナーの積極的な態度が伺えました。

今回の調査の主な内容は、県外からこの大会参加のために訪れたランナーがどのような情報検索を経て参加しているか、またそれによって彼らが仙台市へどの程度の経済波及効果をもたらしているかを把握することでした。この調査内容に、スポーツ振興課だけでなく観光交流課も興味を示しており今後集計がまとまり次第、仙台市へも報告される予定です。調査から得られた結果をもとに、今後の大会運営だけでなく仙台市におけるスポーツ・ツーリズム（スポーツを主目的とした旅）の発展の道筋に繋がっていくことが期待されます。

マラソン終了後には各国の招待選手団との国際姉妹都市等交流会がにぎやかに開催され、姉妹都市中国長春市出身の本学留学生たちも学長らとともに参加し交流を深めました。

中国長春市からの選手団、
劉瑞芬（りゅうずいふん）さん、田源（てんげん）さん、
張賀（ちょうが）さんと本学関係者

※撮影：遠山職員（事業戦略室）

JICA「世界の笑顔のために」プログラムに参加

国際協力機構（以下：JICA）が主催している平成24年度第1回「世界の笑顔のために」プログラム（http://www.jica.go.jp/partner/smile/）に賛同し、槻山朋恵（つきやまともえ）さん、佐々木里花（ささきりか）さん（共にスポーツ情マスメディア学科4年）、奥山隆寛（おくやまたかひろ）さん（体育学科4年）、手代千賀（てしろちか）さん（健康福祉学科3年）の4人が中心となって学内で不要になった物品の提供を呼び掛けました。回収期間は4月9日～5月21日で、サークル単位でバレーボール用品、サッカー用品、野球用品などが集められました。それらの物品は5月24日（木）に学生有志が一つひとつ丁寧に梱包し、JICAへ送りました。

このプログラムは開発途上国で必要とされている教育・福祉・スポーツ・文化などの関連物品を日本国内で募集し、JICAがボランティアを通じて世界各地へ届けるプログラムです。本学では社会貢献事業の一環として平成19年の春から活動に賛同し、今回が9回目の活動となります。（※昨年度は震災があったためJICAのプログラムには参加せず、大学独自で被災地支援の目的で物品募集・提供活動を行いました）。これまで多くのスポーツ用品を提供し、各国から御礼状も多数届いています。

槻山朋恵さん（ｽﾎﾟｰﾂ情報ﾏｽﾒﾃﾞｨｱ学科4年）

佐々木里花さんと共に、1年生からこのJICA「世界の笑顔のためにプログラム」の活動に参加しています。これまでの活動では学内だけでなく、柴田町内にもポスターを張らせていただいて物品回収を呼びかけてきましたが、今回は学内に絞って回収の呼びかけを行いました。各サークルの協力により、今回のプログラムでは、軟式野球バット10本、バレーボール20個、サッカーボール12個をJICAに発送することができました。送ったものの他にもスポーツ用品が寄せられており、それらは秋の第2回プログラムで発送させていただきます。第2回プログラムの時にも再度、物品提供を呼びかけますので、引き続きご協力をお願いします。

早川講師の研究紹介
～スプリントトレーニングマシン（認知動作型トレーニングマシン）～

早川講師の研究計画に基づきC棟2階にスプリントトレーニングマシン（認知動作型トレーニングマシン）1台が導入されました。東京大学との共同研究としても使用されているこのマシンは基本的な身体動作である「歩く」、「走る」の動作を学習・改善するために開発（国際特許）されたマシンで、合理的で効率の良いフォームを身に付けることができます。もともとは陸上競技トップアスリートの競技力向上を目指したマシンとして実績を積んできましたが、体幹深部の筋肉を鍛え、骨盤や腰部の柔軟性の向上と、歩行動作の改善も図れることから、中高齢者や障害をもった方など低体力者に対する転倒予防など健康増進分野にも幅広く応用されてきています。なお、体幹深部筋を使うことが脳や神経を刺激し活性化させるなど、認知症の改善・予防効果があることも最近の研究で明らかになってきているそうで、脳梗塞などにより神経が機能しなくなったものを再構築することにも期待されています。

実際に、脳梗塞により左半身に麻痺を持つ、管理課の丸谷コンサルタントも週に1度、早川講師の指導を受けています。はじめは歩幅も狭く、麻痺する左足で上下運動することができなかったために自力でペダルを回すことができなかったそうですが、トレーニングを重ねるうちに、自力で左足が持ち上がるようになり、ペダルを回す操作ができるようになりました。50mの歩行テストを行い、トレーニング前後の比較を三次元分析で行ったところ、著しいフォーム改善と歩行速度の向上が認められました。

「他のリハビリもしているので、全てがこのトレーニングマシンの効果とは言えないが、はじめは自力で足が上がらなかったのが、今ではできるようになっているし、歩幅も広がり歩くスピードも速くなっているのは実感しています。大学には早川先生をはじめ、その道のプロがいるので、サポートしてもらい、幸せな環境で仕事ができています。」と話されています。

早川講師は4月にアメリカ・サンディエゴで行われた米国最大規模の学術学会「Experimental Biology Conference 2012」で、このマシンを使った研究「スプリントトレーニングマシンによる動作の質の改善効果」を英語で発表されています。

認知動作型トレーニングマシンはスプリントトレーニングマシンを含めて十数種類あるそうで、これらのマシンも徐々に導入していき、仙台大学からさらなる地域健康づくりへの貢献を目指しています。早川講師は「今までは、“筋トレ”や“有酸素運動”といった、いわば身体機能の部分的（パーツ）機能の強化が主眼におかれてきましたが、これからの時代は包括的運動神経系の活性化によるQOM（Quality of Motion動きの質）の改善がQOL(Quality of life生活の質)を決定づける重要な要素になっていくでしょう。」と話しています。

プールの解体工事はじまる

※5月31日、第2体育館キャットウォークから撮影

東日本大震災で使用が不能となっていた室内温水プールの解体工事がはじまりました。解体工事は7月末までで、解体後、同じ場所に新しいプール(室内、温水、25m)が建設される予定です。大震災以降、プールが使用不能ということで、水泳の授業や水泳部の練習は(株)アイリスオーヤマさんのご厚意により同社角田工場のプールを使用させていただきました。現在は仙南総合プール(柴田町内)を使用していますが、移動に時間がかかることもあり、新しいプールの竣工が待たれます。竣工は25年3月末を目指し、使用開始は4月からを予定しています。

OG田中美衣さん全日本体重別選手権大会で2位

～ロンドンオリンピックの夢は潰えるも堂々の2位～

5月12日（土）に行われた柔道の全日本体重別選手権大会（ロンドン五輪日本代表最終選考会）に、本学OGの田中美衣選手（了徳寺学園職員／世界ランキング5位）がロンドンオリンピック出場の望みを懸けて挑みました。田中選手が出場する女子63kg級には世界ランキング1位で世界選手権2連覇中の上野順恵選手（三井住友海上）がおり、大会前から五輪代表が確実視されていました。代表権2番手につけている田中選手は、上野選手を圧倒して勝利しない限り代表権を得ることは難しい状況でした。田中選手は初戦、準決勝と苦戦しながらも勝ち進み、決勝で上野順恵選手と直接対戦しましたが、判定の末、惜敗しました。

後日談で、田中選手は大会の1週間前に足首の靭帯を損傷し、立っていることもままならない状況だったということでした。そのような状態であっても、この権威ある大会で準優勝という素晴らしい成績を残したことは称賛に値します。田中選手は女子63kg級の代表補欠に選ばれており、今後、代表選手と共に強化合宿に参加することが決まっています。

5月28，29，30日には支援して下さった方々へのお礼の意味も込めて来学し、朴澤学長、南條充寿・和恵監督に挨拶を行うとともに、学生の練習に参加して共に汗を流しました。「4年後のオリンピックはまだ先ですし、とりあえず来年の世界選手権を見据えて取り組んでいきます」と話しており、今後の活躍にも期待されます。

植松鉱治選手　惜しくもロンドン五輪出場ならず

ロンドン五輪出場を懸けて植松鉱治選手（平成20年度卒）が体操のNHK杯兼ロンドン五輪最終選考会に出場しました。体操のロンドン五輪代表は4月7，8日に行われた全日本選手権と、5月4，5日に行われたNHK杯の4日間の合計得点で上位11人を対象とし、個人総合の上位者の他、種目別の鉄棒とゆかを重視したポイント制度を適用して選考されました。

植松選手がオリンピックに出場するためには、全日本選手権で個人総合13位（鉄棒二日目1位）であったものを、NHK杯で個人総合の成績を11位以内に上げ、さらにNHK杯の二日間のどちらかで1位の成績を出すことが必須で、それができれば鉄棒枠での代表選出の可能性が残されていました。

NHK杯での植松選手は、選考基準である個人総合11位の枠までに上げ、鉄棒で1位の成績をあげました。植松選手はこの大一番でこの条件を全てクリアーしたわけです。しかし、田中佑典選手(KONAMI)も同じく鉄棒で2度1位成績をあげたうえ、他種目のポイントで植松選手を上回ったため、代表権を獲得することができませんでした。植松選手は昨年4月の練習中に右膝前十字靭帯の断裂という大ケガから驚異的な回復力で復活を果たしてきました。惜しくもロンドン五輪出場は逃しましたが、今後の活躍に期待しましょう。

OBの細川優樹選手（大分三好ヴァイセアドラー）が若鷲賞を受賞

5月1－6日に大阪府立体育会館で開催された「第61回黒鷲旗全日本男女選抜バレーボール大会」において、本学OBの細川優樹選手（大分三好ヴァイセアドラー）が、大会の最優秀新人に贈られる若鷲賞に選ばれました。この賞はたいへん名誉あるもので、歴代受賞者には全日本代表選手など、送葬たる面々が名を連ねています。

細川選手が所属する大分三好ヴァイセアドラーもチーム初のベスト4に進出しています。細川選手の今後の更なる活躍が楽しみです。

5月15日（火）には卒業後はじめて来学し、在学中にお世話になった教職員に対して挨拶を行いました。

「若鷲賞を受賞できたことは、すごく光栄です。今大会ではスパイク決定率を60%超すことができた点は非常に満足していますが、課題であるディフェンス面にはなお課題が残りました。バレーボールの3大大会と言われるVプレミアリーグと黒鷲旗を通して、大学時代とは全く質の違う一流のボールに苦戦しています。そのボールに慣れることからやっていかなければならないと感じています」

漕艇部が全日本軽量級選手権大会で大健闘

写真提供：漕艇部

全国の大学・企業の漕艇部が出場する「第34回全日本ボート軽量級選手権大会」が5月18日～20日に埼玉県戸田ボートコースを会場に開催されました。本学漕艇部は、社会人も参加するこの大会で、男子エイト2位、女子舵手つきクォドルプル3位に入り、8月に開催されるインカレに向けて勢いをつけることができたようです。なお、今大会では本学卒業後も企業で競技を継続しているOBも多数入賞しています。

学生3名が世界学生フロアボール選手権 日本代表に

左から木村（恭）さん、鈴木さん、木村（太）さん

FLOOR BALL同好会の木村恭斉さん（体育学科4年）、木村太朗さん、鈴木雄太さん（体育学科3年）の3名が、5月23－27日にチェコ共和国で開催される「第5回世界学生フロアボール選手権大会」の日本代表に選出されました。

今大会で副キャプテンを務める木村恭斉さんは2年前に行われた第4回大会にも日本代表として出場しており、その時は6戦全敗で苦汁を飲んでいます。「前回大会後、世界に少しでも近づけるようにとの思いで2年間練習に励んできました。まだ世界とのレベルの差は大きいですが、チームが一丸となり前回大会では果たせなかった1勝を勝ち取りたいです。個人としてもアシスト・得点・守備でチームに貢献し、前回大会よりも成長したところを見せたいと思います。」と話しています。

フロアボールとは・・・

ユニバーサルホッケーと酷似したスポーツで、穴のあいたプラスチック製のボールとスティックを使い、ゴール数で争う競技。

仙台グリーンボウル　6月3日開催（入場無料）

東北学生アメリカンフットボール連盟主催

※仙台駅地下鉄構内に掲示

東北学生アメリカンフットボール連盟が主催する、東北アメリカンフットボール春期交流大会「第14回仙台グリーンボウル」が6月3日（日）にユアテックスタジアム仙台で開催されます。今年は仙台大学と日本体育大学の体育大マッチです。入場無料ですので是非、足をお運びください。

詳細は下記の仙台大学アメリカンフットボール部公式ホームページをご覧ください。
http://www9.ocn.ne.jp/~falcons/schedule.html#green

Sports For All ～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

Sendai University Public Relations

SENDAI UNIV.

Monthly Report

Vol.74／ 2012 Jun.

名取市教育委員会と連携協力に関する覚書を締結

6月21日（木）、名取市教育委員会と仙台大学は「連携協力に関する覚書」交わしました。今回の締結で、①児童・生徒の学校生活の支援、②教員養成や現職教員の研修、③生涯学習および生涯スポーツ事業への協力、④大学および学校における教育研究面での協力、⑤その他双方が必要と認める事業、において連携協力が図られます。本学A棟大会議室で行われた調印式では、名取市教育委員会の丸山春夫教育長が「名取市教育委員会はこれまで協定を結んだ前例がなく、仙台大学との締結が初めて。被災地の未来を担う子どもたちの元気・健康のために、ご支援ご協力をお願いしたい。」と挨拶され、朴澤学長は「名取市は復興に向けて大変な時期。可能な範囲で仙台大の持っている資源を活用いただき、また学生育成の観点からご協力ご指導いただきたい。」と話しました。

目　次

名取市教育委員会と連携協力に関する覚書締結	1
日本体力医学会東北地区東京おもちゃショーに出展	2
新任者紹介　白坂牧人氏 馬職員中国の番組に出演	3
海外留学・語学研修合同報告会	4
蜂須賀孝治さんが特別委指定選手に	6
本学ビーチバレーボールコートで高校生県大会	7
明成高校早坂さん紹介	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
直通　0224-55-1802
内線　佐藤美保　256
土生佐多　200
伊東宏之　271
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

日本体力医学会東北地区会第21回大会が本学で開催

写真提供：高橋弘彦教授

6月16日(土)、本学を会場として「日本体力医学会東北地方会第21回大会」が開催されました。

午前の一般研究発表では6演題がエントリーされ、山口貴久講師も「体育系大学運動部学生の傷害調査」について発表されました。

特別講演では、橋本実教授が「被災地における健康づくり支援」と題して講演を行い、本学が東日本大震災後に沿岸部の被災地において行ってきたボランティア活動、特に震災直後から継続してきたエコノミークラス症候群予防のための運動支援についての報告とその効果や今後の課題等について話されました。

午後から行われたランチョンシンポジウムでは、仙台に所在する楽天イーグルス、ベガルタ仙台、89ERSの3つのプロスポーツチームのジュニア育成コーチをシンポジストとして招き、本学からは鈴木省三教授が加わって「ジュニアアスリート育成の現状・課題・展望」をテーマとしてディスカッションが行われました。

本大会では鈴木省三教授が大会長、高橋弘彦教授が大会事務局長、竹村英和講師らが大会実行委員を務め、大会の準備や運営にご尽力されました。たいへんお疲れ様でした。

東京おもちゃショーに仙台大学ブースを出展

「発電床」の説明を行う吉井講師
写真提供：千葉コンサルタント

トヨタ自動車(株)の豊田章男社長に説明する千葉コンサルタント
写真提供：阿部篤志講師

国内最大規模の玩具見本市である「東京おもちゃショー2012」が6月14－17日に東京ビッグサイトで開催され、本学から吉井秀邦講師が研究している「発電床」の出展と、昨年10月に本学を会場に開催された「東北こども博2011」の様子をパネル展示して紹介しました。「東京おもちゃショー2012」は前半の2日間が玩具取引業者を対象とした商談見本市、後半の2日間が一般公開され、4日間で159,678人もの来場がありました。本学のブースにも発電床に1,577名、パネル展に314名の来場があり、本学の活動を知っていただく良い機会となったようです。

展示したパネルを制作し、会場でも来場者の対応を行った千葉コンサルタントは「玩具業界にとどまらず、色々な業種の方々が自分の企業や業界で生かせるヒントはないものかと探しながら来場しているのが目立ちました。昨年の東北こども博2011に参加した方も数名来場し、今年も参加したいと話される方や、発電床を試され実用化を期待していますと話す方もおり、本学の良いアピールの機会となりました。」と話しています。

また、前半の2日間ブースを対応した馬佳濛助教も「玩具業界で活躍されている本学OB数名も本学ブースに立ち寄り、仙台大学の社会貢献事業等を誇りに持たれていた様子だった」と話しています。

New Face ～新任者紹介～

トレーニングセンター担当新助手の白坂牧人（しらさかまきと）さん

≪プロフィール≫
愛知県出身。高校卒業後に父親の母国であるアメリカに渡り、カリフォルニア州立大学サクラメント校にて運動科学を専攻。その後、MLBニューヨークメッツ育成部門やNCAA１部モンタナ大学にてストレングス＆コンディショニングコーチとして勤務。2007-2008シーズンにはNBAサクラメントキングスにてインターンも経験。

≪有資格≫
CSCS、NASM－CES

≪教職員、学生のみなさまに向けて≫

日本に誇れるこの素晴らしいトレーニング施設で働く機会を頂けたことをとても光栄に思います。トレーニングがみなさんにとってより身近なものになるように、その奥深さや醍醐味をお伝えできればと思っております。見かけは外国人寄りですが、ちゃんと日本語話せますのでみなさん気軽に声をかけてください。

アイリスオーヤマ（株）ボート部所属の岩本亜希子選手が宮城県知事を表敬訪問し、ロンドン五輪出場の報告

ロンドンオリンピックに日本代表としてボート競技に出場する岩本亜希子選手（アイリスオーヤマ）が、日本ナショナルチームのヘッドコーチを務める阿部肇准教授らと共に宮城県庁を訪れ、村井知事に大会出場の報告を行いました。岩本選手のオリンピック出場はシドニー、アテネ、北京に続いて4大会連続4度目で、ロンドンでは女子ダブルスカルで表彰台を目指します。8日にはメトロポリタン仙台を会場に、アイリスオーヤマ(株)主催の壮行会が行われ、本学からも朴澤学長、阿部准教授はじめ白石川で共に練習することも多い学生代表が出席して五輪代表の祝福と、五輪での活躍を祈願しました。

馬（マ） 冬梅（ドンメイ）職員が中国遼寧省の番組に出演

馬 冬梅職員（大学院事務室）が故郷である中国の遼寧省で放映されている「青少年チャンネル」で紹介されました。この番組は、海外の大学に留学した後、現地の企業等に就職して活躍している人物にスポットを当て、これから留学を考えている方や、留学中の方に対して留学のメリットや方法を紹介しているものです。

遼寧省は日本の東北地方ほどの範囲で、6月14日の夜8時代に約5分間放映されました。馬さんの紹介と合わせて仙台大学の中国所在大学との提携も紹介されています。

スポーツ情報マスメディア研究所にご尽力いただき、この映像に日本語のテロップを入れたものを第3体育館壁面の大型スクリーンでも放映しますので、どうぞご覧ください。また、広報室ではDVDも保管しておりますのでご覧になりたい方はお声掛けください。

平成24年度　第1回海外留学・語学研修合同報告会

～5つの海外研修について学生が報告～

6月6日（水）17時30分よりF101教室において、学生たちによる「平成24年度第1回海外留学・語学研修合同報告会」が開催され、鎌田国際交流センター長はじめ教職員・学生が多数参加しました。

報告①ハワイ州立大学アスレティックトレーニング研修ビギナーコース

・日程：2月20－26日
・参加学生：10名
　成田大貴さん(体3)、外谷涼将さん(体3)、
　村松里美さん(体3)、山崎可奈子さん(体3)、
　船山美希さん(体3)、東舘亮太朗さん(運3)、
　渡辺　尚さん(運3)、山本康平さん(体2)、
　三好聖奈さん(体2)、小坂望美さん(体2)

ハワイ州立大学において、今回で14回目になるアスレティックトレーニング（AT）研修ビギナーコースに参加した10名は、ハワイ大学の施設、マッキンリー高校・イオラニ高校のATルームを見学、実際に選手をケアしている場面や試合前のトレーナー活動を見学し実践的な研修を受けることができたようです。また、現地ATCの方と直接話す機会も設けていただき、テーピングや脳震盪、ロルフィングという筋膜リリースの講義を受けた他、現地学生トレーナーとの対談の際には、日本とアメリカの学生トレーナーの立場の違いを実感したようです。人体や筋肉など仕組みを学ぶだけではなく、運営に関するマネジメントまでも学習できたことは、学生たちにとって充実したプログラムであったようです。

報告②ハワイ州立大学英語研修（NICEプログラム）

・日程：2月5－25日
・参加学生：6名
　須貝真実さん(体3)、高垣一枝さん(体3)、
　齋丸愛さん(運3)、海上拓哉さん(体2)、
　嶋田直人さん(健2)、鶴巻雄大さん(現2)

英語研修は、3週間の日程で学習するプログラムで、初日に実施された英語力テストによってクラスが振り分けられました。学習は全て英語で行われ、わからない英語も辞書やジェスチェーを使って進められました。講義はゲームが取り入れられたり、設定されたシチュエーションで話すことを要求されたりと、最後まで集中力が切れないような授業が展開され、充実したものとなったようです。また、プログラムの中に、ピクニックやアクティビティー、フラダンスのセッションも含まれており、実践を通して英語を学べることで「英語がより好きになった」と話す学生もいました。

報告③カヤーニ応用科学大学短期交換留学プログラム

・日程：2月6日－3月1日
・参加学生：3名
　泉　幸さん(健4)、松川瑛司さん(健4)、
　山田彩夏さん(健3)

日本で事前に準備した能楽、折り紙、俳句をカヤーニ応用科学大学の学生にプレゼンテーション等を行い、日本の文化を知ってもらういい機会になったようです。また、報告会を聴きに来ていた先生から「カヤーニ応用科学大のプログラムにするにあたり、どの程度の英語力が必要か？」との質問には、「中学校程度であれば大丈夫です。」と答えていました。誰にでもチャンスがあり、そして将来の自身の成長と人間育成としての幅を広げられる場がこの研修なのではないかという思いが伝わってきた発表でした。

報告④台東大学短期交換留学プログラム

・日程：3月4－29日
・参加学生：2名
　佐藤志帆さん(健4)、小林真衣さん(体3)

実施プログラムは、空中探索やサーフィン、スキューバダイビング等多種多様にあり、語学や異文化に触れることで多くのことを得られたようです。実施されたプログラムのほとんどがアクロバティックなものであり、その中で自分と向き合い、視野が広がったとの報告がありました。佐藤さんが一番印象に残っているプログラムは原住民との交流だったそうで、原住民が通う小学校で歌を歌ってもらったり、一緒に授業をしたりして普段体験できない貴重な経験ができたようです。
最後に「台湾では毎日が新鮮で刺激的でした。他国の教育にも触れ、同じ教育者を目指す学生との交流は、教育に対する意欲の向上はもちろん自分のスキルアップにも繋がったと思います。多くの人との出会いに感謝し、台湾で学んだ中国語を、留学生との交流に活かしていけるようにしたい。」と力強く語っていました。

報告⑤韓国体育大学校との国際交流協力校訪問プログラム

・日程：2月19－26日
・参加学生：5名（共に現代武道学科2年）
　大谷健太郎さん、渋谷正幸さん、
　千葉裕也さん、新沼智将さん、橋本力さん

韓国語での自己紹介があった後、韓国体育大学校が有する2つの大学が紹介されました。1つは専門エリート選手及び指導者の育成を理念にかかげて23種目29部のスポーツで構成された体育学部の体育学科。もう１つは生涯教育の先導的な役割を担う生活体育指導者を育成する生活体育大学についてです。その上で、「トレーニングセンターや学生寮の充実した環境が整備されていることが、選手強化にもつながっているのではないか」と分析していました。
韓国でも多くのオリンピック選手を輩出している大学で、実際に選手を拝見することができたことは学生にとって、貴重な体験になったようです。特にエリート選手の意識の高さや環境の良さに関心を持ち、日本の大学との強化体制の違いについて考えることもたくさんあったようです。

以上の報告があった後、鎌田国際交流センター長から「研修に参加した学生たちがそれぞれのプログラムで豊かな経験をしてきたことを感じました。海外に行った体験を消化するためにはおそらく時間がかかると思いますが、学んできた体験を少しずつ消化しながら今後の糧にしていただきたい。」と講評をいただき、報告会が終了しました。
今回の研修で学生も海外経験により異文化を直接体験したことで、国際理解を深めると共に、コミュニケーション能力も身につき自立心、積極性、精神力も強くなり視野が広がったことと思います。このような経験が留学やその後の国際交流活動の拡大につながり大きな可能性を秘めています。学生にとって実り多き研修となり、今後のさらなる意欲につながることでしょう。

＜報告：芦川尚子新助手、品田有佳新助手＞

サッカー部の蜂須賀孝治さんがJIベガルタ仙台の特別指定選手に

6月5日（火）、サッカー部の蜂須賀孝治さん（体育学科4年／桐生第一高卒）が日本サッカー協会から大学に所属しながらＪリーグの公式戦に出場できる特別指定選手に承認されました。本学では主にボランチとして活躍。昨年と今年のデンソーカップでは北海道・東北学生選抜チームとしても活躍し、今年の大会のベスト11にも選出されています。蜂須賀さんは既に練習生としてベガルタ仙台の練習に継続的に参加しており、今後の活躍に大きな期待がかかります。

日本サッカー協会ＨＰ
http://www.jfa.or.jp/training/topics/2012/42.html

U23世界ボート選手権大会の日本代表に内定

写真左：福田さん、右：池内さん

池内 風さん（いけうち わたる／体育学科4年）と福田 海人さん（ふくだ かいと／体育学科4年）が5月のU23代表選考会を経て、7月11－15日にリトアニアで開催される「U23世界選手権大会」男子軽量級舵手なしフォア日本代表クルーに内定しました。

池内さんは2年前の同大会にも日本代表クルーとして出場して7位入賞を果たしており、今大会でもチームを表彰台に導く活躍が期待されます。一方、福田さんは初の代表選出ですが、大学では池内さんと共にチームの中心選手として漕艇部をけん引しており、初の世界の舞台で活躍が期待されます。

池内風さん（体育学科4年）

2年前に初めて出場したU-23世界選手権では、0.4秒の差でAファイナルに進めず、たいへん悔しい思いをしました。今大会に挑む日本クルーは4人とも世界に十分通じる力を持っています。特に大学でもチームを組んでいる福田は、ストロークの長さと角度が取れる選手で一緒に戦えることはたいへん心強いです。私は出場する大会全てで優勝を狙っており、このスタンスは世界大会でも同様です。Aファイナルに残り、日本チーム初の優勝を成し遂げたいです。

福田海人さん（体育学科4年）

高校では全国大会での実績がなく、日本トップの指導を受けたくて阿部肇監督のいる仙台大に進学しました。入部当初は世界大会に出場できるとは微塵も思ってもいませんでしたが、阿部監督の指導や、周囲の方の応援があって日本代表をつかみ取ることができました。共に代表に選出された池内はチームで唯一、世界を経験していますし、大学でも互いに同じリズムを共有できるパートナーです。世界の舞台は初めてですが、4人全員が自分のパフォーマンスを全て出し切り、優勝を目指して頑張ってきます。

自分たちの活躍で、いつもボート部を応援してくれる柴田町の方々や昨年の震災で大きな被害を受けた被災地の皆さんに明るいニュースを届け、元気を与えられたらと思います。

本学ビーチバレーボールコートで高校生の全国大会出場をかけた県予選を開催

～東日本大震災の影響で未だ浜辺での大会が行えない現状～

大会を始めるに当たり、ルール説明のためデモンストレーションを行う本学ビーチバレーボール部員

本学ビーチバレーボールコートを会場にして、6月30日、7月1日の両日、高校生のビーチバレーボール全国大会出場をかけた予選会が開催されました。本来であればビーチバレーボール大会は浜辺で行われるものですが、東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手・宮城県の沿岸部で開催するのは未だに困難な状況であり、ビーチバレーボールコートを持つ本学に施設借用依頼があったものです。6月30日（土）に宮城県予選会、7月1日（日）に岩手県予選会が行われ、本学ビーチバレーボール部員も地域貢献の一環で大会運営の協力を行いました。

第21回 河北レガッタ2000

写真提供：漕艇部

6月23、24日に登米市長沼ボート場で開催された「第21回河北レガッタ2000」に本学の漕艇部が出場し、5種目で優勝を果たしました。また、本学OBである大元英照選手（アイリスオーヤマ：H19卒）もダブルスカルで出場し、2位を34秒引き離す圧倒的なレース運びで優勝しました。

今回の大会には会場である長沼で合宿中の本学准教授の阿部肇ヘッドコーチが指導する日本代表クルーも参加。本学の学生は日頃できない代表クルーとのレースを通じ、多くのことを学び取ることができたようでした。

[男子シングルスカル]
1位　浅野和也（体4）
2位　平山貴義（体2）
3位　峰野公貴（体1）

[男子ダブルスカル]
1位　大元英照・須田貴浩
(アイリスオーヤマ)
2位　石森靖明(教務課)・今井寿亮(体3)

[男子舵手付フォア]
1位　赤間拓哉(体4)・今野栄也人(体3)・武田圭司(体2)・本間功将(体1)・宮本将伍(体1)
2位　納城紘一(体4)・東久保大悟(体3)・門倉亨(体3)・阿部聖(健2)・今井寿亮(体3)

[男子エイト]
1位　福田海人(体4)・松岡真(体3)・池内風(体4)・外崎海舟(体3)・阿部大貴(体4)・吉田樹(運2)・林緩哉(体1)・畠山惇史(体4)

[女子シングルスカル]
1位　依田光(体4)

[女子ダブルスカル]
1位　中川ひかり(体2)・田中香加(体2)
2位　大角真央(運4)・小口桜子(体3)

同法人明成高校の早坂優子さん紹介

～FlOOR BALL部で主力選手として活躍～

本学FLOOR BALL部女子チームには、同法人である明成高校介護福祉科3年の早坂優子さんが所属し、主力選手として活躍しています。早坂さんは中学校1年生から仙台市を拠点に活動している社会人サークル「仙台MAX」でフロアボールをはじめると、すぐにその魅力に引き込まれたそうです。本学フロアボール部も当時は部員が少なかったことから同サークルに所属して活動していましたが、平成21年に単独チームを結成。この時から早坂さんは本学のチームに加わっています。「日本代表としてプレーしたい」と話す早坂さんは、片道約1時間かけて本学の練習に週4日参加し、時間の合間を縫って仙台MAXの練習に参加するなど受験勉強と両立させながらフロアボールに打ち込んでいます。「大学生は社会人の方と比べて年齢も近く、会話もプレーするのも楽しいです。そんなチームメイトと3連覇を誓って挑んだ春季東北大会（6月9、10日開催）では決勝で敗れ、たいへん悔しい思いをしました。練習を重ねて、フォワードが安心して攻めに行けるディフェンダーになりたいです。」と話し、更なるレベルアップを目指しています。フロアボール部は7月8日にも大会が控えており、活躍が期待されます。

なお、早坂さんは将来、特別支援学校教諭を目指しているそうで、本学健康福祉学科に進学し、フロアボール部で活動していきたいとの希望を持っているそうです。

早坂さんの担任で、本学健康福祉学科OBの髙橋祐也先生（平成18年度卒）も春季東北大会に駆けつけてくださり声援を送りました。

Sports For All ～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

Sendai University Public Relations

SENDAI UNIV.

Monthly Report

Vol.75／ 2012 Jul.

中国国費留学1期生の金井弘順（かないひろのぶ）さんが東北師範大学を卒業

大学2年(平成20年)の秋から中国国費留学生として東北師範大学で現代中国文学を学んでいた金井弘順さん(明成高卒)が予定通り4年間で卒業要件を満たし、7月1日に東北師範大学を卒業しました。中国国費留学ではこれまで東北師範大学大学院を修了した日野晃希さん(平成23年7月修了)、上海体育学院大学院を修了した笹井善仁さん(平成24年1月修了)がいますが、学部生としては初めての卒業生となりました。

金井さんは留学中も遠隔授業により本学の単位取得を並行して行ってきたため、本学の卒業に必要な単位は年度内に取得できる目途が立っており、来年3月の卒業が見込まれています。しかし、本学入学当初に金井さんが取得を志望していた栄養士免許と保健体育（中学・高校）免許の取得については、実習や実験があるため取得できておらず、卒業した後、科目等履修生として単位取得に励むそうです。

4年間の国費留学では、多くの人に出会い、良き先輩に指導され、人として大きく成長できたと感じているようです。また、留学中に遠隔授業等でお世話になった先生方への感謝の念も話していました。今後は勉強と共に中国語を生かせる企業を志望し、就職活動をしていくそうです。

目　次

中国国費留学1期生の金井弘順さんが東北師範大卒業	1
名誉教授称号授与式 朴澤学長が美深町訪問	2
夏季巡回ラジオ体操 みやぎ県民大学	3
仙台大学入試懇談会 「なちゅら」看板設置	4
学科一日体験会 海外外武道実習	5
KMCH使用について 仙台大学はただ今　節電中	11
学生の活躍	12

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
直通　0224-55-1802
内線　佐藤美保　256
土生佐多　200
伊東宏之　271
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

名誉教授称号授与式

7月10日（火）に学長室において阿部武彦先生（平成22年度退任）と宍戸勇先生（平成23年度退任）の名誉教授称号授与式が執り行われ、佐藤宏専務理事はじめ副学長、学科長が列席する中、朴澤学長から名誉教授の称号が贈られました。朴澤学長より「長年にわたってご活躍いただきありがとうございました。今後も大学運営の面でご指導いただきたい。」と話されました。
授与式の後にはA棟大会議室において食事会が行われ、その席でお二方よりご挨拶いただきました。
阿部武彦先生からは「仙台大学には長い間お世話になりました。称号を賜りまして本当にうれしく思っております。今後もよろしくお願いします」と話され、宍戸勇先生は「同窓生とは現在も縁があるので、今後も同窓生を通じて仙台大学をアピールしていきたい。」と話されました。

お二方には今年度も非常勤講師として教鞭を執っていただいており、これからも大学のためにご尽力いただきます。

※名誉教授の称号は（1）本学教授として15年以上勤務し、教育上または学術上、功労のあった方。（2）前号の年数には達しないが、本学教授として教育上または学術上、特に功績が顕著であった方。（3）学長として、特に功績が顕著であった方。に与えられます。

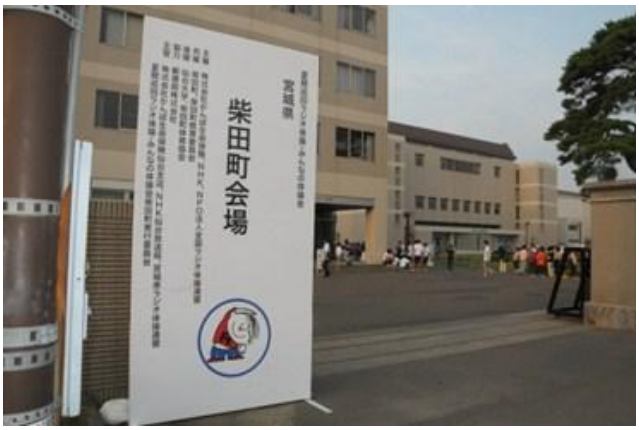
朴澤学長が北海道美深町を訪問し感謝の盾を寄贈

※写真提供：OB前田研吾さん

朴澤学長が7月17日(火)に、東日本大震災で被災した際に義援金支援をしていただいた北海道美深町を訪問し、山口信夫町長に「東日本大震災被災時、多くのお見舞い、激励をいただき感謝しています」との思いを述べ、震災復興の意思を込めた岩手県陸前高田市「一本松」の写真入り盾を寄贈しました。
美深町と本学は2007年に相互協力協定を結び、スポーツ振興を目的に子供たちの体力向上やタレント発掘活動を展開しています。日常的に取り組むため、スポーツクラブ指導員として毎年大学院生1名を常駐派遣しています。現在は大学院2年の大町祐太さんが常駐し、一昨年の派遣の後、同町職員に正規採用となった前田研吾さん（平成20年度卒業、22年度修了）と共に活動しています。今回の訪問の際にも、前田さんと大町さんがスケジュールの調整及び案内役を務めてくれました。

なお、朴澤学長の美深町訪問は、地元3紙(北海道新聞、北都新聞、名寄新聞)で紹介されました。

仙台大学を会場にラジオ体操
「夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会」を実施



7月29日（日）、本学グラウンド（陸上競技場）を会場に「夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会（主催：(株)かんぽ生命保険、ＮＨＫ他）」が開催され、午前6時30分－6時40分の10分間「NHKラジオ第1」で全国放送されました。柴田町から約2,000人の参加があり、本学からも留学生やサークル（硬式野球部・サッカー部・柔道部・漕艇部・新体操競技部・男女バスケットボール部・女子バレーボール部など）、教職員が参加しました。

放送には名川太郎氏のピアノ伴奏と体操指導の西川佳克氏の声が主となりますが、会場も一体となり、「いち、に、さん、し」という大きな発生で全国にみなぎる元気を送りました。なお、柴田町のイメージキャラクター「はなみちゃん」も参加し、会場を盛り上げていました。

平成24年度みやぎ県民大学仙台大学開放講座
～テーマ「武道から学ぶ安全・安心」～

7月の毎週火曜日（18時－20時）、「平成24年度みやぎ県民大学　仙台大学開放講座」を開講し、66名の方々に受講いただきました。今年は現代武道学科の先生方がはじめて講師を務め、「武道から学ぶ安全・安心」をテーマに、武道の応用による社会の安全・安心の実現について講義を行いました。

第1回講座　7月10日
「日本の伝統文化としての武道」
齋藤浩二教授

第2回講座　7月17日
「日本における社会の安全・安心」
―犯罪から身を守る　その1―
飯塚公良夫准教授

第3回講座　7月24日

「日本の護衛について」
―皇室の護衛経験から―
伊藤重孝教授

第4回講座　7月31日
「日本における社会の安全・安心」
―犯罪から身を守る　その2―
田中智仁講師

仙台大学入試懇談会

◇毎年開催の仙台会場

※写真提供：入澤助教

6月29日（金）仙台ガーデンパレスを会場に、仙台大学入試懇談会（平成25年度入学試験説明会）を開催しました。東北6県及び栃木県より、同懇談会開催以来最も多い98高校102名の進路指導担当教員の方々に出席いただきました。この結果は、高校側の本学への関心の高さとともに、入試創職部の営業努力の一つと言えます。

冒頭の朴澤学長の挨拶では、文部科学省の大学改革実行プランや仙台大学の専門教養教育の概要に触れ、本学の人材育成の取り組み等について説明を行いました。次に、鈴木省三副学長より仙台大学の強みである実践教育や競技力の育成、宮城県の教員採用試験の結果、新入生の就職志望動向などについて説明がされました。各学科長より学科の特徴・教育目標・進路等について1分間スピーチした後、渡辺入試担当課長より平成24年度入試結果及び平成25年度の入学試験の内容について詳細な説明を行いました。

同懇談会終了後には別室で個別相談会を行い、73校75名の進路指導担当教員が相談に来られ、特に指定校推薦枠に関する要望が多数寄せられたようです。

◇北海道の2会場で初の開催～北海道同窓生教員向け入試懇談会

7月14日(土)、15日(日)に北海道同窓生教員向け「入試懇談会」を北海道で初めて開催し、朴澤学長、丸山副学長、藤井（邦）教授、渡辺入試担当課長が2会場を回って本学OB教員に協力を仰ぎました。北海道ではここ数年で保健体育教員免許取得可能な学科を有する私立大学が増えてきており、本学への進学は減少傾向にあります。しかし、本学OB教員約80名が道内の高校で活躍しているなど「伝統」と「実績」では本学が勝っており、努力次第では志願者数を保つことが可能と考えられます。

14日(土)の札幌会場（ホテルポールスター札幌）には24名、15日に帯広会場（ホテル帯広東急イン）には15名の本学OB教員に参加いただきました。仙台大学の教育方針や特徴、北海道からの志願状況などを説明した後、大学側と本学OB教員との意見交換がなされ、本学OB教員から貴重な意見や要望を聞くことができ、双方にとって大変有意義な会となりました。意見交換後、懇親会を開催し、相互の連携、親睦及び交流を図ることができたようです。

学生食堂「なちゅら」看板設置

「なちゅら」を命名した成澤舞さん
（運動栄養学科2年／酒田西高卒）

学生食堂の愛称に決まった「なちゅら」のロゴ看板が7月20日（金）に設置されました。看板設置は3ヵ所で、道路側入り口、食券売機の上、学食カウンター柱の3ヵ所です。

7月22日（月）からは学生食堂を委託しているシダックス(株)から名前にちなんだ「なちゅら生パスタ」が期間限定で販売されています。

これからは「学食」や「学生食堂」ではなく**「なちゅら」**と呼称ください。

学科一日体験会を実施

※写真提供：菊地志織新助手

7月7日（土）に体育学科とスポーツ情報マスメディア学科、8日（日）に健康福祉学科、14日（土）に運動栄養学科と現代武道学科の「学科一日体験会」が実施され、3日間延べ人数351名(生徒262名、保護者89名)に来場いただきました。体験会では各学科の教育や特徴を理解してもらうための講義や実習を用意し、開催目的である「高校生に大学の中身をもっと知ってもらい、納得のいく大学選びをしてもらう」が実践できたのではないでしょうか。8月4日（土）にはオープンキャンパスが企画されています。引き続き盛会裏に終わるよう結束して頑張りましょう。

【参加実績】

7月7日（土）

・体育学科＆スポーツ情報マスメディア学科
参加者193名（生徒：144名　同伴者：49名）

7月8日（日）

・健康福祉学科
参加者73名（生徒：52名　同伴者：21名）

7月14日（土）

・運動栄養学科
参加者64名（生徒：50名　同伴者：14名）

・現代武道学科
参加者21名（生徒：16名　同伴者：5名）

現代武道学科　初の海外武道実習を実施

写真提供：中鉢職員（現代武道学科事務担当）

昨年4月に開設した現代武道学科が6月25－30日の日程で初の「海外武道実習」を実施しました。「海外武道実習」は2学年の発展科目で、海外における武道教育に関する学習体験の場として、本学と国際交流協定を締結している韓国・中国の大学を中心に日本の武道、韓国伝統武道、中国武術の理論・実技の実践と武道を通じての護衛や社会の安全・安心の確保の方策について学習することを目的としています。今年度は2010年に国際交流協定を結んだ韓国・龍仁（よんいん）大学で実施し、学生24名と現代武道学科の教職員3名（斎藤浩二学科長、田中智仁講師、中鉢芳尚事務担当）が参加しました。韓国には徴兵制度があることもあり先進的な警護教育が実践されています。龍仁大学も警護学科を設置しており、実習では警護理論や消防安全教育などの講義と、テコンドーや柔・剣道の実技を習得した他、同大学の学生と交流しました。また、ソウル市警察や大統領警護処の視察を行い、日本では体験することができない射撃実習（実弾不使用）の機会を与えて頂くなど、警備・警護が学問領域として確立している韓国で実践を学ぶことができ、たいへん有意義な実習となりました。

スペシャルオリンピックス日本・宮城　テニスプログラム2012 in仙台大学

スペシャルオリンピックス（SO）とは、知的障がいのある人々を対象に、年間を通したオリンピック形式による日常的なスポーツトレーニングプログラムの提供と、その成果を発表する場として地区大会～世界大会に至るまでの規模の異なる競技会を開催することで、彼ら彼女らの自立と社会参加の促進を支援する国際的なスポーツ組織です。

私が本学に赴任した翌年の平成8年以降、SO日本・宮城のテニスプログラムを本学テニスコートで毎年実施してきました。昨年は震災の関係で実施できませんでしたが、今年は4月8日～6月30日まで毎週土曜日の午前10:00-12:00の2時間、テニスコート及びハンドボールコートを使用して実施しました。9回目にあたる最終回は、8回の練習成果を発表する場として位置づき、技術レベルに応じた個人技能、あるいはノーアドバンテージ方式のシングルス・ダブルスなどの競技が展開されました。この競技会の結果は、全国大会出場の鍵を握る記録となります。

コーチはヘッドを仲野が、サブヘッドを社会人の方が、そしてプログラムマネジャーを健康福祉学科の後藤先生が担当しています。その他のコーチフタッフは、硬式テニス部の部員が中心となっています。アスリートの中には平成8年以降毎年参加している男性、また、昨年アテネで開催されたSO世界大会に参加し、金メダルを獲得して帰国した女性もいます。年齢も最年少は9歳、最年長は38歳と幅広いアスリートが参加しますので、コーチも幅広い年齢層のコーチが求められます。障害者スポーツに興味がある本学学生には、ボランティアコーチとして活動に参加してほしいと願っています。ちなみに、SO日本・宮城ではテニスも含め、現在13種目のスポーツプログラムが展開されています。

夏季種目：①陸上、②サッカー、③体操、④水泳、⑤テニス、⑥バレーボール、⑦バスケットボール、⑧卓球、⑨ボウリング、⑩ボッチャ

冬季種目：①アルペンスキー、②フィギュアスキー、③フロアーホッケー

3年後の夏季世界大会は、アメリカのロサンゼルスで開催されることになっています。私も選手団の一員（コーチもしくは役員）として参加しようかと考えているところです。

＜体育学科長　仲野　隆士＞

第2回 宮城県新規採用教員激励会

※写真提供：押切臨時職員

7月28日（土）に宮城県・仙台市の教員として今年度新規採用された卒業生22名を祝う「第2回宮城県新規採用教員激励会」がKKRホテル仙台で開催されました。昨年は「校長職就任祝賀会」と同時開催されましたが、本年は校長職への就任がなかったため、「新規採用教員激励会」単独での開催となりました。会には元仙台市教育長で本学園理事の阿部芳吉先生や元宮城県中学校校長会長で前本学教授の佐伯洋昌先生、本学OB教諭、本学園の教職員など51名が参加して、見事難関を突破して新任教員となった先生方を祝いました。

採用教員の挨拶ではそれぞれの思いが話され、七郷中学校の熊谷篤先生は「七郷中学校には仙台大学OBが私を含め3名いるので心強く仕事させていただいております。まだ着任して数ヶ月ですが、教育の現場には様々な壁があります。今日は諸先輩方がたくさんいらっしゃいますので、色々とお話を聞かせて頂き、今後の仕事に生かしていきたい」と話されました。

台東大学から3名の短期交換留学生

7月2日－8月2日、短期交換留学プログラムで台東大学から黄（ファン） 靖娟（チンジェン）さん、林（リン） 秀榮（ショウイン）さん、邱（チョウ） 琦玲（チリン）さんの3名が本学で学んでいます。体操・ダンス・柔道などの実技を中心に受講した他、日本文化体験として阿部武彦名誉教授が華道と茶道の体験や、宮城県内の見学などしました。また、健康づくり支援センターで行うエコノミークラス症候群予防運動指導に同行して女川町で被災した方々と交流しました。

韓国体育大学校女子柔道部が本学で強化合宿開催

7月3－13日の日程で、国際交流協定を締結している韓国体育大学校から女子柔道部員11名とチョン・ソンテ監督が来学し、本学柔道部員との合同強化合宿を開催しました。この合宿は2009年から互いの大学で毎年開催しており、本学での開催は3度目です。今回も相互に技術向上ができ充実した合宿となったようです。

台東大学留学生・韓国体育大学校柔道部合同ウェルカムパーティー

7月6日（金）に「台東大学短期留学生・韓国体育大学校柔道部合同ウェルカムパーティー」を学生食堂で開催し、教職員・学生・留学生あわせて約80名の参加がありました。会に先立ち朴澤学長から「短期間ではありますが、それぞれの目的を果たしてもらうと同時に、仙台大学の学生や日本との交流を大事にしていただきたい」と挨拶がありました。その後、台東大学からの留学生が登壇し、流暢に日本語で自己紹介を行い、名前や台東大学で所属している学科などを説明しました。次に韓国体育大学校柔道部員が登壇し、代表してチョン・ソンテ監督が「私たちは仙台大学の学生がオリンピックで金メダルを獲るまで大学に来続けます。共に頑張りましょう」と挨拶し、会場を沸かせました。

New Face ～新任者紹介～

地域健康づくり支援センター業務担当新助手の齋藤まりさん

≪プロフィール≫
宮城県出身。仙台大学運動栄養学科卒業後に青年海外協力隊としてマレーシアに渡り、2年間ボランティア活動を行う。現地では州の社会福祉局に配属され、地域に根差したリハビリテーション（CBR）をコンセプトに障がい者が通うセンターを巡回し、体を動かす機会の少ない利用者に対して、運動教室やスポーツ大会の開催を行った。

≪有資格≫
栄養士、栄養教諭二種、レクリエーションコーディネーター、ジュニアスポーツ指導員

≪教職員、学生のみなさまに向けて≫

無事にマレーシアでのボランティア活動を終え、6月末に帰国しました。新助手として、仙台大学に戻ってくることができたこと、とても嬉しく思います。周りのみんなさんに助けていただきながら、責任をもって職務に励みたいと思います。また、運動栄養学科の卒業生として、栄養の視点からも地域の健康づくりのサポートをしていきたいです。みなさん気軽に声をかけてください！

ドイツ留学中の郷野 茂さんからの便り

こんにちは。私は現在、ドイツ北西部ニーダーザクセン州にあるカール・フォン・オシエツキー大学オルデンブルク(オルデンブルク大学)に仙台大学からの交換留学生として在籍しています。３月初旬にドイツに来て、早４ヶ月が経ち、夏学期(日本でいう前期)を修了しました。ドイツは湿度の上がらない過ごしやすい夏を迎えています。

大学には様々な国から留学生が来ているので、外国人のためのドイツ語教室が充実しています。レベルが細かく分けられ多くのドイツ語講座が開かれています。私も週二回これに参加しました。去年の１０月頃から小松先生に教えて頂いていましたが、ドイツに来た当初は、相手の話していることが聞き取れず、自分の言いたいことも言えないという状況で大変苦労しました。今でも苦労はありますが、時が経つにつれて耳が慣れてきたのと、このドイツ語講座のおかげで少しずつ力はついていると思います。

大学では人間社会学部体育学科に所属しているので、スポーツ社会学に関する講義やスポーツ医学などの講義にも出席しています。当然のことながらすべてドイツ語で進められるのですが、普段の日常会話より難しい言葉が多く使われるので、正直なところ内容をあまり理解することができませんでした。しかし講義に出て驚いたのは、学生がプレゼンや討論、質問に全くためらいが無く、堂々としているということです。もし自分がもっとドイツ語ができればこれに参加できるのにと悔しい思いをしたので夏休みの間スキルアップに努めたいと思います。

オルデンブルクはあまり大きな町ではありませんが、中心部にはたくさんのお店や飲食店が立ち並び、郊外住宅地は閑静でとても住みやすい町です。残り約７ヶ月間、この町で勉強面でも生活面でも大いに楽しみたいと思っています。

郷野 茂

大学の外観

みなみたかのり

エアリアルで2014年ソチ冬季オリンピックを目指す南隆徳さん

主な成績

2009－10シーズン
・冬季全日本選手権大会　優勝

2010－11シーズン
・ワールドカップ　カナダ・カルガリー　18位
・ノースアメリカンカップ　カナダ・カルガリー　8位

2011－12シーズン
・ワールドカップ　カナダ・カルガリー　15位

今年4月に大学院に入学した南隆徳さん（北翔大卒）は、エアリアル（スキー・フリースタイル競技の一つ）の強化指定を受けており、2014年ソチ冬季オリンピック出場が期待されている選手です。南さんは北海道美深町の出身で、本学が提携する同町が進めるタレント発掘事業が輩出した選手です。競技終了後のキャリア、特にスポーツを通じての地域への貢献を視野に入れて本学への進学を決意。本学大学院「スポーツキャリア大学院プログラム（文部科学省委託事業）」の受け入れ第一号アスリートとして入学しました。南さんはソチ冬季オリンピック出場の目標を達成するために長期履修学生制度を使い、4年間での修了を予定しています。

≪南隆徳さんインタビュー≫

・エアリアルを始めた時期は？

高校2年からです。6歳からトランポリン競技を行っていましたが、高校2年の時にスキーの授業でエアリアルの全日本代表選手の合宿を見学したのがきっかけとなりました。トランポリンとエアリアルは競技特性が似ていることから種目転向する人も多く、私もスムーズに転向することができました。

・エアリアルの魅力は？

エアリアルの魅力はズバ抜けた高さでの中回りや捻りのダイナミックさです。ジャンプ台の規格は最大4メートル、進入スピードは約60キロ、着地点の角度は約40度と、急角度、急スピードの正にエクストリームスポーツです。しかし、エアリアル界は世界的にも競技人口が減少しています。小さな好奇心からでも良いのでエアリアルを皆さんに知ってもらいたいです。

・競技に関しての目標は？

ソチオリンピックへの戦いはすでに始まっており、夏の海外遠征が8月上旬から10月上旬まであり、冬には海外ツアーが待っています。ワールドカップという大舞台に全戦出場し、そこで決勝ラウンド進出を果たすことにより経験値を上げ、オリンピックに向けて良いスタートダッシュを切れるように最善を尽くしたいです。

・仙台大学大学院での目標は？

現在、日本のトップコーチやアスリートには次のステップに向けて、将来に備えて準備を進めていくことがとても重要だといわれています。仙台大学大学院では、競技活動を継続しながらも、競技終了後に足踏みをせず、即現場回帰、情報共有できるように知識を深め、将来、地域スポーツ事業の促進に繋げていきたいと考えています。

・ソチ冬季オリンピック出場権獲得に向けて

選手一人の力ではオリンピックという大舞台に立つことは叶いません。それを可能にするのは選手自身の努力はもちろん、応援・支持してくれる方々がいて下さってこそ成り立つものです。オリンピック出場に向けてより一層の覚悟を持って競技に取り組んで行きますので応援よろしくお願いします。

※写真提供：大町祐太さん（大学院2年）

KMCHの使用についてサッカー部　部長・監督・コーチが学生に見本を示す

クラブハウス（KMCH）はサークルによる自主的な管理が謳われており、清掃もサークルの持ち回りで担当することとなっております。この度、更衣室・シャワー室の清掃当番に当たっていたサッカー部が清掃を実施せず、またKMCH管理者からの催促後も改善がみられなかったことから、シャワー室利用禁止等のペナルティが課されました。

サッカー部ではこの事態を重く受け止め、部長の朴澤学長、監督の吉井講師、コーチで臨時職員の伊勢裕介さんと和泉隼さんの4名が「自分たちが部員に見本を示そう」と、7月20日（金）に男子更衣室の清掃を行いました。清掃終了後、KMCHを管理する吉田清担当課長に清掃終了の報告と、部員たちの意識改善に努めることが約束されました。

なお、写真は清掃の様子はKMCHとサッカー・ラグビー場のクラブハウスに掲示しております。

仙台大学はただ今　節電中

今夏は東北電力管内の節電数値目標(7月2日～9月28日)はありませんが、本学では被災地であるからこそ積極的に節電対策に取り組むべきとの認識に立ち、昨年と同様に節電を実施しています。昨年は節電目標765 kWを達成しており、これを鑑み、本学は今年の最大契約電力を750kWで結んでいます。この数値を超えると電気料金のペナルティーが科せられることから今年は700 kWを目標数値とし、節電に取り組んでいます。学生・教職員の皆さんにも節電へのご理解とご協力をお願いいたします。

[具体策]
1. こまめな消灯
2. エアコン設定温度28度
3. 廊下・体育館照明の間引き

2012年7月1日(日)～2012年7月31日(火)

電力量	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
デマンド[kW]	231.4	462.2	466.7	481.9	473.2	483.7	427.7	268.7	470.1	501.4	534.2	520.5	541.2	392	226.6	285.1	563.9	540.1	527.7	479	384.5	244.1	482.2	531.9	557.9	599.4	560	399.5	327.8	658	144.5
1日[kWh]	3861	6121	6438	6602	6945	7342	5519	3756	6380	7223	7873	7619	7801	5213	3674	4190	7517	7714	7536	6842	5493	4028	6326	7614	7520	8447	8250	5466	4961	9156	414
積算[千kWh]	3.9	10	16.4	23	30	37.3	42.8	46.6	53	60.2	68.1	75.7	83.5	88.7	92.4	96.6	104.1	111.8	119.3	126.2	131.7	135.7	142	149.6	157.1	165.6	173.8	179.3	184.3	193.4	193.8

皆さんのご協力により、今年の最大電力は、7月30日に記録した658kWです。

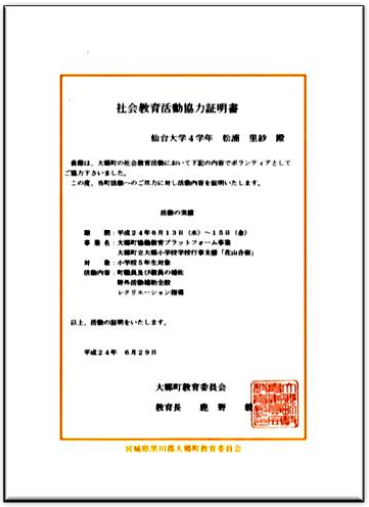
レクリエーション部の大郷小学校「花山合宿」支援

※写真提供：レクリエーション部

大郷町教育委員会が実施する大郷町立大郷小学校5年生を対象にした「国立花山青少年自然の家での宿泊体験会（通称：花山合宿）」が6月13－15日に行われ、レクリエーション部の松浦里紗さん（健福4年）、松田真実さん（健福3年）、水澤俊英さん（健福2年）の3名がボランティアとして合宿を補助しました。この合宿は2009年から大郷町内の小学校を対象に毎年実施されている行事で、ハイキングや野外炊飯、キャンプファイヤーなどの集団生活を介し、「互いを思いやる気持ち」、「助け合いの心」、「自ら進んで行動する力」などを養うために実施されています。今年4月に大郷町内にあった4つの小学校は統合され、大郷小学校として再出発し、児童68名と小学校教諭5名、大郷町教育委員会職員2名が参加しました。レクリエーション部は第1回開催から3～5名が毎年支援で帯同しており、今年も町職員及び教員の補佐、野外活動補助、レクリエーション指導等の役割を全うしました。

松浦里紗さん（福島西高卒）

合宿中は子供たちと同じ目線に立つことと、みんなが楽しく過ごせることを心掛けて行動しました。私は一昨年もこの合宿に参加していますが、その時は先輩に頼ってばかりで全体に目を配る余裕がなく、仕事をこなすだけでした。しかし、今回は全体を広く見渡しながら子供たちと接することができ、自分も小学生に戻った感覚で一緒に楽しむことができました。これは日頃のレクリエーション部の活動が自分を成長させてくれているのだと感じています。レク部の活動は児童館で小さい子の遊び相手や、高齢者レク、親子活動、障害者更生施設での活動、祭り補助、自然の家での活動、スポーツフェスティバルなど、接する人の年齢層の幅が広いため、人との接し方や集団行動などたくさんのことが学べます。今回の合宿でも先生と生徒の間に入ることで、利用者・参加者との間に入るときにどのようなことに注意すべきかなどの点で勉強になりました。


社会教育活動協力証明書

仙台大学４学年　松浦　里紗　殿

貴殿は、大郷町の社会教育活動において下記の内容でボランティアとして協力下さいました。
この度、当町活動一つのご協力に対し活動内容を証明いたします。

活動の実績

期　　間：平成２４年６月１３日（水）～１５日（金）
事 業 名：大郷町地域育成プラットフォーム事業
　　大郷町立大郷小学校学校行事支援（花山合宿）
対　　象：小学校５年生対象
活動内容：町職員及び教員の補佐
　　野外活動補助支援
　　レクリエーション指導

以上、活動の証明をいたします。

平成２４年　６月２９日

大郷町教育委員会
教育長　能　野　[illegible]

※城原黒川郡大郷町教育委員会

女子サッカー部が月1度 ゴミ拾い活動を実施

7月20日（金）の16時30分－18時までの1時間半にわたり女子サッカー部員が大学周辺の町内のゴミ拾いを行いました。これは地域に愛され応援されるサークルになることを目指す女子サッカー部が、平成23年5月から月1度行っている活動です。大学正門からサッカー・ラグビー場方面、船岡駅方面、船岡城址方面の3グループに別れ、4号線を通り、大学正面に出てくるルートで行われています。ゴミだけでなく路上に生えた雑草の除去も同時に行っており、毎回4、5袋分のゴミ・雑草が集められています。

主将の山田綾さん（運動栄養学科3年）

ゴミ拾いをしていると地域の方から「ありがとう」や「ご苦労さま」と声をかけてもらい、交流が持てるようになりました。ゴミは大学周辺に多く落ちていて、特にタバコの吸い殻やビニール袋が多いです。大学内で吸えないので外で吸うのは仕方ないとは思いますが、一人ひとりが常識を持った行動が問われるのではないかと思います。

トライアスロン期待の新星　小出未来（こいでみく）さん

トライアスロン部の小出未来さん（健康福祉学科2年／北海道別海高校卒）が7月1日（日）に那須塩原で行われたインカレ予選「2012東北学生トライアスロン選手権」で初優勝しました。トライアスロン競技をはじめてわずか1年での東北学生チャンピオンで、9月に香川県で開催されるインカレでの活躍が期待されます。

小出さんは中学までスピードスケートに打ち込んでいました。北海道の代表として海外遠征の経験もあるくらいの実力だったそうです。その練習の一環で行っていたバイク（自転車）練習が好きだったことと、高校では陸上競技部に所属していたほど走ることも好きで、その2種目が入っているトライアスロンに興味を持ち、入学後迷うことなくトライアスロン部に入部したそうです。しかし、スイムは授業で経験した程度の実力だったらしく、最初は恐怖心があったそうです。さらに小出さんが入部した2011年5月は震災の影響で大学のプールが使用不能となり、部が練習で利用していた亘理町の海岸も津波被害により立ち入りすらできない状況になったことで、隣市の角田市営プールでの練習を余儀なくされました。不便な状況で、思うようなスイム練習はできなかったそうですが、この困難な中でもできる事を積み重ね、「頑張れば何とかなる」「自分にはできるはず」と言い聞かせ続け、苦手のスイムを少しずつ少しずつ克服したそうです。

昨年のインカレでは、スイムで制限時間を切ることができずに無念の途中棄権となりました。スイム自体の練習不足の他、波や潮流への対応など、海でのスイム練習ができなかったことも響いた結果でした。

それから1年。震災で被災した道路も徐々に修繕され、少しずつロードで好きなバイクやランの練習も行えるようになりました。またスイムも、練習環境はさほど変わらない中で可能な限りの練習を積み、何レースかの大会経験も経た結果、1.5kmのスイムだけで1年間で10分以上も記録を縮めるほど成長しました。「インカレでは自己記録更新と15位以内を目指します。」と笑って話す小出さんですが、当面、『スイムを制限時間内にフィニッシュし、レースを完走する。』ことが今年の目標になりそうです。

「ゴールした時の、言い表せないほどの達成感がトライアスロンの魅力。」と話す小出さん。東北の女王として、9月2日、自身2度目のインカレに挑みます。

＜東北予選会結果＞

［男子］		［女子］	
7位	佐藤光希	1位	小出未来
9位	佐藤京太郎	4位	寺川　葵
14位	佐藤秀樹		

Futsal部4名が宮城県選抜として全国大会に

※写真提供：笹生講師

7月28、29日、石巻総合体育館において「全国選抜フットサル東北大会」が開催されました。フットサルは国体種目ではありませんが、この大会はいわば国体に相当する大会です。東北6県から選抜チームが集結し、9月15－17日に北海道・札幌市で行われる「第28回全国選抜フットサル大会」への出場をかけて熱戦が繰り広げられました。本学Futsal部からも宮城県選抜チームの選手として笹生心太講師、諏訪徹さん（体育4年）、加賀光太郎さん（健康福祉4年生）、古川貴仁さん（体育2年）の4名が選出されました。宮城県選抜は予選ブロックで山形県・福島県選抜に勝利、決勝でも岩手県選抜に11対2で勝利し、全国大会の切符をつかみました。大会には本学Futsal部員も応援に駆け付け、会場を盛り上げたようです。

詳しい結果は、専門のサイトをご覧ください。
http://mf10.jp/futsal/modules/news/index.php?page=article&storyid=2702

Sports For All ～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

Sendai University Public Relations

SENDAI UNIV.

Monthly Report

Vol.76／ 2012 Aug.

本学OB監督率いる2校が夏の甲子園に出場

～第94回全国高校野球選手権大会～

高校球児の夢の舞台である「第94回全国高校野球選手権大会（通称：夏の甲子園）」に本学OBの斎藤智也氏（17回生）が監督を務める聖光学院高校（福島）と宮良高雅氏（23回生）が監督を務める浦添商業高校（沖縄）が出場しました。聖光学院高は2回戦の浦和学院高（埼玉）に敗退したものの、1回戦では前年大会を制した日大三校（西東京）に勝利するなど、夏の甲子園6年連続出場の実績そのままに好プレーで甲子園を沸かせてくれました。

浦添商業高は1回戦で優勝候補の一角であった愛工大名電高（愛知）に勝利すると2回戦の滝川第二高（兵庫）にも勝利しました。3回戦では奪三振数で一躍注目を浴びた松井裕樹投手を要する桐光学園高（神奈川）に屈したものの、強豪校が多い沖縄大会をノーシードから勝ち上がった実力を如何なく発揮しました。

本学OBの監督は、昨年の夏の甲子園でも斎藤智也監督（聖光学院高校）と間橋康生監督（古川工業高校）が出場するなど49校という限られた者しか踏み入ることのできない甲子園の舞台でも活躍されています。OBの活躍がスポーツ界を盛り上げていることは、大学関係者としてもたいへん誇らしいことです。

目　次

本学OB監督甲子園に出場	1
オープンキャンパス2012 海外短期留学	2
宮城ヘルシー2012 事務職員研修会	3
海外留学レポート ～北欧デンマークから～	4
レクリエーション部 体操競技部インカレ結果	6
漕艇部インカレ結果 新体操インカレ結果	7
硬式野球部OB監督交流会 母校で再起を狙う	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
直通　0224-55-1802
内線　佐藤美保　256
土生佐多　200
伊東宏之　271
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

オープンキャンパス2012を実施

8月4日（土）に「オープンキャンパス2012」を実施し、936名（生徒712名、同伴者224名）の方々に来場いただきました。本学のオープンキャンパスは高校生に大学生活を体験・紹介することで、受験の判断や入学後のミスマッチ防止、パンフレットではわからない体育大学が持つ独特の雰囲気を体感してもらうことなどを目的に開催しています。学科毎の体験イベントや個別相談コーナー、本学学生が目指す職業として多い「保健体育教諭」と「スポーツを支える仕事」の講座・進路紹介などを行いました。

また、オープニングセレモニーでは本学OBである常盤木学園高校サッカー部の阿部由晴監督、聖光学院高校野球部の斎藤智也監督、ベガルタ仙台の奥埜博亮選手からのビデオメッセージを上映し、未来の後輩たちに向けて仙台大学の魅力などについて話していただきました。

［イベント内容］

- オープニングセレモニー
- ミニ講座「保健体育の先生の仕事」
- 進路紹介「スポーツ選手を支える仕事」
- 入試説明会／保護者対象ガイダンス
- キャンパスツアー
- 仙台大学の小論文対策講座
- 仙台大学の競技スポーツに関する展示会
- 全身反応時間・動体視力の測定体験
- 真夏に真冬の体験
- アスレティックトレーニング体験
- ボブスレー・スケルトン体験
- 軽スポーツ・ニュースポーツコーナー
- 手浴とハンドケア
- 骨密度測定で健康UP
- インボディ測定
- エクセル栄養君体験コーナー
- 運動栄養学科展示コーナー
- 運動栄養サポート研究会コーナー
- 調理実習体験コーナー
- 教員と在学生による個別相談コーナー
- ニュース番組制作体験
- スポーツに役立つ　情報活用プチセミナー
- スポーツ情報の最前線
- スポーツ現場での情報収集活動体験
- 誰でもできる護身術

第9回カヤーニ応用科学大学短期留学

8月29日－9月29日の日程で「第9回カヤーニ応用科学大学(フィンランド)短期留学プログラム」に参加する学生3名が8月21日(火)に国際交流センター長の鎌田教授、事業戦略室の福原職員と共に朴澤学長の元を訪れ、出発前の挨拶と留学に向けての抱負などを語りました。今回、留学するのは井上悟志(いのうえさとし)さん(スポ情マス3年／山形県長井高校)、大沼(おおぬま)さつきさん(体育2年／山形商業高校)、佐藤詩織(さとうしおり)さん(健福2年／宮城県築館高校)です。3名は、留学に向けての抱負として「語学力向上を図りたい」と話し、また、フロアボール部に所属する大沼さんと佐藤さんは「フロアボールは北欧で盛んな競技なので、少しでも学びとってきたい」とも話していました。3人は、フィンランド人をはじめ多くの国の留学生たちと共に、英語で開講されているクラスで学びます。

宮城ヘルシー2012ふるさとスポーツ祭

県民にスポーツ・レクリエーション活動を通して地域スポーツの振興に寄与することを目的として宮城県などが主催している「宮城ヘルシー2012ふるさとスポーツ祭」の大河原教育事務所管内大会が8月26日（日）に開催されました。大会は大河原教育事務所管内（2市7町）の持ち回りで開催されていますが、今年の担当であった柴田町では、震災の影響で町体育館が使用できないことから本学へ施設の使用依頼がありました。そのため本学第5体育館を会場に総合開会式と家庭バレーボールが開催されました。開会式では丸山副学長が朴澤学長の代理で挨拶し、「皆さんの日頃の練習の成果を十分発揮して頑張ってください」と祝辞を述べました。

本学ではこのイベントと合わせてレクリエーション部の「ニュースポーツ体験コーナー」、トレーナー部の「疲労回復のためのストレッチ・マッサージ体験コーナー」、地域健康づくり支援センターの「健康づくり運動教室」、菊地臨時職員とサッカー部学生による「わくわく大学探検」を開催し、日頃、大学との接点がない方に対して仙台大学の取り組みを知っていただくための企画のスポーツに接する機会を提供しました。また、女子バレーボール部は家庭バレーボールの運営補助として大会を支えました。

写真提供：菊地臨時職員

平成24年度学校法人朴沢学園「事務職員研修会」

8月10日（金）江陽グランドホテル（仙台市内）において平成24年度学校法人朴沢学園「事務職員研修会」が開催され、法人事務局13名、明成高校14名、仙台大学79名の、総勢106名の理事・職員が参加しました。

研修会では朴澤学長が訓育として、今年6月に文部科学省から公表された「大学改革実行プラン」の資料を使い、大学の質保障の徹底推進と確立の必要性について話されました。

次に、学生課の川村昭宏課長が、大学・高校で対応が問題視されている「クレーム対応」について、学校リスクマネジメント推進機構が主催した「保護者クレーム対応 実践技術 速習研修会」の報告と合わせて対応の方策についてご自身の考えを交えながら話されました。

その後、部外講話として河北新報社論説副委員長の原谷 守氏にご登壇いただき、「新聞の読み方　表と裏から」と題してご講演頂きました。ここでは東日本大震災の翌日も新聞を配達した河北新報社員の努力や苦労と、新聞社が震災を通して喜怒哀楽の感情を伝えるという本来の姿を取り戻した話や、大学へのアドバイスとして、不祥事が起きた際の初動の大切さと記者会見での注意事項、報道機関へのリリース発信時期などについて講話いただきました。

海外留学レポート－北欧デンマークから－（報告：高橋まゆみ准教授）

白夜の北欧デンマークは、日増しに涼しい季節へと移り始めています。デンマークは、日本から飛行機で約11時間、ほぼ北海道の面積と同じくらいの広さの国土に約550万人が住んでいる国であり、「福祉先進国」や「世界一幸福な国」として日本でも知られている国です。今回は、デンマークの福祉について学びたいという意思で、2012年4月から１年間の予定で留学をしている三浦多輝美さん（健康福祉学科）の学習や生活の様子についてレポートします。

8月30日4日目のクラスの風景　最後部座席が三浦さん

◇リレベルト大学インターナショナルコースがはじまる

三浦多輝美さんは、最初の4ヶ月間、今年5月に本学と国際交流協定を結んだノアフュンス国民大学の日本語による社会福祉コースに所属し、デンマークの社会福祉の制度について学びました。8月27日からは、リレベルト大学社会教育学部インターナショナルコースで生活指導教諭について学んでいます。「生活指導教諭」とは、デンマークでは「ペダゴー」と呼ばれている資格であり、幼稚園教育、学童保育、障害者の生活指導などを行うための指導者の資格です。小学・中学校の教員は教育学部で学びますが、生活指導教諭は社会教育学部で学びます。三浦さんの所属するインターナショナルコースは、秋季セメスター（8月～12月）のコースであり約4ヶ月間、英語による講義、演習、施設実習（幼稚園、障害者・高齢者福祉施設）を通して、生活指導教諭資格に必要な知識や技術を学びます。

クラスの人数は46名。学生の出身国はデンマーク、アイルランド、フィンランド、ドイツ、スペイン、リトアニア、スロバキア、チェコ、ハンガリー、ガーナ、ケニア、トルコ、日本。日本人は、三浦さんの他にノアフュン国民大学で一緒に学んだ琉球大学からの女子留学生と2名。このクラスの学生の年齢幅は、20～36歳（女性が3分の2以上を占める）。このコースの特徴は、様々な国籍と母国語を持つ人たちの集まりであることと同時に、年齢の幅があることです。これは、デンマークでは生活指導教諭の資格を得て仕事に就くためには、様々な生活経験や社会経験などを重視するということにあります。

学習形態は、4～5人から成るグループワークが中心です。4ヶ月間を2ヶ月ずつ前半と後半にグループ編成がなされます。三浦さんは、さっそく5人からなるグループに割り振られました（ガーナ、トルコ、チェコ、ハンガリー、日本人）。それぞれの母国語をもった学生が共通の英語でコミュニケーションをとりながら、オリエンテーションで与えられた3つの課題についてレポート作成とパワーポイントによる発表をします。三浦さんたちは、次週までに準備しなければならないと、慣れない英語を駆使しながら取り組んでいました。特に、インターナショナルコースでは各国の文化の違いを学ぶことが重視されるために、最初の課題はOur Countryについて英語で発表することになります。ただし、すべて一人で行うのではなく、グループでインターネットや図書館の資料を基に調べ、話し合い、教員との対話に応えるので、心配することなく協力しながら学習することができます。その結果、協力の気持ちが多いグループは、その分評価の高いものとなります。ここでは、どのように対話をし、いかに他人と調和を取りながら自分を表現するかが評価されるために、よい雰囲気作りの資質や技能がとても重要になります。

◇平坦な道路でサイクリング通学

次に、学生の生活面について、三浦さんのアパートを訪問した際にその生活環境について話を聞いてきましたので少しお話をしましょう。

①住居と生活について

住居は、リレベルト大学が不動産会社を通して学生寮としているアパートで、同大学の女子学生（日本人2名、チェコ人、スロバキア人）と4人での共同生活です。場所は、大学のあるオーデンセ市（人口19万）の中心駅よりバスで約30分のところにあり、大学まではバスをオーデン

学生寮(アパート)内の部屋の様子

セ駅で乗り継いで40－50分程度。三浦さんたちは、大学から自転車をレンタルすることができたので、その地区に住む同じ大学の学生たちと自転車通学をはじめました。デンマークは平坦な道が多く、今の季節はとても気持ちのよいサイクリングコースになります。

現在、住んでいるアパート（学生寮）は移民・難民の住むコミュニティ内にあります。アパート内は2階建てで広く作られており、広めのエントランス、1階にキッチン、ダイニング・リビングルーム、ランドリールーム、2階にバスタブ付きトイレットルーム、一人6畳ほどの個室が4部屋、学生4人で住むには快適な空間。食事は自炊で、食料の調達には一苦労している様子です。コミュニティ内のスーパーは彼女たちにとって慣れていないアラブ・イスラム系の人が経営しており、食材も不慣れなものばかりで雰囲気も彼女たちにとって少々不安とのことでした。そのため、アパートから少し離れたショッピング街に食料買出しをしているとのことです。

②学生へのサポート体制

現在は、デンマーク人でリレベルト大学の外国人世話係の学生1名が、さまざまな手続きについてサポートをしています。8月中旬、申請していた学生ビザがやっと取得できたとのことで、お世話係の学生と市民登録センターに行き、オーデンセ市個人登録ナンバー（CPRコード）取得の手続きをしてきたそうです。これが完了すればオーデンセ市民となり、パーソナルドクター（同コミュニティ内にいて、個人の医療に関するあらゆることを診てくれる医者）とパーソナルソーシャルワーカー（同コミュニティ内にいる個人の生活のあらゆる困りごとの相談に乗ってくれる社会福祉士）が付いて、さまざまな問題があったときにサポートしてもらえることになります。また、市の図書館利用や銀行の口座開設ができるようになり、医療費も無料になります。

三浦さんのアパートを訪問して、デンマーク国内とはいえデンマークとは異質の雰囲気の地区で少々驚きました。しかし、彼女との会話からの印象は、以前に比べてかなりタフに鍛えられた姿でした。慣れない海外生活で予想外の事態へ対処しながら、実生活を通して福祉システムを学んでいるようにも思えました。また、三浦さんは「ここでは言葉の壁があるので、英語とデンマーク語を必死に勉強しないとついていけないことを実感している」と話しながら、机の前壁に張られた英語とデンマーク語の単語用紙を見せてくれました。「他の日本人学生が一緒に学ぶので心強い」とも話していました。現在はオリエンテーションが中心なので、英語の歌を歌い、ダンスやゲームをしながらコミュニケーションをとる時間が多いようです。しかし、今後は実習も控えているので、大学の授業が本格的に始まるまでにできるだけ多くの語学学習をしたいと話していました。三浦さんにとって、海外での学習や生活面、そして語学の面で本当によい経験をしていると感じました。

学生寮(アパート)の外観

レクリエーション部がミヤギテレビ主催の「沖縄遊・YOU塾」を支援

教育授業の一環として「沖縄遊・YOU塾（主催：ミヤギテレビ）」が7月24－28日に開催され、小学校3年生から中学2年生までの180名の塾生が参加しました。本学レクリエーション部は2002年からシニアリーダーの大役を任されており、今年は日下汐莉（くさかしおり）さん（健福4年／白石女子高卒）、松下慧（まつしたけい）さん（健福3年／柴田農林高卒）、村上朋（むらかみとも）さん（健福3年／明成高卒）、松田真実（まつだまみ）さん（健福3年／尚絅学院高）の4名が随行しました。4人の主な役割は45名ずつに分けられた班に教員と共に一人ずつ付き、起床から就寝まで「班から離れている塾生はいないか」、「体調を崩していないか」などに目を配りながら行動することでした。さらに、年齢が近いお兄さん・お姉さんとして教員と塾生をつなぐ役割も果たしました。この他、懇親会やキャンプファイヤーではゲーム・ソング・ダンスといった様々なレクリエーション活動の提供も行い、塾生同士の交流や仲間作りにも尽力しました。

村上朋さん（健康福祉学科3年）

今回の沖縄遊・you塾には、レクリエーション部の中でも豊富な経験を持ち、安心して対応を任せられるメンバーで臨みました。180人という大所帯のため、行動する度に誰かがいなくなる・落し物が出るなどのトラブルが発生し、シニアリーダーは常にフルに動き回っていました。

今回、シニアリーダーとして参加させていただき、団体行動が苦手な子どもへの対応や、大人数・年齢幅が広範囲の集団へのレクリエーションの提供など、日頃の活動では経験できないことが多く、たいへん勉強になりました。卒業後は社会福祉士として地域の全ての年齢を対象に相談に応じ、助言や指導、福祉サービスを提供したいと考えており、今回の体験は就職後も活かせるものとなりました。

体操競技部インカレ結果

※写真提供：佐藤幸子新助手

8月22－24日に仙台市体育館を会場に第66回全日本学生体操競技選手権大会（インカレ）が行われ、本学体操競技部は男子団体で3位、男子個人総合でも杉本健太郎さん（体育学科2年）が9位に入りました。なお、今大会の個人1日目は平成24年度U-21の代表選考会にもなっており、1～3学年の上位12名の中に入った古谷嘉章さん（体育学科1年）と小原孝之さん（体育学科2年）の2人が強化指定選手の条件をクリアしました。今後、海外大会へも派遣される予定です。

なお、昨年のインカレで2部リーグから1部リーグに昇格した女子団体は、善戦及ばず最下位の10位となり、2部降格が決定しました。これから1年間、しっかり実力をつけて、1部復帰が待たれます。

男子団体：第3位
男子個人：第9位　杉本健太郎さん
男子種目別：跳馬　第2位　山本収一
　　：鉄棒　第2位　尾崎亮介
女子団体：第10位（2部降格）

漕艇部インカレ結果

※写真提供：(左)石森職員、(右)菊地事業戦略担当課長

第39回全日本大学ボート選手権大会（インカレ）が8月22－26日に戸田漕艇場で開催され、本学漕艇部は男子舵手つきフォアで3年ぶり2度目の優勝を勝ち取りました。

決勝・順位決定戦が行われた8月26日には、恒例となった柴田町ボート協会による「インカレ決勝応援バスツアー」が組まれ、40名を超える会員の皆様の温かい声援に後押しされて、選手たちは全身全霊をオールに込めて頂点を目指しました。

今大会では日本大学が他大学を圧倒し、男子8種目中7種目を制する中で、唯一本学が男子舵手つきフォアを制して日本大学の全種目優勝を阻みました。約3週間後の9月中旬にはボート日本一を決める全日本選手権大会が控えており、選手たちの更なる活躍が期待されます。

＜大会結果＞

男子舵手つきフォア	優 勝
男子舵手なしフォア	第4位
男子エイト	第5位
男子シングルスカル	第6位
女子クオドルプル	第4位

新体操インカレ結果

写真提供：番匠室長

新体操競技部が8月16－18日に愛知県豊田市のスカイホール豊田で行われた「第64回全日本学生新体操選手権大会（インカレ）」に出場しました。今年の女子団体総合は「ボール」、「リボン＆フープ」の2演技で競われ、本学は「ボール」5位、「リボン＆フープ」4位で総合成績5位となり、11月に開催される全日本選手権の切符を手にしました。8月20日には部長の大山教授、監督の河野新助手と部員が朴澤学長に結果の報告を行いました。

既に新体操競技部は全日本選手権に向けて、遠征から戻った翌日から新しい演技の練習に取り組んでいます。

女子団体総合	5位
ボール5	5位
リボン3＆フープ2	4位

女子個人　桑原玲美さん（体育1年）40位
男子個人　佐藤史弥さん（体育3年）28位

仙台大学硬式野球部OB監督交流大会

高校名	OB
鹿島台商業高校	佐藤 政信先生
東陵高校	千葉 亮輔先生
大崎中央高校	加藤 武彦先生
伊具高校	原田 一貴先生
志津川高校	松井 康弘先生
古川学園高校	福岡 梓先生
角田高校	宇和野 修先生
古川黎明高校	中鉢 修先生
柴田高校	平塚 誠先生
米谷工業高校	二瓶 智樹先生

8月9、10日に仙台大学硬式野球部OB監督交流大会が実施され、宮城県内で本学OBが監督・部長を務める10校の高校球児の熱戦が繰り広げられました。会場は仙台大学野球場、柴田球場、角田球場、柴田高校グラウンドの4会場を使用し、1チーム4試合ずつ行われました。

遠方から参加した5校の生徒137名はF棟3階に宿泊し、先生方12名は浴室棟に宿泊しました。大会では硬式野球部の40名が審判としてサポートに回るなどして大会運営を支えました。

9日には陣屋（柴田町内）を会場にして同窓生監督の懇親会が行われ、硬式野球部OBの半澤担当課長も出席し、交流を深めました。

写真提供：半澤事業戦略担当課長

OB細川淳矢選手、母校で再起を狙う

本学OBでサッカー選手の細川淳矢選手（平成18年度卒）が7月から、本学の施設（トレーニングセンター、アスレティックトレーニングルーム、サッカー場）を使って練習を行っています。細川選手は在学中の平成18年にJFA・Jリーグ特別指定選手としてベガルタ仙台の一員となり、平成19年に正式入団。ベガルタ仙台では持ち前のフィジカルの強さを発揮し、サイドバック・センターバックとして活躍しました。しかし、2011年シーズンを持って契約満了により同チームを退団しています。その後、移籍先を探すための合同トライアウト（12月開催）に参加しましたが、トライアウト中に右膝の前十字靭帯を損傷し、所属先を見つけることができませんでした。その後、1月に香港サッカーリーグ強豪の傑志（キッチー）への入団交渉を進めていましたが、練習初日に右膝の半月板を損傷し、メディカルチェックで手術が必要との判断から契約に至りませんでした。

2月の右膝手術を経て、現在ではほぼ回復しているそうで、これからも日本に限らず海外チームとの契約も視野に入れて所属先を探していくそうです。細川選手に新天地でのチャレンジを促したベガルタ仙台の手倉森監督も『Country Road 2011-2012』（ベガルタ仙台・市民後援会著）の中で、「細川はJ1昇格を狙うチームで堂々とやれる」と、その能力を認めており、1日でも早く所属先を決め、ピッチを躍動する姿をみせてもらいたいです。

皆さまも細川選手の応援をよろしくお願いします。

細川淳矢選手コメント

仙台大学には７月からリハビリを兼ねてアスレティックトレーニングルームやトレーニングセンター、サッカー場などの施設を利用させていただき大変感謝しています。必ず所属先を見つけ、再び皆さんに応援してもらえるように頑張ります。

細川淳矢選手の経歴

出身地：埼玉県鴻巣市
出身校：鴻巣市立吹上中学校
武南高等学校
仙台大学　平成15年4月 - 19年3月
・平成18年　全日本大学選抜
・平成18年　JFA・Jリーグ特別指定
プロ経歴：平成19－23年　ベガルタ仙台

仙台大学同窓会東海支部総会

8月18日(土)に仙台大学同窓会東海支部総会が名古屋市内（ローズコートホテル）で行われ、支部長の松下邦雄氏(1期生)をはじめとする同窓生11名が集結しました。本学からも朴澤学長、半澤担当課長(4期生)が参加し、情報交換するなどして交流を深めました。

写真提供：半澤事業戦略担当課長

Sports For All ～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

Sendai University Public Relations

SENDAI UNIV.

Monthly Report

Vol.77／ 2012 Sep.

デンマーク・リレベルト大学と協定書を締結

9月にデンマークを訪問し、リレベルト大学（University College Lillebaelt）と協定書を締結してきました。11日の調印式には地元オーデンセ市のテレビ局からの取材も入り、日本の大学との協定書締結への関心が伺われました。本学とデンマークの教育機関との協定書の締結は、本年5月のノアフュンス国民大学（Nordfyns Folkehøjskole）に続き、2校目となります。

デンマークは社会福祉制度の先進国であり、福祉関連の領域において、本学（ひいては日本）の学生が学ぶべき事柄や参考にすべき事柄が数多く存在するものと思われます。本学には既に、健康福祉学科の高橋まゆみ准教授がデンマークに留学し、何名かの学生がデンマークを短期留学・研修の地として選択している実績があります。また現在リルベルト大学に本学の学生の三浦多輝美さんが短期留学しており、来年度に同大学に留学を希望している学生もおります。もう一つの協定校であるノアフュンス国民大学では来年3月に本学の学生たちの2週間に亘る研修が予定されております（この研修は本年度日本学生支援機構から支援対象プログラムとして採択されております）。

今回のリルベルト大学との協定書の締結が、健康・福祉分野を中心とした今後の両校の教員・学生間の交流に更なる拍車を掛けるものと期待するところです。

報告：国際交流センター長・教授　鎌田幸雄

目　次

リレベルト大学と協定書を締結	1
9月期卒業式 節電目標達成の報告	2
愛知県私立大学事務局長会視察研修団が来訪	3
運動栄養学科がスポーツ栄養セミナー開催	4
JOC指定トレーニング施設へ就職内定	5
海外研修報告	6
OB・学生の活躍	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
直通　0224-55-1802
内線　佐藤美保　256
土生佐多　200
伊東宏之　271
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

平成24年度9月期卒業式

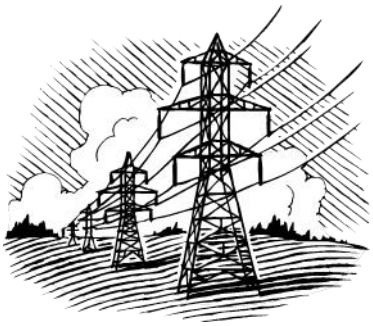
9月26日（水）にA棟大会議室において平成24年度9月期卒業式が挙行され、朴澤学長から卒業証書・学位記が授与されました。今回卒業を迎えたのは浅田克麻さん（体育）、今野亮さん（健福）、中泉翔さん（健福）の3名で、中泉さんは仕事があるため出席することはできませんでした。朴澤学長の挨拶では、「他の学生よりも長い期間大学に在籍したことをよい経験と捉え、仙台大学で学んだこといかんなく発揮され、今後の日本の発展に貢献していただきたい」と述べ、卒業生の挨拶では今野さんが「社会人として自立するとともに、地域スポーツに積極的にかかわっていきたい」などと述べました。

プール安全祈願祭・起工式

写真提供：管理課鈴木職員

9月11日（火）11時より、室内温水プールの安全祈願祭・起工式が執り行われました。以前の室内温水プールは昨年起きた東日本大震災により使用不能となり、今年5月より解体工事が行われていました。新しい室内温水プールの完成予定は平成25年3月です。

節電目標達成のご報告



今夏は、東北電力管内の節電数値目標はありませんでしたが、本学では「被災地であるからこそ積極的に節電対策に取り組むべき」との認識に立ち、昨年とほぼ同等の目標を設定して節電に取り組みました。具体的にはエアコンの設定温度を28度とした他、廊下や体育館照明の間引き、各々の意識による消灯の徹底等を実践しました。その結果、最大使用電力は690.9kW（8/4オープンキャンパスで記録）で、目標としていた700kWを下回ることができました。震災前の2010年夏の最大使用電力は900kWであり、23％の削減となりました。

これも偏に学生・教職員の皆さまのご尽力があっての達成です。今後も引き続き、無駄な電力消費をなくすことを心掛けていきましょう。ご協力ありがとうございました。

愛知県私立大学事務局長会視察研修団が来訪

9月4日(火)に愛知県私立大学事務局長会の視察研修団27名が本学に来訪しました。愛知県では「東海地震」、「東南海地震」、「南海地震」などのM8クラスの巨大地震が100－200年周期で発生しており、さらに8月末には内閣府から「最悪のケースでは死者32万3000人」という南海トラフ巨大地震の被害想定が発表されたこともあり、地震や津波対策への関心が急速に高まっています。そんなこともあり、今回の研修会は被災地である宮城県内の大学で実施され、本学も訪問先の1つとして研修団を迎え入れました。

研修では、災害ボランティア派遣の総責任者である山谷教授が「東日本大震災に際しての仙台大学の取り組み」と題しミニ講話を行い、地震発生当時の状況や大学の被害状況、原発事故対応に伴う留学生の帰国対応、仙台大学災害ボランティア活動などについて説明を行いました。その上で、大震災から学んだ教訓として「大学にとって学生の安否確認が最優先事項である。固定電話や携帯電話が機能しない状況下で、学生の安否を早急に確認する手立てを事前に構築しておくことが求められる。」と訴えました。

質疑応答では「安否確認のアクション方法について」、「災害ボランティアを受け入れる際の行政の窓口について」、「教職員の出勤体制について」など、活発な質問が出され、災害対策への関心の高さがうかがえました。

就職活動キックオフセミナー

9月21日(金)に3年生の就職活動をスタートさせる「就職活動キックオフセミナー（主催：創職作業チーム）」がB300教室で午前（体育学科生対象）と午後（その他の学科生対象）の2度開催されました。はじめに創職作業チームリーダーの齋藤博教授が、就職活動が始まる12月までに行うこととして、自己分析と業界・企業研究をあげ、「就職活動は学生側が企業を選択して面接先を選択するが、採用者を選ぶのは企業側。選んでもらうためには自己分析をしっかり行い、企業側に自身がアピールできる特徴を正確に伝えられる準備が重要。また、入社後に後悔しないためにも自分がどの職業に就きたいのかをよく考え、業界研究・企業研究に積極的に取り組んでほしい」と話しました。

次に、入試創職室の鈴木職員が昨年度卒業生の就職の状況や今後の就職指導計画や創職作業チームとの就職指導個別面談等について説明を行いました。その後、就職活動のSPI試験（筆記試験）と、その解説を行い、就職への意識を高めました。

運動栄養学科がスポーツ栄養セミナー開催

～ベガルタ仙台ジュニアサッカースクール仙南校保護者対象～

9月3日(月)、10日(月)に運動栄養学科の岩田講師と津吉講師がベガルタ仙台ジュニアサッカースクール仙南校に通う受講生の保護者を対象に「スポーツ栄養セミナー」を開催しました。これはベガルタ仙台と本学との産学連携プロジェクトの一環として実施されたものです。

3日に開催した津吉講師のセミナーは「水分補給」をテーマに、水分の役割や運動時に適した飲料について説明した後、新助手・学生も加わり、栄養成分が異なる市販の清涼飲料水を使い、どの飲料水を運動前後のどのタイミングで飲むのが適しているかの確認や、市販の清涼飲料水に含まれる糖分と同量の糖分を含んだ砂糖水を試飲いただくなどの実習を行い、運動時の水分補給の大切さを理解していただきました。

翌週に行った岩田講師のセミナーは「食事」がテーマで、試合期に摂る食事の注意点などを説明した後、普段の食事で子供が食べるご飯の量を実測してもらい、エネルギー量が充足しているかのチェックを行いました。世間的には子どもの肥満が問題視されていますが、仙南校に通う子ども達について言えば炭水化物の量が足りていない傾向が強かったようです。セミナー2日間で約40名の参加があり、大変好評でした。今後もベガルタ仙台と連携してセミナー開催を検討して行かれるそうです。

同法人･明成高校の父母教師会に進学説明会を実施

仙台大学に進学を希望する明成高校生の保護者に教育方針や教育概要、入試概要等を理解してもらうために開催している「明成高校父母教師会への進学説明会」が9月14日(金)に開催されました。

KMCH大会議室での説明会では、丸山副学長から教育方針と教育概要について説明した後、入試創職部の高橋（弘）部長が進学に関わる概要と卒業生の進路状況の説明を行いました。説明会終了後には施設見学を行い、教育・研究施設、トレーニング施設を見て大学への理解を深めて頂きました。

明成高校 大河原地区教育懇談会

9月26日（水）に本学第5体育館大会議室において明成高校の大河原地区教育懇談会が開催され、県南地区に所在する中学校の校長先生12名にご出席いただきました。明成高校からは朴澤理事長、佐々木稲生校長はじめ13名の教員が出席し、明成高校のグランドデザインや、各科の特徴、教育方針の説明を行いました。本学からも中学・高校で教鞭を執っていた先生方が参加し、意見交換を行いました。

明成高校学園祭に仙台大学ブースを設置

9月1日（土）に開催された明成高校学園祭で、法人事務局の那須企画課長の主導で図書館内に仙台大学ブースが出展されました。大学案内冊子、大学紹介映像、OBのユニフォーム等を展示し、アピールしていただきました。同法人である本学への進学を考えてもらう良い機会となりました。

写真提供：那須課長（法人事務局）

JOC指定トレーニング施設へ就職内定

ふくやまへいや

早川講師ゼミ生の福山平也さん(体育学科4年／横手清陵学院高校卒)が今年6月に開所した下呂市濁河温泉高原スポーツレクリエーションセンターへの就職が内定しました。この施設は国内初の本格的高所トレーニング場を兼ね備えたスポーツセンターで、(財)日本オリンピック委員会（JOC）の陸上競技強化センターにも指定されています。標高1700mという高地に立地し、運動施設や宿泊施設が整備されています。指定管理者はスポーツ科学の権威として知られる小林寛道東大名誉教授が務め、同氏が考案した「認知動作型トレーニングマシン」も多数設置されています。高校や実業団の陸上競技や自転車競技、トライアスロンの選手など、多くの方に利用されています。

福山平也さん（体育学科4年）

・就職内定のきっかけを教えてください

昨年の夏に早川講師とともに静岡県で行われた認知動作型トレーニングマシンの講習会に参加しました。そこで小林寛道先生とお話しさせていただく機会があり、「認知動作型トレーニングマシンに携わる職業はどんなものがありますか？」と質問させていただいたところ、「下呂市濁河温泉高原スポーツレクリエーションセンターをつくるので、そこで働いてみてはどうか？」と、誘っていただきました。早川先生のゼミ生ということが大きかったのだと思いますが、幸運でした。

・認知動作型トレーニングマシンの魅力は？

大学2年の時に早川講師から認知動作型トレーニングマシンの本を貸してもらったことがきっかけで自分でも陸上競技のトレーニングの一環としてこのマシンの虜になりました。このマシンは幅広い年齢層の方々に安全に利用してもらうことができ、短期間で効率よくフォーム改善できるのが特徴です。トレーニングには筋肉痛がつきものと考えていましたが、このマシンは筋肉痛を伴わず脳にも強く働き掛けるので誰でも無理なく、楽しみながらできるので、長続きするトレーニングであることが最大の魅力ですと感じています。

・事前研修に行かれたそうですね?

来年4月から働くための事前研修として、7月11日－8月29日の期間、当施設でアルバイトとして働きました。7月からの営業開始にもかかわらず多い日で1日130名の宿泊客の利用があり、多方面から注目されている施設であることを実感しました。今回の研修では簡単な仕事もできないことが多々あり、反省点ばかりでした。しかし、研修を経て社会人として自立したいという思いが強く思えたことが最大の収穫と感じています。

・教職員、学生に向けて

高地に滞在するだけでもトレーニングになるので、サークルの合宿等で当施設を是非、ご利用ください。

写真提供：早川講師

ハワイ州立大学アスレティックトレーニング研修アドバンスコースを終了して

ハワイ大学医学部棟にて

9月11日～18日（6泊8日）に、ハワイ州立大学でアスレティックトレーニング研修アドバンスコースを実施しました。研修に参加したのは体育学科4年の菅原夕貴さん、貝沼由香里さん、体育学科3年の外谷涼将さん、木村和実さん、久良知佑丞さん、体育学科2年の三好聖奈さんの6名です。参加した学生たちは、学年やアスレティックトレーニングに関する知識レベル、そして海外経験にそれぞれ相違があったため、充実した学習ができるのか、出発前は不安なところがありました。しかしながら、引率教職員の協力や、学生たちの責任感と自立性により、滞りなく全日程を終えることができ、充実した経験と学習ができた研修になったのではないかと思っています。

研修内容はハワイ州立大学の方で組んでいただいたプログラムで、アドバンスコースの目玉でもある献体解剖、英会話の授業、アスレティックトレーニング施設の見学、大学講義への参加、アメリカンフットボールの試合観戦など、ハワイでの大学生活を深く体験することができるプログラムでした。最終日には、過去のハワイ研修ではなかった、「自主研修」というスケジュールを組み込み、学生を2グループに分け、自分たちでハワイ州オアフ島内のどこに研修へ行くのかを決定し、ハワイの自然や文化、歴史を学びました。

また、今回の研修では、「研修修了式」をはじめて実施していただき、ハワイ州立大学アウトリーチカレッジから、研修の修了証書を授与しました。この席で、学生が英語で研修の感想や感謝の念を発表する機会もあり、とても和やかな式となりました。

今回の研修で学生たちは、現地の方やアスレティックトレーナーと触れ合い、とても充実した日々を過ごしていたようです。学生がこの研修を通して学んだことや経験を、これからの大学生活・卒業後に活かすことを期待したいです。

報告：助教　高橋陽介

英会話授業の様子

英語に親しむ目的で、英会話の授業に参加しました。日本語を一切使わず、英語だけを話さなければならない環境で、少し緊張した面持ちながらも、笑顔で楽しんで、その授業に取り組んでいました。

大学授業への参加の様子

「下肢部の傷害評価」と「スポーツ障害の予防と処置」という講義に参加させていただきました。この他、ハワイ州立大学修士課程に所属されている大西氏と博士課程に所属されている大庭氏による、「アメリカの大学・プロ野球におけるアスレティックトレーニング」と題した講義・演習を受講しました。

マッキンリー高校でのアスレティックトレーニング実習見学

アスレティックトレーニングがどのように運営されているのか、そしてどのようにアスリート達に対応しているのかなどを見学させてもらいました。この他にハワイ州立大学のアスレティックトレーニングルームも見学させていただき、選手にテーピングや処置を施す様子や、アスレティックトレーニングルームの運営を観察することができました。

アメリカンフットボール観戦

ハワイ州立大学にとって今シーズン最初のホームゲームを観戦させていただき、選手や関係スタッフはもちろんのこと、25,000人近い観客が、祭りのような盛り上がりをみせていました。

RISM 2012 米国研修に参加して

2012年8月26日から9月2日の日程で、アメリカの大学における学生の学習成果（スチューデント・ラーニング・アウトカム＝SLO）の取組について学んできました。

この米国研修は、現在本学客員教授の船戸高樹先生が主催され、毎年夏に挙行されております。船戸高樹先生は、昨年まで桜美林大学大学院大学アドミニストレーション専攻修士課程（通信課程）でゼミを担当されており、その船戸ゼミが中心となっております。

研修のメンバーは、全国から集まった船戸ゼミ修了生がほとんどであり、今回、本学から参加したメンバーは、学生支援室兼GTセンター西塚室長と山梨助教です。

本年度の研修では大学3校に訪問し、アクレディテーション（大学認定評価）団体のレクチャーを受けました。サンフランシスコにて、University of Pacificでは、エンロールメント・マネジメントにおける卒業生対策について、WASC（西部地区基準協会）では、アクレディテーションにおけるアウトカム評価について、またロサンゼルスにて、UCLAでは、アウトカム評価のためのデータ収集と分析手法について、Pitzer Collegeでは、リベラルアーツ系大学におけるアウトカム評価の実際についてお話しを伺いました。

現在、アメリカでは、リーマンショック以来、国内は景気後退に陥り、なお回復しているとは言い難い状況にあること、もうすでに昔の強いアメリカではないことに驚きを感じました。そのような中、経済的な理由により私立大学の希望者が減少傾向にあり、大学の経営の面でも、出願者の確保に対する取組が行われています。その中でも特記すべき点は、「学生のために何かできるのか」という他大学にはない利点（奨学金制度、大学付属機関、留学生や編入生対策、立地条件、等）が何であるか特色を明確にし、優秀な学生に対して個別にコンタクトをとるという入募対策がとられていることです。

この方法をとることで、大学の特色を明確に示し、大学が求める学生や、優秀な学生を獲得できることが可能となります。

また、入学後の「教育の質」の保証を確保するために学生に対し調査をおこない、カリキュラムや教授法などに還元していくシステムが構築されている現状を知ることができました。現在では、日本でも学生に対して調査を導入している大学は数多くありますが、アメリカの大学は、その調査結果を有効に還元していました。日本の大学でも、この点を強化する必要があることを痛感しました。

訪問したいずれの大学においても、大学としての使命とそれを支える核を大学関係者が共通認識し、戦略的な計画を立て、実行していくなかで、学生に目的・目標をもって卒業させることが最善の使命である、という強い意識があると感じました。

現地では、新学期が始まったばかりということもあり、学生の学内での様子も垣間見ることができました。レクチャーの際には、参加者からの積極的な質問が飛び交い充実した研修となりました。我々、今回の研修に参加することができ、米国の最新情報が聞けたことに非常に充実感を覚えました。今回、派遣いただいたことに心より感謝申し上げます。今後はこのような貴重な経験を生かし、これからの実務に生かしていきたいと思います。

報告：学生支援室長　西塚重良
助教　山梨雅枝

University of Pacific

講義風景

Dr.Robert Alexanderと共に

WASC（西部地区基準協会）

UCLA

キャンパス内

Dr.John H.Pryorと共に

Pitzer College

台湾・台東大学からの留学生 盧彦中（ロ ゲンチュウ）さんが帰国

～ダブルディグリー制度で本学での必須科目を全て修得～

台東大学（台湾）とのダブルディグリー制度により、本学で2年間（2010年10月－2012年9月）学んでいた盧彦中（ロ ゲンチュウ）さんが予定していた科目を全て修得し、9月8日に帰国しました。

盧さんは台東大学に戻り、現在、卒業に必要な科目を履修中で、来年1月に卒業する予定です。卒業要件を満たせば両大学の学位取得が認定されることとなります。

盧さんは本学に留学して半年後に東日本大震災を経験。当時、台東大学から8名（2年目2名、1年目6名）の留学生が学んでいましたが、震災により全員が一時帰国。福島第一原発の問題もあり、日本に戻ったのは半年後に留学修了を控えた2名の学生と盧さんだけでした。その後も講義やサークル、課外活動に積極的に参加し、両大学で行う短期交換留学の際に通訳として率先してプログラムに参加するなど、両大学間の交流の懸け橋としても尽力しました。

［帰国3日前の取材］

・仙台大学で未曽有の大震災を経験されましたが?

震災では仙台大学の対応により、留学生は一旦それぞれの国に帰り、日本に戻るかはそれぞれの判断に委ねられました。当時、台東大学からの留学生は私を含めて6名いましたが、震災後に仙台大学に戻ったのは私1人だけでした。台湾でも日本で起きた大震災と原発事故は大きく報道されていたので、戻れなかったのも仕方ない状況だったと思います。私は何事も中途半端で終わることが嫌いな性分なので、留学を全うしたい思いが強かったことと、山梨県に住む叔母の「日本は大丈夫」という言葉を信じ、日本に戻ることができました。

・今は日本語が上手ですが、留学当初はどうだったのですか?

当時は「あいうえお」が話せる程度でした。来日してから学生支援センターの語学支援や自分で日本語の勉強をしましたが、なかなか上達しませんでした。昨年7月にボブスレー・リュージュ・スケルトン部（以下：B.L.S部）に入部してから、部員と話す機会が増えたことで日本語の理解が進みました。おかげで昨年12月の日本語能力検定N2（旧試験2級）にも合格することができました。

・スケルトン競技は今後も続けていくのですか？

台湾にスケルトン競技者がいないこともあり、台湾の強化選手に指定されました。11月からはヨーロッパに遠征して経験を積む予定です。競技歴が浅いため2年後のロシア・ソチ五輪には間に合わないかもしれませんが、2018年の韓国・平昌五輪では成績が残せるように頑張りたいです。

・今後の進路について教えてください

来年1月に台東大学を卒業した後は、できれば仙台大学大学院に進学し、野外教育を学びながらスケルトン競技に打ち込みたいと考えています。台湾に戻り、親や先生方と今後について相談したいと思っています。

本学OBプロサッカー選手　細川淳矢選手がJ2水戸ホーリーホックと正式契約

前回のマンスリーレポートでも紹介しましたが、本学OBの細川淳矢選手（平成18年度卒）の所属先が決定しました。ケーズデンキスタジアム水戸（茨城県水戸市）をホームスタジアムとするJ2水戸ホーリーホックで、背番号は34番です。このチームには1999-2000年シーズンに本学OBの苫米地健一さんが所属しており、現在は元日本代表の鈴木隆行選手や市川大祐選手が所属しています。その中で、細川さんはレギュラー獲得を狙います。

是非、細川選手を応援ください。

第45回 全日本社会人体操競技選手権大会　OBの活躍

9月17日(月)に相模原市立総合体育館で第45回全日本社会人体操競技選手権大会が開催され、本学OBも多数出場し、活躍しています。特に、徳洲会体操クラブ所属の亀山耕平選手（平成22年度卒）は、得意のあん馬で種目別トップ成績（15.700点）を出し、他の種目でも安定した演技で、今大会に出場したOBで最高の個人総合6位となりました。

本学OBの成績（男子1部個人総合）
- 亀山耕平選手（徳洲会体操クラブ）　第6位
- 植松鉱治選手（KONAMI）　第16位
- 石原　大選手（相好体操クラブ）　第23位
- 佐藤　亘選手（相好体操クラブ）　第27位
- 下田悠太選手（相好体操クラブ）　第32位
- 上坂昌也選手（相好体操クラブ）　第33位
- 宗像　陸選手（相好体操クラブ）　第34位
- 田中洋介選手（相好体操クラブ）　第36位
- 久住亮介選手（順友クラブ）　第37位
- 市川義洋選手（ｼﾞｮｲｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ相模原）第60位
- 上田和也選手（KONAMI）　第63位

（男子1部団体）
第1位　KONAMI
第2位　徳洲会体操クラブ
第3位　相好体操クラブ

第90回全日本ボート選手権大会

ボート競技の国内最高峰の大会「第90回全日本ボート選手権大会」が9月13－16日に埼玉県・戸田ボートコースにおいて開催され、本学漕艇部も男女4種目ずつにエントリーして日本一を目指しました。

選手たちは持てる全ての力を発揮して素晴らしいレースを展開、男子舵手つきフォアでは準優勝に輝きました。なお、最終日に行われた決勝レースはNHK Eテレで放映され、阿部肇准教授（日本代表ヘッドコーチ）が解説を務めました。

[主なレース成績]
- 男子舵手つきフォア　第2位
- 女子エイト　第6位
- 女子舵手つきクォドルプル　第8位

[本学OBの成績]
- 大元英照選手（平成17年度卒／ｱｲﾘｽｵｰﾔﾏ）男子ダブルスカル優勝
- 三浦友之選手、遠藤光選手（平成19年度、平成23年度卒／NTT東日本）男子舵手なしフォア優勝
- 渡邉勝裕選手、西村光生選手（平成19年度大学院修了、平成23年度卒／NTT東日本）　男子エイト第4位
- 高野雄也選手（平成16年度卒／東レ滋賀）男子エイト第8位
- 野崎鷹昭選手（平成17年度卒／トヨタ紡織）男子舵手なしペア第5位
- 小笠原沙織選手（平成23年度卒／大垣共立銀行）女子舵手付きクォドルプル第5位
- 廣田紗知選手（平成19年度卒／中部電力）女子舵手付きクォドルプル第7位

全日本プッシュスケルトン選手権大会　本学関係者が大活躍

写真提供：BLS部

9月23日に全日本プッシュスケルトン選手権大会が長野県・スパイラルで開催され、本学からボブスレー・リュージュ・スケルトン部（B.L.S部）および小室新助手、OB・OGなどが出場し、男女とも表彰台を独占しました。男子は本学OBの高橋弘篤選手((株)システック／平成19年度卒)が優勝、笹原友希選手(あづみのうか浅川／平成19年度卒)が準優勝する中、競技をはじめてわずか半年の黒岩俊喜さん(運動栄養学科1年)が第3位で表彰台に上がりました。女子は小室希新助手が大会3連覇を果たし、OGの大向貴子選手(丸善食品工業(株)／平成19年度卒)が準優勝、小林真衣さん(体育学科3年)が第3位に入りました。

【男子】優　勝　高橋弘篤選手
　　第2位　笹原友希選手
　　第3位　黒岩俊喜さん
【女子】優　勝　小室希新助手
　　第2位　大向貴子選手
　　第3位　小林真衣さん

1年生ながら3位に入る活躍を見せた黒岩俊喜さん（運栄1年／川崎市立橘高校卒）

黒岩さんは高校では陸上部に所属し、公式記録ではないものの100mの自己ベストは10秒77。高1の時には日本ジュニアユース陸上競技選手権大会の100×4リレーで優勝した経歴を持っています。本学に進学したきっかけは、走るフォームを見た高校陸上部の先生から「ボブスレーをやってみたらどうか？」と言われ、ボブスレーに強い関心を持ったからだそうで、自分でボブスレー競技ができる大学を探し、高3の夏にBLS部の鈴木省三教授に志願して練習に参加しています。そこで部員の練習に取り組む姿勢と鈴木教授の情熱に魅かれ、仙台大学に進学して世界のトップを目指すことを決心したとのこと。

9月14－17日のボブスレーの全日本合宿にも参加し、プッシュで2位記録を出したことから10月30日－11月19日に行われるアメリカズカップ遠征メンバーにも選ばれています。不安材料は氷上で滑った経験が全くないこと。持ち前のスピードを氷上で発揮する技術を磨き、世界の頂点を目指す。

FUTSAL部が全国規模大会で活躍

優勝した時の写真　写真提供：諏訪徹さん（体育4年）

FUTSAL部が9月10日(月)に名古屋市テバ・オーシャンアリーナで行われた、「第7回F-NETカレッジフットサルフェスタ（主催：(株)エフネットスポーツ）」に出場しました。この大会は、民間企業主催の大会としては最もレベルが高い大会で、全国各地で行われた地方予選を突破した6チームにより日本一が競われました。本学FUTSAL部は予選で九州代表を2-0、関東第1代表を2-1で下して決勝に進出しました。決勝戦で関東第2代表にPK戦の末、1-1（PK4-5）で惜敗しましたが、東北代表として初の準優勝に輝きました。

この大会の模様は、週刊サッカーダイジェスト2012年10月2日号にも掲載され、主催者であるエフネットスポーツのブログ(http://ameblo.jp/fnetsports/theme-10024007061.html)にも記載されています。

また、FUTSAL部は9月11－12日に神戸市ワールド記念ホールで行われた「第7回KOBEカップカレッジフットサル（主催：兵庫県フットサル連盟）」にも出場し、初優勝しています。予選リーグでは同志社大に5-3、川崎医療福祉大Aに1-0で勝利し、１位でグループリーグを突破すると、その後も勝ち進み、決勝戦で大学界の強豪・神戸大と対戦しました。互いに譲らず接戦となりましたが、PK戦の末、3-3（PK5-4）で勝利し、見事初優勝を飾りました。

監督の笹生講師も「これまであまり活発に活動していなかったフットサル部が、昨年から体制を一新して必死に取り組んだ成果として、全国規模の大会で好成績を残すことができたことは選手の自信にもつながる」と話しています。FUTSAL部は所属する宮城県リーグの前期リーグを1位でターンしており、今後も県内および全国区での更なる活躍に期待がかかります。

2012 東北こども博　10／6、7開催

10月6日（土）、7日（日）に「2012東北こども博」が開催されます。このイベントは「あした、笑顔になーれ！」を合言葉に玩具メーカーやスポーツメーカーが提供するおもちゃやアニメーションのキャラクターで楽しんでもらうイベントです。
昨年のイベントには、2日間で約13,800名の方々に来場いただき、大盛況のうちに終了することができました。今年も各方面の方々の協力により、本学を会場に開催することとなりました。入場は無料ですので是非、お出かけ下さい。

イベント名：「2012東北こども博」
日　程：平成24年10月6日（土）、7日（日）
詳　細：2012東北こども博公式ホームページ
http://www.toys.or.jp/tohoku/
問い合せ：社団法人 日本玩具協会事務局
03-3829-2513

Sports For All ～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

Sendai University Public Relations

SENDAI UNIV.

Monthly Report

Vol.78／ 2012 Oct.

目　次

第2回2012東北こども博	1
事務局人事異動	2
ウォームアップジャパン From Tokyo in 七ヶ浜	3
かふぇDEわくわく健康づくりがJR船岡駅にオープン	4
台東大学からの留学生	5
2012仙台大学大学祭	6
OB・学生の活躍	7

「第2回2012東北こども博」盛況裏に終了

10月6日(土)、7日(日)に本学を会場にして、震災で被災した子ども達に、おもちゃやスポーツを楽しんでもらうイベント「第2回2012東北こども博」（主催：東北こども博実行委員会、文部科学省など後援）が昨年に引き続き開催されました。両日天気が心配されましたが、天候にも恵まれ、昨年を上回る15,900人(昨年13,800人)の方々にご来場頂きました。

6日(土)のオープニングセレモニーでは、東北こども博実行委員長である朴澤学長より「未来を担う子ども達が希望を持ち、元気になれるよう大学全体として支援していきたい」と挨拶があり、また、震災を乗り越えた亘理町立荒浜小学校の児童による郷土芸能の「荒浜ぶちあわせ太鼓」が披露され、勇壮な太鼓の迫力ある響きで幕が上がりました。2日間、キャラクターによるショー、最新のおもちゃやゲームが体験できる「トイホビー」、手軽で楽しいスポーツ体験や親子でプラズマカーなどに挑戦できる「スポーツ」、屋台などが並ぶ「お祭り」の３つのエリアで構成された多彩なイベントで各会場盛り上がりを見せていました。

400名を超える本学の学生ボランティアをはじめ、明成高校及び柴田高校の生徒ボランティアにもご参加頂き、東北こども博を支えました。

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
直通　0224-55-1802
内線　佐藤美保　256
　　渡辺誠司　271
　　土生佐多　200
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

事務局人事異動（平成24年10月1日付）

10月1日付で事務局の人事異動がありました。異動先は、右表の通りとなっております。

新所属	(旧所属)	氏　名
庶務課長	(事業戦略室担当課長)	菊地太一
庶務課担当課長	(庶務課長)	伊藤弘行
教務課長	(教務課担当課長)	庄子直剛
入試創職室担当課長	(教務課担当課長)	三浦伸二
入試創職室担当課長	(大学院事務室担当課長)	吉田孝志
広報室担当課長	(入試創職室担当課長)	渡辺誠司
予算管理課担当課長	(会計課担当課長)	吉田　茂
教務課担当課長	(広報室ＧＭ)	伊東宏之
会計課主幹	(予算管理課主幹)	梅森智子
大学院事務室主幹	(教務課主幹)	佐藤裕子
教務課	(入試創職室)	鈴木将士
事業戦略室	(教務課)	石森靖明

学生支援室のインテーカーとして石澤和子さんが着任

菅野すゑさんの後任として、10月1日付で学生相談室のインテーカーに石澤和子（いしざわかずこ）さんが着任しました。石澤さんからご挨拶の文を頂戴しましたので、ご紹介します。

「このたび、学生相談室のインテーカーの担当をさせて頂くことになりました石澤和子です。これまで、臨床心理士として、病院や児童相談所では、心理検査の業務を行ってきました。また、スクールカウンセラーとして中学校では生徒や保護者の皆様と関わった経験がありますが、ここ数年は心理業務から離れておりました。今回、大学の学生相談室での勤務というのは、私にとって初めての経験になります。これまで経験した現場との違いや、戸惑い、不慣れな面があり皆様にご迷惑をかける場面もあるかと思います。少しでも、学生の皆様が快適に大学生活を過ごせるように、また一日も早く諸先生方や職員の皆様のお役に立てるように、一つ一つ積み重ねて参りたいので、ご指導の程宜しくお願い致します。」

学生相談室は、月曜日～金曜日までの11時～17時まで業務を行っています。

宮城県経営者協会仙南支部が視察研修（仙台大学訪問）

10月4日（木）にKMCH大会議室において宮城県経営者協会仙南支部（支部長：東北リコー顧問の敦賀博氏）の10名が来訪し、佐藤滋副学長から「言語コミュニケーション・第二言語習得の言語認知科学（言語現象の脳活動のＭＲＩ的研究）」と題したミニ講話が行われ、言語脳科学研究の一端が紹介されました。参加した方からは、「我々が今まで学んだことのない世界の重要なお話に感銘を受けた」という声がありました。

また、高橋政志事務局長代行及び半澤事業戦略室担当課長からは、大学の概要や国際交流・地域連携等の取組みについて説明がなされました。そして最後に、菊地太一庶務課長が、学内の施設・設備を案内しました。

体育の日イベント
ウォームアップジャパンFrom Tokyo　スポーツフェスタ　in 七ヶ浜

10月8日（月・祝）体育の日に、七ヶ浜町において、一般社団法人日本アスリート会議と東京都が主催するスポーツを通じた被災地支援事業である「ウォームアップジャパンFrom Tokyoスポーツフェスタ　in 七ヶ浜（主管：七ヶ浜町スポーツフェスタ実行委員会）」が開催され、本学の学生たちも運営サポートスタッフとして活躍しました。「ウォームアップジャパンFrom Tokyo」の活動は、今年2月には本学を会場に亘理町・山元町の中学校運動部活動支援として実施しました。学生たちは運営スタッフやプログラムのサポートを経験させていただくことで沢山の学びを得たようです。

当日は天候にも恵まれスポーツの秋にふさわしい晴天の下、サッカー、ラグビー、ハンドボールの元日本代表選手らによる「アスリートとボールで遊ぼう！」のプログラムに約200名の地元七ヶ浜の小学生たちが参加し、スポーツを通じてここちよい汗を流しました。
（ウォームアップジャパンFrom Tokyo
実行委員　馬場宏輝　生涯学習センター長）

ひぐちはるか
樋口遥さん（新潟･三条東高校出）
（体育学科スポーツマネジメント・コース4年：馬場研究室）

参加者と保護者あわせて200名以上が参加した今回のイベントには、運営スタッフとしてかかわりました。
参加した子どもたちは、はじめてラグビーボールやハンドボールに触ったりプレーしたりと新しい競技の興味も膨らんだようでした。震災からの復興を「スポーツ」を通じサポートすること、異世代との関わりを持てることはかけがえのない経験だと感じています。

体育学科長･仲野教授にNHKから取材

10月11日(木)、ＮＨＫ仙台放送局「てれまさむね」から体育学科長・仲野教授に取材がありました。取材内容は、10月13日(土)～16日(火)まで行われた「第25回全国健康福祉祭　宮城･仙台大会　ねんりんピック宮城･仙台2012」と同時開催された「みやぎ元気フェスティバル」の際に設けられたニュースポーツのコーナーについてでした。
「てれまさむね」の取材当日には、子どもからお年寄りまで誰でも気軽に参加できるニュースポーツとして、仙台大学第一体育館に「ユニカール」と「ラダーゲッター」が設けられました。同フェスティバルでニュースポーツのコーナーを担当する仲野教授にリポーターがルールを教えてもらいながら、本学学生と共に2種目を体験しました。
この様子は、10月12日(金)18時10分～19時の「てれまさむね　週末ドコ行こ！？」で5分程度放映され、学生の楽しくハツラツとした場面も多くみられました。
なお、広報室でＶＴＲを録画してありますので、ご覧になりたい方はお知らせ下さい。

みやぎまるごとフェスティバル2012

10月13日(土)・10月14日(日)の2日間、仙台市の宮城県庁及び勾当台公園を会場に、宮城県をまるごと楽しむことのできる食の祭典『みやぎまるごとフェスティバル』が開催され、本学からも運動栄養学科の学生9名と丹野准教授及び菊地･服部･真木･佐藤幸子･堀江の各新助手が参加しました。

本学の参加は今年度で6年目となり、宮城県からの依頼で『キッズ食育パーク』というコーナーを運営しました。子どもと子育て世代に向けて、「見て」「触れて」「調理して」「食べる」などの体験を通して、食の楽しさを伝えるというテーマのもと、①「箱の中身はなんだろな？」という食材当てゲームや、②「親子でCooking□栄養満点ベジタブルケーキ！」という子どもが楽しみながら、簡単な調理体験をすることで、食への興味や関心を高められるような内容を実施しました。

特に、調理体験コーナー(1日限定100食)は大盛況で、順番待ちの列ができるほどでした。訪れた方々からは、「実際に子どもが調理を体験する機会は少ないので、素晴らしい企画ですね。」などとお褒めの言葉を頂きました。また、参加した学生達もたくさんの子どもの笑顔に囲まれ、貴重な体験となったようです。今後も仙台大学発信の食育への取り組みは地域にとって重要なものとなっていきそうです。（報告：菊地志織新助手）

【運動栄養学科参加学生一覧】

NO	氏　名	学年	出身高校
1	佐々木文	4年	水沢高校
2	及川美雪	3年	東北高校
3	尾崎華穂	3年	宮城広瀬高校
4	数又美穂	3年	白石女子高校
5	城戸香菜恵	3年	富岡高校
6	黒田晴音	3年	仙台西高校
7	阿部佑哉	1年	古川黎明高校
8	大波千浩	1年	福島商業高校
9	長田実子	1年	相模原女子大学高校

「かふぇDEわくわく健康づくり」がJR船岡駅にオープン

「筋力トレーニング」（10月17日）の様子

10月10日～10月31日の水曜日（計4回）、14：30～16：00まで船岡駅2Fコミュニティプラザで本学の健康づくり運動サポーター事業及び同サポーター上級者向けの実習の一環として、本学の学生が企画した「健康かふぇ」がＪＲ船岡駅にオープンしました。

この企画の目的は、柴田町にお住いの方々を対象に、健康に関する講話や自宅でも簡単にできる運動を紹介・体験してもらうことにより、健康水準を向上させることにあります。また、この企画は、本学学生の泉幸（いずみさち）さん（健康福祉学科4年－米沢中央高校出）、田中亮（たなかりょう）さん（健康福祉学科3年－新潟･村上桜ケ丘高校出）、金山瑠里（かねやまるり）さん（健康福祉学科3年－聖ドミニコ学院高校出）、後藤璃帆（ごとうりほ）さん（健康福祉学科3年－山形･九里学園高校出）の4名が、自らの力で発案し、実施していくプログラムです。泉さんは「地域の方々と関われて嬉しい。前回の反省を踏まえ、良いプログラムにしたい。」、金山さんは「やり甲斐がある。継続することの大変さを痛感している。」、田中さんは「自分たちで準備して、企画運営する大変さを改めて感じている。参加者アンケートの中の良かった・楽しかったという言葉が支えになっている。」、後藤さんは「参加者の健康に対する意識の高さを感じている。もっと勉強して、自分を高めながら指導がしたい。」と目を輝かせながら話していました。

台東大学（台湾）からの留学生

左から林准教授、李政欣さん、許さん、朴澤学長、李尚諭さん、韓さん、余さん

10月23日（火）、国際交流協定校の台東大学（台湾）からの交換留学生5名が、林准教授と共に学長室を訪れました。李政欣（リチュンシン）さん、許晉瑋（キョチンウェイ）さん、李尚諭（リシャンイ）さん、余亭儀（イテンイ）さんの4名は、1年間学部の科目等履修生として学びます。また、韓啓倫（ハンチンルン）さんは、2年間、ダブルディグリー制度により本学で学位取得を目指します。

台東大学と仙台大学は、平成19年に「学部学生教育に関する協定書」を締結し、ダブルディグリー制度を含めた学生間交流の進展を図ってきました。平成23年には台東大学からの留学生2名が既にダブルディグリー制度により本学で学位を取得しております。

「健康づくり運動サポーター認定証書授与式」を開催

－ハワイ州立大学ムラタ教授のご両親来学－

前列右から三番目がフェイさん、二番目がロバートさん

10月23日（火）、本学A棟2階大会議室において、本学学生の「健康づくり運動サポーター認定証書授与式」が開催されました。今回は、健康づくり運動サポーターとして、初級6名、中級1名に加え、今年5月に認定された認定者25名（初級21名、中級4名）の授与式も併せて行われました。

現在、上級資格の取得を目指して、4名の学生が10月10日（水）からＪＲ船岡駅にオープンした「健康かふぇ」の企画運営を行っています。

また、ハワイで約20年間高齢者向けに運動プログラムを実践され、静岡で実演するために来日されていたハワイ州立大学（本学学生がアスレテックトレーニング研修を実施）のネーセン・ムラタ教授のお母様であるフェイさんとお父様であるロバートさんが来学され、ゲストとして、同授与式に出席されました。

同授与式終了後は、ムラタご夫妻に、本学で推進している高齢者向けの運動プログラムを横山新助手が披露し、フェイさんに体験して頂きました。さらに、フェイさんがハワイで高齢者向けに実践している運動プログラム「チェアー・エクササイズ」を本学学生にご紹介下さるなど、学生との交流も図られた有意義なものとなりました。

なお、昼食には、本学とタレント発掘・育成事業で連携協力している北海道美深町産のかぼちゃを使用し、本学運動栄養学科の学生が作ったサンドウィッチが振る舞われました。

高齢者向けの運動を実演するフェイさん

2012仙台大学大学祭

10月27日（土）、28日（日）の2日間、仙台大学大学祭と毎年恒例同時開催されているスポーツフェスティバルin柴田が催されました。2日目（28日）の午後からはあいにくの雨模様となりましたが、両日たくさんの方々にご来場頂き、誠に有難うございました。

今年の大学祭のテーマは、「笑 time in 仙台大」で、大学祭実行委員会らが中心となって企画運営を行いました。目玉イベントのＥＴ－ＫＩＮＧのライブでは大いに盛り上がり、オリンピック招致活動の一環としてお招きしたゲストの岩本亜希子さん（4年連続オリンピック出場、ボート競技）と藤井郁美さん（北京パラリンピック出場、車椅子バスケ）のトークショーでは、お二人のオリンピック・パラリンピックに対する情熱や決意の固さが伝わり、興味深いお話に引き込まれました。さらに今年度は、仙台大学開学45周年記念事業の一つとして、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校よりラルフ・ローゼニック博士をお招きし、健康と疾患における運動科学の役割についてご講演を頂きました。会場が満席となり、立ち見の方が出るほどの盛況ぶりでした。同大学で来年2月に本学学生のスポーツ栄養＆スポーツマネジメントに関する研修を実施予定です。

また、スポーツフェスティバルin柴田では、柴田町親善ゲートボール大会やキッズ・サッカーなど、老若男女の町民の方々が多数参加され、それぞれの大会でも大いに賑わいました。

女子サッカー部「インカレ東北地区予選」3連覇達成

左から朴澤学長、山田主将、泉副主将、黒澤監督

女子サッカー部が全日本大学女子サッカー選手権大会（インカレ）東北地区予選を圧倒的な強さで全勝優勝しました。同予選で３連覇を達成した黒澤尚監督、山田綾主将（運動栄養学科4年－東北高校出）、泉知里副主将（健康福祉学科4年－富岡高校出）が10月5日(金)、優勝の報告に学長室を訪れました。黒澤監督は、「昨年のインカレではベスト１６で敗退しましたが、今年はベスト４を目指したい」と決意のほどを語っています。「１試合１試合勝ちにこだわって上を目指したい」（山田主将）。「チーム一丸となって試合に臨みたい」（泉副主将）。今年のインカレでは、東北の代表としての活躍を大いに期待しています。

全日本大学女子サッカー選手権大会は、12月26日(水)からはじまります。皆様ご声援を宜しくお願い致します。

「ぎふ清流国体」で本学OB・OG・学生が大活躍

男子バレーボール部

ＯＢ大元英照選手

ＯＧ佐藤若菜選手

9月29日(土)～10月9日(火)まで熱戦が繰り広げられた「ぎふ清流国体」において、大元英照選手(アイリスオーヤマ－H18年体育学科卒－塩釜高校出)がボートの成年男子ダブルスカルで優勝。佐藤若菜選手(宮城教員クラブ－H22年体育学科卒－相馬東高校出)が成年女子ハンマー投げで２位。本学男子バレーボール部が成年男子で５位という好成績を収めました。その他にも数多くの本学ＯＢ・ＯＧ・学生が選手や監督、役員として大活躍した国体となりました。

10月10日(水)、大元選手の所属するアイリスオーヤマのボート部報告会に、朴澤学長及び本学ボート部の石森コーチの2名が出席し、同選手の優勝を称えました。

佐藤選手は10月10日(水)に学長室を訪れ、国体２位の報告を行いました。同選手は「仕事と競技をバランスよく行い、次は日本一を目指したい」と今週末に行われる実業団・学生対抗陸上競技大会への抱負を述べました。

男子バレーボール部の山内部長、石丸監督、国体選手一同が10月10日(水)に学長室を訪れ、国体５位(本学は大学単独チームとして出場)の報告を行いました。石丸監督は、「ディフェンス力とサーブ力を強化して、次は全日本インカレでベスト８以上を目指したい」。小田切亮磨主将(体育学科4年－弘前工業高校出)は、「レシーブ力を上げ、東北大学リーグの６連覇と全日本インカレで上位進出をねらいたい」 と今後の課題と抱負について述べました。

これからの本学ＯＢ・ＯＧ・学生の活躍にご注目ください。

硬式野球部　我妻真太郎さん、首位打者獲得

平成24年度仙台六大学野球秋季リーグ戦は、本学硬式野球部は三位という結果に終わりましたが、一方で、我妻真太郎（わがつましんたろう）さん（体育学科3年－山形中央高出）が打率.395で首位打者と遊撃手で自身初のベストナイン、最多盗塁(8個)の３つのタイトルをいずれも初めて獲得しました。首位打者のタイトルはリーグの数ある栄冠の中でも、個人タイトルとしては最高の栄誉といっても過言ではありません。３つのタイトルを獲得し、新チームの副主将を務める我妻さんは、「仙台大には切磋琢磨する良い環境があったので、首位打者という結果が残せた。名誉ある賞を獲れて正直嬉しい」と喜び、「来春は、神宮（全日本大学野球選手権大会）に絶対に行きたい」と決意を述べました。

また、本学からは馬場康治郎（ばばこうじろう）さん（体育学科3年－利府高校出）が打率.394で首位打者の我妻さんに一歩及ばず二位と一塁手で初のベストナイン、伊東慎也（いとうしんや）さん（体育学科3年－仙台育英学園高校出）も外野手で初のベストナインを受賞しました。

全国障害者スポーツ大会　加藤由希子さん、100mと砲丸投げの2種目で優勝

10月13日(土)～10月15日(月)まで開催された「第12回全国障害者スポーツ大会(ぎふ清流大会)」に出場した加藤由希子（かとうゆきこ）さん（陸上競技部所属、健康福祉学科1年－気仙沼女子高校出）が、陸上競技の100mと砲丸投げの2種目で優勝を果たしました。加藤さんは、左手が義手のアスリートとして同大会に出場。砲丸投げでは、大会新記録で優勝を飾りました。今後の目標は、「日本学生陸上競技個人選手権（インカレ）の出場と2016年に開催されるリオデジャネイロパラリンピックの出場」ときっぱり。

将来は、特別支援学校の教員を目指しており、「生徒にスポーツの楽しさや頑張ることの大切さを伝えたい」と夢を語りました。

日本卓球協会トレーナー　本学OBの田中礼人さん来訪

左から朴澤学長、田中さん、鈴木副学長

10月19日(金)、ロンドンオリンピックに卓球の日本男子チームのフィジカルトレーナーとして帯同した本学ＯＢの田中礼人（たなかあやと）（H18年体育学科卒－埼玉栄高校出）さんが学長室を訪れ、同オリンピック終了の報告を行いました。

卓球の日本男子チームは、団体戦で5位、個人戦で5位と9位という卓球の日本男子チームオリンピック過去最高の好成績を残しました。

田中さんは、フィジカルトレーナーとして、選手が本番で最高のパフォーマンスを発揮できるように体力の向上と怪我の予防という非常に重要な役割を担いました。「オリンピック独特の雰囲気を肌で感じることができた。今大会で学んだことや悔しさを忘れずに、次のリオデジャネイロオリンピックでは必ずメダルが取れるように貢献したい」と力強く語ってくれました。

仙台六大学野球秋季新人戦　優勝

10月21日(日)、仙台六大学野球秋季新人戦決勝で、仙台大が2－1で東北福祉大を下し、見事優勝を果たしました。

仙台大は、5回に加藤大地（かとうだいち）さん（体育学科2年－東海大望洋高校出）と内藤諒太（ないとうりょうた）さん（体育学科1年－作新学院高校出）のタイムリーで2点を先取。先発の野口亮太（のぐちりょうた）さん（体育学科2年－前橋商業高校出）は7回2／3を無失点で抑え、7回2死1･2塁からリリーフした根本貴志（ねもとたかし）さん（体育学科2年－双葉翔陽高校出）が粘り強いピッチングを見せ、東北福祉大打線を1点に抑え、勝利をおさめました。

今回の秋季新人戦では、3年生部員全員が全試合応援に駆け付け、大声援を送り、まさに、全員野球で掴み取った優勝となりました。

準決勝の東北学院大戦で完封勝利し、決勝でも素晴らしい投球を見せた根本さんは、「新チームになって優勝を目指して頑張ってきた。有言実行できて良かった。」と喜びをかみしめ、「春季リーグ戦は優勝して、神宮（全日本大学野球選手権大会）でも勝ちたい。」とさらなる飛躍を誓っていました。

引き続き、仙台大硬式野球部への声援を宜しくお願い致します。

左：根本さん、右：野口さん

東北地区女子サッカー選手権大会　準優勝

10月20日（土）、21日（日）の2日間、河北旗争奪第31回東北地区サッカー選手権が宮城県サッカー場で開催されました。前年度優勝チームは主催者推薦として予選免除のため、仙台大女子サッカー部は本大会からの出場となりました。

初戦は、水沢ＵＦＣプリンセス（岩手）に８－０で快勝。翌日の準決勝は、ＦＣべにばな（山形）に２－０と順調に勝利し、決勝へコマを進めました。

決勝では、3年連続同様、聖和学園高校（宮城）と対戦。高校生には「絶対に負けられない」というプレッシャーを抱えながら、試合に臨みました。

仙台大は、立ち上がりから押し気味に試合を進めましたが、前半18分に先制点を聖和学園高校に奪われると、後半8分にも追加点を取られ、０－２で試合終了。本学は、相手を上回るシュート9本を放ちながらも無得点。惜しくも準優勝に終わり、大会2連覇を逃しました。

今大会を振り返り、黒澤監督と本多コーチから次のようなコメントが寄せられました。

「絶対に負けられないというプレッシャーの中で最後まで諦めずに戦ってくれた選手全員を誇りに思う。敗因は必ず勝つという執念を選手に伝えきれなかった監督の自分にあり、責任を強く感じている。インカレに向けてあらゆる面で細部を突き詰めこの悔しさを晴らしたい」（黒澤監督）。

「結果は負けてしまったが、仙台大女子サッカー部にとっては収穫の多い大会だった。インカレに向けて気持ちを切り替え、必ず結果を残したい」（本多コーチ）。

次の試合は、12月26日（水）からはじまる「全日本大学女子サッカー選手権（インカレ）」になります。引き続き、応援を宜しくお願い致します。

女子柔道部　ベスト8の壁破れず

※写真提供：東建コーポレーション(株)「柔道チャンネル」

10月27日（土）、平成24年度全日本学生柔道体重別団体優勝大会が、ベイコム総合体育館（尼崎市記念公園）で開催されました。

仙台大女子柔道部は、同大会が始まって以来、4年連続4度目の出場となりました。

初戦（２回戦）は、五味奈津実（ごみなつみ）さん（体育学科4年－東京・藤村女子高校出）・岩瀬輝衣子（いわせきえこ）さん（体育学科4年－愛知・大成高校出）・渡邉悠季（わたなべゆき）さん（体育学科4年－田村高校出）ら、今大会が大学生活最後の大会となる4年生の活躍で、関東の強豪、国際武道大に４－１で勝利し、4年連続で準々決勝（ベスト８）にコマを進めました。

勝てば初のベスト４（準決勝）進出が決まる準々決勝の対戦相手は、前年度優勝校で大会3連覇を狙う環太平洋大。瀬戸美里（せとみさと）さん（体育学科3年－東北高校出）が何とか引き分けに持ち込む粘りを見せましたが、圧倒的な強さを誇る相手に実力差を見せつけられ、トータル０－６の完敗。またしてもベスト８の壁を破ることはできませんでした。

この敗戦をバネにして、次の大会に向けて更に精進していきますので、引き続き、仙台大女子柔道部へのご声援を宜しくお願い致します。

JR仙台駅２階のクリックビジョンがリニューアル

10月1日(月)から、本学をＰＲするＪＲ仙台駅２階のクリックビジョン（15秒看板）のデザインがリニューアルしました。

次回リニューアルは、平成25年4月1日を予定しております。大学及び学科紹介に使用されたい画像・写真やクリックビジョンに関するアイデア等がございましたら、広報室までお寄せ下さい。

Sports For All ～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

Sendai University Public Relations

SENDAI UNIV.

Monthly Report

Vol.79／ 2012 Nov.

仙台大学主催事業「スポーツシンポジウム2012」

11月26（月）、せんだいメディアテーク（仙台市青葉区）で、仙台大学主催事業「スポーツシンポジウム2012」（主催：仙台大学／仙台市／河北新報社）を開催しました。同シンポジウムでは、約200名の方々が『ロンドンオリンピックを振り返って～「観る」から、「する」、「支える」へ～』というテーマの講演や議論に耳を傾けました。

今回のシンポジウムでは、基調講演として、スポーツジャーナリストの増田明美氏が「自分という人生の長距離ランナー」と題して講演し、その中で、自らがスポーツを「する」立場から、「支える」立場になりたいと思った瞬間等について、経験にユーモアを交えながら話されました。

続いて、パネルディスカッションが行われ、増田明美氏、清水義明氏（仙台市スポーツ振興課長）、庄子忠則氏（河北新報社スポーツ部長）、仲野隆士教授（仙台大学体育学科長）をパネリストにお迎えし、コーディネーターは山内亨教授（仙台大学スポーツ情報マスメディア学科長）が務めました。

パネルディスカッションでは、アスリート（増田氏）・行政（清水氏）・報道（庄子氏）・教育（仲野教授）のそれぞれの立場から、ロンドンオリンピックを通して、「観る」から自分が「する」、そして「支える」というテーマについて活発な議論がなされました。

ご来場頂きました皆様、スポーツシンポジウム開催にご協力を賜りました皆様に御礼申し上げます。

なお、本シンポジウムの詳細は、12月20日付河北新報朝刊に掲載される予定です。

目　次

仙台大学主催事業「スポーツシンポジウム2012」	1
全日本少年柔道育成会主催の東北地区合同練習会	2
第5回国際スポーツ情報カンファレンス	3
仙台大学「管理栄養士合格修練会」第4回受験者激励会	4
亘理町公共ゾーン仮設住宅に、「ふれあい公園」がオープン	5
「東北楽天ゴールデンイーグルス」の8選手が仙台大で体力測定	6
OB・OG・学生の活躍	7

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
直通 0224-55-1802
内線 佐藤美保 256
渡辺誠司 271
土生佐多 200
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

フィンランド・カヤーニ応用科学大学からの留学生

左から朴澤学長、ヤスミン･コーホーネンさん、ラウラ･ポイコーネンさん、ハンナ･キビックさん、鎌田国際交流センター長、渡邊事業戦略室長

11月2日（金）、国際交流協定校のフィンランド・カヤーニ応用科学大学から短期交換留学生3名が、鎌田国際交流センター長、渡邊事業戦略室長と共に学長室を訪れました。ヤスミン･コーホーネンさん、ラウラ･ポイコーネンさん、ハンナ･キビックさんの3名は、同大スポーツ＆レジャーマネジメント学科の3年生で、11月27日（火）まで本学で学び、12月2日（日）にフィンランドに帰国する予定です。

「日本文化と日本語を学びたい。剣道の授業を楽しみにしている。将来の職業についてはまだ考えていないが、家族と家を持ちたい」（ヤスミン･コーホーネンさん）。「日本文化と武道を学びたい。将来は、海外で活躍できるスポーツインストラクターになりたい」（ラウラ･ポイコーネンさん）。「日本文化を学び、書道の授業を楽しみにしている。将来は、水泳のインストラクターになることを目指している」（ハンナ･キビックさん）。とそれぞれの思いを語ってくれました。

全日本少年柔道育成会主催の東北地区合同練習会

11月4日（日）、仙台大学柔道場で全日本少年柔道育成会主催の東北地区合同練習会が開催され、岩手・山形・宮城・福島の4県から300名を超える柔道少年・少女が集いました。

同練習会は、柔道の活性化と団体相互の連携・交流を深めることを目的とし、本学での開催は今年で連続4回目（それ以前は山形県で実施）となりました。同練習会の事前準備及び当日運営は、全て柔道部の学生主体で実施されました。

柔道部の南條充寿総監督は「学生達は、運営側の準備の大変さ、教えること・伝えることの難しさが実感できたのではないか。このことを競技現場で生かしてほしい」「とにかく学生達がよく頑張ってくれた。今後は新しい工夫などを実践してみたい」と今回の感想と抱負を話されました。また、柔道部の粟野顕（あわのけん）さん（現代武道学科2年－羽黒高校出）は、「子ども達と触れ合うことができて良かった。教えることの難しさと指導力を学ぶことができた」「自衛官を目指している。この貴重な経験を将来に生かしていきたい」と熱く語ってくれました。

第5回 国際スポーツ情報カンファレンス

日本スポーツ振興センター理事長
河野一郎氏による基調講演

日本スポーツ振興センター課長
和久貴洋氏による特別講演

シンポジウム（右から白井氏、山下氏、
松井氏、土生氏、阿部篤志講師）

仙台大学スポーツ情報マスメディア研究所は11月4日（日）、せんだいメディアテーク（仙台市）にて第５回国際スポーツ情報カンファレンスを開催しました。今回は「London2012を通してこれからのスポーツを考える～スポーツの推進を通じた社会の発展と情報・制度・人～」と題し、日本スポーツ振興センター（JSC）の河野一郎理事長をはじめ、和久貴洋氏、白井克佳氏、山下修平氏（以上、JSC）、松井陽子氏（日本オリンピック委員会）、土生善弘氏（宮城県教育庁）の６名を講師としてお招きし、スポーツのこれからを考えました。

基調講演では河野一郎氏より、これからのスポーツを考えていくうえで３つの視点（時間軸、グローバル、国家）が必要であること、続いて和久貴洋氏より「大学政策とスポーツ政策の接点」という題での特別講演を、そして最後に研究所の阿部篤志研究員がコーディネーターとなり、白井克佳氏、山下修平氏、松井陽子氏、土生善弘氏が登壇し、情報戦略の重要性、子供たちの早期才能発掘・育成の重要性、宮城県におけるスポーツ推進計画に描かれる新たな方向性をお話頂きました。

今回のカンファレンス、参加者もスポーツ行政、スポーツ団体、大学など、北海道から和歌山まで約１００名の方々にご来場頂き、国、地方、スポーツ組織が抱える問題、大学の課題など有意義な情報をお持ち帰り頂けたと確信しております。

＜報告：スポーツ情報マスメディア研究所＞

秋の健康収穫祭

運動プログラム「棒体操」の様子

11月4日（日）の9時30分～13時30分に、槻木体育館と下町集会所で、本学地域健康づくり支援センター・健康づくり運動サポーター事業及び同サポーター上級者向け実習の一環として、本学の学生4名が企画した“知って得する！やって楽しい！”「秋の健康収穫祭」が開催されました。同祭の運営は、小池健康福祉学科長、岩垂・柳沢・横山・齋藤まりの各新助手、健康づくり運動サポーターの学生35名によって行われました。

槻木の地域住民の方々を対象に、①健康について理解し運動意欲を高める場・②無理なく継続して行える運動の体験の場・③老若男女が関わり楽しめる場という３つのコンセプトを中心とし、参加者を募った結果、95名の方々がご参加下さいました。同祭では、「健康講和」・「運動プログラム」・「体力チェック」・「New Sports フェスティバル」が行われました。

「秋の健康収穫祭」を企画した奥山愛子（おくやまあいこ）さん（健康福祉学科4年－木造高校出）は、「無事終えることができ、正直ホッとしている。運営する側の立場となり、勝手が違うことに気づいた。良い経験になった」、松浦里紗（まつうらりさ）さん（健康福祉学科4年－福島西高校出）は、「子どもからお年寄りまでが、楽しんでいる様子を見ることができて良かった。怪我なく、事故もなく、良い雰囲気の一日だった」、四釜千尋（しかまちひろ）さん（健康福祉学科3年－村田高校出）は、「参加して下さった方々の真剣さを感じた。4名で頑張ってきた企画なので、絶対成功させたかった。達成感を感じられたのが良かった」、松原健人（まつばらけんと）さん（健康福祉学科3年－旭川大学高校出）は、「後輩に指導する難しさを知った。今後も健康づくり運動サポーター事業に積極的に参加して、頑張っていきたい」と意欲的に話してくれました。

名取市立みどり台中学校の生徒15名（1年生）が来学

11月8日（木）に、総合学習の一環として、健康福祉分野の研究・学習内容の見学を行ないました。素直で明るい、よい子ばかりでした。介護予防教室の見学では、参加者の高齢者にしっかりと挨拶が出来ました。本学第三体育館の体操競技場では、オリンピックのテレビ中継で見た鉄棒やつり輪、トランポリンにチャレンジしました。学生食堂（「なちゅら」）では、メニューの前で10分近く何を食べるか悩む生徒もおりましたが、美味しく食べられたようです。輝く目をした子どもたちをみて、「将来は仙台大学の志望も考えてくれるのかな」とついつい期待してしまいました。

＜報告：高崎義輝（准教授／生涯学習センター委員）＞

仙台大学「管理栄養士合格修錬会」第4回受験者激励会

11月11日（日）に仙台大学管理栄養士合格修錬会主催による第4回受験者激励会（菊地志織総合実行委員長、服部恵未子実行委員長）が開催されました。毎年、本会に参加された卒業生（受験生）にとって、試験本番に向けた勉強の最後の追い込みをかける絶好の機会となっており、高い合格率を誇っています。

今回はＯＢ合格者4名（高橋愛（たかはしあい）さん（豊里小学校（教員補助）－H21年運動栄養学科卒－郡山女子短期大出（編入学）－佐沼高校出）、米澤雄一郎（よねざわゆういちろう）さん（LEOC（栄養士）－H21年運動栄養学科卒－札幌清田高校出）、渡辺祥子（わたなべしょうこ）さん（岩沼小学校栄養教諭（臨時）－H21年運動栄養学科卒－明成高校出）、真木瑛（まきあきら）さん（仙台大学新助手－H22年運動栄養学科卒－谷地高校出））から体験談講演をしていただきました。

東京アカデミーの小田嶋講師からは、時間の作り方、勉強方法、模擬試験の活用方法等々、合格のための勉強の秘訣を教えて頂きました。ＯＢ合格者の方々からは「母校仙台大の旧友たちと励まし合うことが力となった。自分流の勉強スタイルを最後まで貫くことです」等々のお話を頂きました。

また、激励に駆けつけてくださった丹野准教授からは、「資格を取得すれば仕事の幅が広がります。管理栄養士として充実した仕事ができるようにがんばってください。」というメッセージを頂きました。

本学卒業生の栄養士関連分野におけるさらなる飛躍のため国家試験合格をサポートするために発足された合格修錬会も今年で四年目となりました。「発足から着実に合格実績を上げることができてこられたのも、皆様のご理解ご協力が広がったからこそです」と本会発起人であり主管を務める早川講師から感謝が述べられた。いよいよ二か月後には、本会の名物イベントの一つになりつつある第4回国家試験直前対策合宿講座が平成25年1月13日（日）、14日（月・祝）に仙台大学を会場に開催されます。

＜報告：仙台大学管理栄養士合格修錬会＞

文部科学省委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業（スポーツ・レクリエーション活動の支援）」
亘理町公共ゾーン仮設住宅に、「ふれあい公園」がオープン

11月11日（日）に、亘理町の公共ゾーン仮設住宅に隣接する「ふれあい公園」内にて「秋を楽しむ会・ふれあい公園オープン式」が開催されました。あいにくの曇空でしたが、仮設住宅に住む多くの方々が参加し、はらこ飯やあら汁に舌鼓をうち、歌やよさこいに楽しい時間を過ごしました。

仙台大学は、文部科学省委託事業である「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業（スポーツ・レクリエーション活動の支援）」（実行委員会委員長：丸山富雄副学長）の一環として、各種のレクリエーション用具の寄贈とともに公園内でのゲーム・レクリエーションの支援活動を行いました。

当日は、仲野隆士体育学科長（実行委員会プログラム担当副委員長）を中心に、学生16名がボランティアスタッフとして、子どもから高齢者まで幅広い対象者を相手に、一日ゲームやレクリエーションで楽しみました。この「ふれあい公園」は、仮設住宅で遊び場の限られた子ども達に、思い切り身体を動かせる場を提供してあげたいという「公共ゾーン仮設住宅第３集会所ふれあいの会」が中心となり、町有地1,000平方メールをボランティアの手で整備をして完成させた公園です。仙台大学の学生は、この公園の企画段階から整備・オープン式まで長期的な支援活動を行ってきました。

今後は、定期的・継続的にふれあい公園に学生を派遣し、子ども達の遊び相手として、スポーツ・レクリエーション活動の支援を行う予定です。

【支援地域・団体】
気仙沼市・なんでもエンジョイ面瀬クラブ、南三陸町、女川市・ふれあい健康クラブ、石巻市・石巻スポーツ振興サポートセンター、七ヶ浜町・アクアゆめクラブ、多賀城市・多賀城市民スポーツクラブ、富谷町・遊悠クラブ、名取市・名取市体育協会、亘理町、角田市・スポーツコミュニケーション角田、山元町・ホップステップ

＜報告：馬場宏輝（准教授／生涯学習センター長／実行委員会マネジメント担当副委員長）＞

「仮設住宅からの移転は早くてあと1年はかかる見通しです。みんなが暮らしやすい町になるよう、そして震災前よりも発展できる亘理町となるよう地元出身者としても復興の支援となる活動をしていきたいと思います。」（写真中央：齋藤梨花子（さいとうりかこ）さん（体育学科・スポーツコーチングコース馬場研究室4年－名取高校出）「いつも温かく迎えてくださる亘理町の方々。地元亘理高校の生徒たちも公園整備の土運びをはじめ子供たちと触れ合うなど積極的にボランティアに関わってくれています。人の輪をむすぶ事業なのでこれからも継続的支援をしていきたいです。」（写真右：猪狩薫（いがりかおる）さん（体育学科・スポーツマネジメントコース馬場研究室3年－福島・桜の聖母学院高校出）「地元住民の方々の心意気に心打たれます。日頃仮設住宅で窮屈な思いをされている方も、開放感のある公園で、レクリエーション活動やスポーツを通して楽しい時間をすごしていただければ嬉しいです。」（写真左：鎌上万里恵（かまかみまりえ）さん（体育学科・スポーツマネジメントコース馬場研究室3年－山形北高校出）とそれぞれの活動を通じて感じている感想を話してくれました。

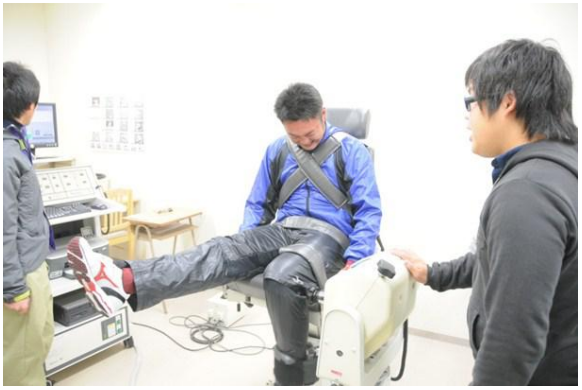
フィンランドからの留学生が乗馬演習

11月12日（月）、ゆと森倶楽部（宮城県刈田郡蔵王町）において、11月2日（金）～国際交流協定校のフィンランド・カヤーニ応用科学大学から短期交換留学中の3名の留学生が、全学教養演習「乗馬と馬術」の授業で乗馬を行いました。この授業のねらいは、動物(馬)を介して、コミュニケーション能力・スキルを向上させることにあります。コミュニケーションの原点は言葉ではなく、内面から出る態度や気持ちであり、誠意や愛情を持って接しないと動物には伝わりません。大学を卒業後、職業人になってからも、内面から出たものを相手に伝えるコミュニケーション能力・スキルを身に付けた人間として成長することがこの授業の最終目標で、本学現代武道学科の伊藤重孝教授（元皇宮警察の護衛官、元警察大学校教授）が、今年度後期(10月～3月)からはじめて全学教養演習の授業に組み込んだものです。

乗馬を終えた留学生達は、異口同音に「馬と触れ合うことができ、心が癒された。想像以上に気持ち良く、楽しかった。とても良い経験になった」と話してくれました。

留学生3名は同大スポーツ＆レジャーマネジメント学科の3年生で、11月27日（火）まで本学で学び、12月2日（日）にフィンランドに帰国する予定です。

「東北楽天ゴールデンイーグルス」の8選手が仙台大で体力測定



脚筋力を測定する枡田慎太郎選手

最大酸素摂取量を測定する釜田佳直選手

11月23日（祝・金）、プロ野球「東北楽天ゴールデンイーグルス」の枡田慎太郎選手・神保貴宏選手・武藤好貴選手・榎本葵選手・勧野甲輝選手・木村謙吾選手・釜田佳直選手・三好匠選手の8選手が、一年間にわたるトレーニングの成果を検討することを目的に本学を訪れ、本学の最新機器を利用して、「脚筋力」・「皮下脂肪厚」・「最大酸素摂取量（全身持久力の指標）」の測定を行いました。

測定指導には、本学の高橋弘彦教授（専門分野：運動生理学）及び竹村英和講師（専門分野：運動生理学）、高橋陽介助教（専門分野：アスレティックトレーニング）があたり、本学学生も補助を行いました。

測定を終えた枡田選手は「今まできちんと脚筋力の測定をしたことがなかった。正確な数値を知ることができて良かった。脚筋力のバランスが良いことが肉離れ等の怪我の予防につながることを知った。今後も測定結果を活用していきたい」。また、釜田選手は「仙台大での体力測定は今回で2回目。前回を思い出しながら行った。自分の体を数値で知ることは、自分のパフォーマンス向上につながると考えている。今後の野球に活かしていきたい」と体力測定の効果と必要性を話していました。

楽天野球団の秋田佳紀ストレングス＆コンディショニングコーチからは「選手達には、仙台大での各種測定を通して、自分の体の状態を数値で知り、オフシーズンのプランニングに役立ててほしい。」「仙台大には優れた施設を利用させて頂き感謝している」というお話を頂きました。

サッカー部　東北地区大学サッカーリーグ　優勝

－12年連続29回目の全日本大学サッカー選手権大会出場決定－

11月3日（土）、岩手県営運動公園陸上競技場で東北地区大学サッカーリーグ1部第8節が行われ、仙台大は岩手大に２－１で勝利し、最終節を残してリーグ優勝（8戦全勝）を果たしました。

仙台大サッカー部は、12年連続29回目の「全日本大学サッカー選手権大会（インカレ）」への切符を手にしました。

仙台大は、開始早々前半1分、いきなり先制点を奪われたまま、岩手大に守りをしっかり固められ、チャンスをモノにできず前半終了。後半も岩手大の固いDF陣に阻まれ、なかなか得点を決めることができませんでした。しかし、後半81分に鳥山祥之（とりやまよしゆき）さん（体育学科2年－柏レイソルユース出）のクロスを途中出場の岩渕大輔（いわぶちだいすけ）さん（体育学科4年－横浜ＦＣユース出）が頭で合わせ１－１。さらに後半85分には、追加点を狙い果敢に攻め上がった途中出場のDF木内瑛（きのうちよう）さん（体育学科4年－西目高校出）がヘディングシュートを決めて、２－１と逆転勝ち。苦しい試合展開でしたが、なんとか勝ちきることができました。

同点ゴールを決めた岩渕さんは「負けている状況での途中出場だったので、流れを変えたかった。強い気持ちで試合に臨めたことが良い結果につながった」と喜び、逆転ゴールを決めた木内さんは「ゴールはたまたま。次は、先発フル出場して、チームの勝利に貢献したい」と謙虚に振りました。

Ｊ１ベガルタ仙台の特別指定選手の蜂須賀孝治（はちすかこうじ）主将（体育学科4年－桐生第一高校出）は、「全国（インカレ）では、チーム一丸となって一戦一戦勝利を目指して戦っていきたい。あくまでも挑戦者として臨みたい」と全日本大学サッカー選手権大会に向けて気を引き締めていました。

吉井監督が就任してから東北で3年間負けなしと、来週の最終節に勝利すれば2年連続の全勝優勝となります。全日本大学サッカー選手権大会（インカレ）は12月19日（水）からはじまります。

引き続き、仙台大サッカー部への熱い応援をどうぞ宜しくお願い致します。

第2回日本学生フロアボール選手権大会　女子初優勝

左から朴澤学長、高橋主将、松浦さん、宇野澤さん、大沼さん

11月6日（火）、第2回日本学生フロアボール選手権大会＜女子＞で初優勝に輝いた学生達が、大会結果の報告に学長室を訪れました。

フロアボールは、スティックを使ってプラスティック製のボールを相手チームのゴールに入れて得点を競う室内で行う団体競技で、仙台大女子フロアボール部は現在25名で活動しています。

同大会の出場は、山形大・東北大・駿河台大・仙台大の4大学。初戦は、昨年の決勝で惜敗した山形大に６－０で勝利。決勝は、東北大に４－２で勝利し、初優勝を飾りました。

大会最優秀選手に選ばれた宇野澤衣里（うのさわえり）さん（体育学科2年－宮城広瀬高校出）は「まさか自分が選ばれるとは思っていなかったので、正直嬉しい。少しでもフロアボールを普及させ、この面白さを広げたい」と笑みを浮かべ、高橋絢音（たかはしあかね）主将（健康福祉学科3年－気仙沼高校出）は「初優勝できてよかった。大会2連覇できるようもっと力をつけて頑張りたい」と意欲を語りました。

講道館杯柔道女子52 kg級　五味奈津実さん、5位入賞

－OG田中美衣は63kg級5位、2連覇逃す－

写真提供：東建コーポレーション（株）「柔道チャンネル」
五味奈津実さんの準決勝の試合風景（写真右が五味さん）

11月10日（土）・11日（日）の2日 間、「平 成24年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会」が千葉ポートアリーナで開催され、女子52kg級で五味奈津実（ごみなつみ）さん（体育学科4年－東京・藤村女子高校出）が5位入賞という好成績をおさめました。

五味さんは準決勝で敗れた後、3位決定戦に挑みましたが惜敗。しかし、体重別柔道日本一を決定する講道館杯で5位入賞は素晴らしい結果と言えるでしょう。

五味さんは、「講道館杯には4年連続出場したが、初めて勝つことができた。今回5位に入賞したことで、強化指定選手に選ばれ正直嬉しい。今後は、国際大会でも活躍できる選手になりたい」と今の心境と更なる活躍を誓いました。

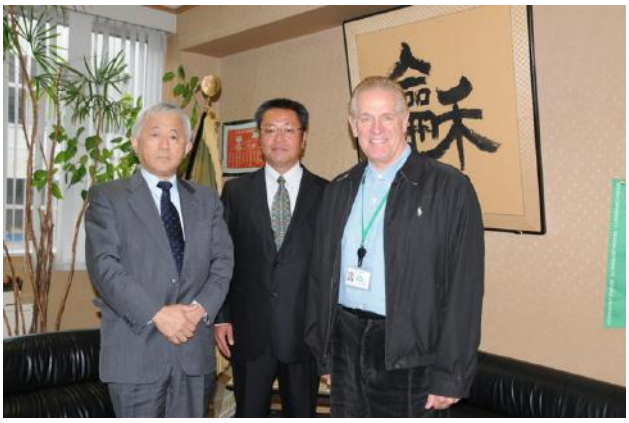
また、女子63kg級の優勝候補筆頭であった本学ＯＧの田中美衣（たなかみき）さん（了徳寺学園職－H22年体育学科卒－京都成安高校出）は、惜しくも5位で大会2連覇を逃しました。

同選手権大会には本学学生9名（全て女子）及び本学OG2名（田中美衣さん、宮原尚子（みやはらなおこ）さん（秋田商業高校教－H23年体育学科卒－秋田商業高校出）の計11名が出場しました。

今大会を振り返って、仙台大女子柔道部の南條和恵監督は「オリンピック選手や日本トップクラスの選手が集う大会で、五味は高校時代、東京都大会3位が最高成績の選手。インターハイにも出場していない五味が、全日本学生チャンピオンと世界ジュニアチャンピオンという強敵を倒して5位に入賞し、結果を残した。よくやったと褒めてやりたい」と目を細め、「講道館杯において現役学生で優勝できる選手、オリンピック選手を仙台大から育てていきたい」と今後の抱負を力強く語りました。

これからも仙台大女子柔道部及びOGの活躍にどうぞご注目ください。

聖光学院高校野球部　本学OB斎藤智也監督　来訪



左から朴澤学長、斎藤監督、キーナート副学長

11月15日（木）、聖光学院高校を春夏合わせて12回、チームを甲子園に導いた聖光学院高校野球部の本学OB斎藤智也（さいとうともや）監督（S62年体育学科卒－福島高校出）が学長室を訪れ、本学関係各位からの支援や声援に対する感謝と御礼が述べられ、斎藤監督は「母校仙台大の発展のために自分にできることがあれば、協力していきたい」と話されました。その後、キーナート副学長（東北楽天ゴールデンイーグルスの初代ゼネラルマネージャー）とも挨拶を交わされました。

仙台大学来訪後、本学と同一法人である明成高校（仙台市）において、「部活動指導について」と題する講演会が開催され、62名の参加がありました。

講演の中で斎藤監督は「指導者として、子ども達の内面を鍛えることの重要性」を指摘。「聖光学院高校野球部では、子ども達の内面を鍛えるために、ミーティングに多くの時間を費やしている。子ども達の教室での顔と部活動での顔つきが同じになってきたら、競(せ)った勝負でも勝てるチームが作れるようになる」と述べられました。最後に、「子ども達には、普段の生活の中で“不動心”（物事に動じない心）という言葉を基本理念として教えている。自分の生き様が重要であり、それが打球に表れる。人生をかけてバットを振るくらいの気構えでなくてはならない」と語り、講演が締めくくられました。

第18回全日本フットサル選手権宮城県大会　初優勝

11月18日（日）、松島フットボールセンターフットサルコートで、「第18回全日本フットサル選手権宮城県大会」の準決勝と決勝が行われました。仙台大は、準決勝で社会人チームのULTIMOに4－2で勝利し決勝進出。

決勝の対戦相手は、今年9月に行われた「全日本大学フットサル大会」で第3位となった強豪東北大。仙台大は、加賀光太郎（かがこうたろう）さん（健康福祉学科4年－聖和学園高校出）が先制点を奪取。その直後に庄司亨（しょうじとおる）さん（スポーツ情報マスメディア学科4年－羽黒高校出）が追加点を決め2－0。さらに加賀さんが3点目を決め試合を有利に進めます。守りではゴールキーパーの笹生心太選手兼監督（本学専任講師）が好セーブを連発。結果、仙台大は東北大を3－0で下し、見事創部4年目での初優勝を果たしました。

決勝で先制点と東北大を突き放す3点目を決めた加賀さんは「練習の成果が出た。全員で勝ち取った優勝。」と喜び、佐藤和也（さとうかずや）主将（スポーツ情報マスメディア学科3年－黒磯高校出）は「優勝を目標に頑張ってきた。達成できてうれしい。これからもっとレベルの高い戦いが続くので、しっかりと準備していきたい。東北大会でも優勝し、全国大会に出場したい。」と意気込みを語りました。

12月15日（土）・16日（日）に地元宮城県で開催される「東北大会」への出場権を獲得した仙台大。東北大会で優勝を勝ち取れば、全国大会への出場権を獲得することになります。皆様からの応援が大きな力になります。引き続き、仙台大フットサル部への熱い応援を宜しくお願い致します。

ウェイトリフティング部　松下康亮さん、宮城県選手権大会成年男子94kg級制す

11月18日（日）に宮城県柴田農林高校で開催された「第58回宮城県ウェイトリフティング競技選手権大会」で、松下康亮（まつしたやすあき）さん（現代武道学科2年－柴田高校出）がスナッチ95キロ・ジャーク125キロ・トータル220キロで、成年男子94kg級を制しました。

松下さんは、柴田高校時代主将を務め、インターハイにも出場。大学でも主将を務める松下さんは「宮城県の強化指定選手に選ばれた。最低でも全日本大学対抗ウェイトリフティング選手権大会（インカレ）で入賞する力をつけ、全国で戦えるようになりたい」と意欲を述べ、「将来は、警察官を志望している。学業と部活動を両立させ、たくさんの人から応援される選手になりたい」と力強く思いを語りました。

左：伊藤重孝部長、右：松下さん

第5回アジア体操競技選手権
古谷嘉章さんがあん馬2位／鉄棒3位、小原孝之さんが鉄棒3位

左：古谷さん、右：小原さん

11月11日（日）～14日（水）まで中国の莆田市で開催された「第5回アジア体操競技選手権」の種目別決勝で、古谷嘉章（ふるたによしあき）さん（体育学科1年－大阪・清風高校出）があん馬で2位（14.500点）と鉄棒で3（14.450点）、小原孝之（おはらたかゆき）さん（体育学科2年－京都・洛南高校出）が鉄棒で3位（14.450点）と大健闘しました。

古谷さんは「2種目でメダルが取れて、うれしい気持ちでいっぱい。これからも強い意志を持って練習していきたい。ユニバーシアード大会の日本代表に選ばれるように頑張りたい」と語り、小原さんは「3位は偶然。相手のミスもあり、運も良かった。自分の体操を分析して、さらにメンタル面を強化していきたい。世界選手権やオリンピックに出場することができるように努力していきたい」と今の心境と今後の決意を述べました。

日本代表のコーチとして帯同した本学の鈴木良太助教は「古谷と小原は、大きな大会で結果を残した。今後につながる大会だった」と振り返り、「世界で通用する選手に成長してほしい」と期待を込めて語りました。

ボブスレー部　黒岩俊喜さん、
「アメリカンズカップ」日本チームボブスレー4人乗りで3位に貢献

11月17日（土）（日本時間18日）にカナダのカルガリーで行われた「アメリカンズカップ」ボブスレー4人乗りに、日本チームの一員として出場した黒岩俊喜（くろいわとしき）さん（運動栄養学科1年－神奈川・橘高校出）がブレーカーとして貢献しました。

1回戦で55秒44のタイムを出し、3位につけた日本チーム。2回戦で55秒64のタイムを出し、合計タイムが1分51秒08、そのまま3位と大健闘。優勝はアメリカ。2位はカナダという結果となりました。

黒岩さんは「ボブスレーは、大学からはじめた競技。海外遠征も初めての経験。スタート地点に過ぎない。」と浮かれた様子はなく、「体重を現在の80kgから10kg～20kg増やしたい。経験を積み重ねてオリンピックに出場したい」と気を引き締める。

高校時代に100m10秒77の自己ベストを持つ黒岩さん。これからも黒岩俊喜さんの活躍にご注目ください。

サッカーJ2水戸ホーリーホック　本学OB細川淳矢選手が来訪

ほそかわじゅんや

11月13日（火）に、本学OBの細川淳矢選手（H18年体育学科卒ー埼玉・武南高校出）が学長へ挨拶のため来訪しました。

前所属チームサッカーJ1ベガルタ仙台を任期満了で退団後、トライアウトで負傷してしまった細川選手ですが、リハビリ期間を経てJ2水戸ホーリーホックへ入団を果たしました。リハビリ中は母校である本学サッカー場や第3体育館トレーニングセンターで筋力トレーニングをしたりと、地道な努力を重ねてきました。

現在、細川選手は豊富な経験を武器に入団後すぐに得点を決めるなどチームに貢献されています。今後も是非細川選手の応援をよろしくお願い致します。

なお、写真で細川選手の着用しているユニフォームは、本学クラブハウス（ＫＭＣＨ）へ寄贈され、リラックスルームに展示されていますので、是非ご覧ください。

Sports For All ～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

Sendai University Public Relations

SENDAI UNIV.

Monthly Report

Vol.80／ 2012 Dec.

サッカー部主将 蜂須賀孝治さん、ベガルタ仙台入団内定

－仙台大学サッカー部から17人目のJリーガー誕生－

左から都丸スカウト、白幡社長、蜂須賀さん、吉井監督、朴澤学長

12月12日（木）、仙台大学第五体育館302教室で、仙台大学サッカー部主将である蜂須賀孝治（はちすかこうじ）さん(体育学科4年－桐生第一高校出)のベガルタ仙台入団内定共同記者会見が行われ、仙台大学サッカー部から、これで17人目のJリーガーが誕生しました。

ベガルタ仙台の白幡洋一社長、仙台大学からは、朴澤泰治学長・吉井秀邦サッカー部監督・蜂須賀さんが会見に臨み、宮城テレビ放送・東北放送・仙台放送の各テレビ局3社、河北新報社スポーツ部・河北新報社編集局デジタル編集部・日刊スポーツ新聞社東北総局・スポーツ報知新聞社東北支局・サンケイスポーツ東北支局・読売新聞社東北総局・朝日新聞社仙台総局・桐生タイムス（群馬県）・上毛新聞（群馬県）・プレスアートせんだいタウン情報の各新聞・雑誌社9社、延べ13社の報道各位から取材を受けました。

会見では、朴澤学長が「仙台大学サッカー部から、昨年の奥埜選手に続き、蜂須賀孝治君が地元のベガルタ仙台にお世話になることを大変嬉しく思う。教育機関の役割として地域連携があるが、ベガルタ仙台と本学との連携を通して、地域を元気に出来れば嬉しい。蜂須賀君の活躍を期待してほしい」と挨拶。【裏面に続く】

目　次

サッカー部主将 蜂須賀孝治さん、ベガルタ仙台入団内定	1
第17回新体操演技発表会	3
ロンドン2012応援感謝パレード	4
朴澤学長と菅原事務顧問がベトナムを訪問	5
全日本柔道連盟指導者養成講習会	6
健康づくり運動サポーター事業「健康カフェ」、「秋の健康収穫祭」合同報告会	7
OB・OG・学生の活躍	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
直通 0224-55-1802
内線 佐藤美保 256
渡辺誠司 271
土生佐多 200
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

共同記者会見の様子

左から白幡社長、父・豊さん、蜂須賀さん、母・規子さん

白幡社長は「ベガルタ仙台の補強の要はＤＦ。頼りがいあるＤＦを補強できたと思っている。蜂須賀選手は、人格・人間的にも常識をわきまえた良い選手であり、リーダーシップを発揮し、早くレギュラーを確保してほしい」と蜂須賀さんへの大きな期待と今後の活躍について述べられました。

蜂須賀さんからは「プロサッカー選手になる夢を実現し、ベガルタ仙台という強いチームに入団できて嬉しい。家族・サポーター・チームメイト・仙台大学への感謝の気持ちを忘れず、頑張っていきたい」と話し、「チームで必要不可欠・ポジションによっていろんな特徴が出せる変幻自在な選手になり、若手がチームを引っ張るという意識を忘れず一生懸命に頑張る」と抱負を述べ、プロで活躍することを力強く誓いました。

最後に、吉井監督が「2年連続でベガルタ仙台という強豪チームに選手を輩出できたことは誇りであり、監督として嬉しい。蜂須賀はダイナミックで、可能性を大いに秘めた選手。プレイだけでなく、責任感があり、自分を律することのできる素晴らしい選手」と蜂須賀さんを紹介しました。その後の個別質問も含めると1時間以上にも及ぶ共同記者会見は、熱気のうちに締めくくられ、先輩を祝福しようとかけつけたサッカー部の後輩達にとっても素晴らしいお手本として、何よりの刺激になったようです。

引き続き、蜂須賀孝治さん並びに仙台大学サッカー部への熱い声援を宜しくお願い致します。

【仙台大学サッカー部出身の歴代Ｊリーガー】

NO	氏　名	所属チーム	現役 引退
1	千葉修	鹿島ｱﾝﾄﾗｰｽﾞ　他	引退
2	平田圭	ｼﾞｪﾌ市原	引退
3	草野修治	横浜ﾌﾘｭｰｹﾞﾙｽ　他	引退
4	古川毅	ｺﾝｻﾄﾞｰﾚ札幌　他	引退
5	加見成司	名古屋ｸﾞﾗﾝﾊﾟｽ	引退
6	内館秀樹	浦和ﾚｯｽﾞ	引退
7	伊藤壇	ﾍﾞｶﾞﾙﾀ仙台　他ー ﾋﾞﾙﾄﾞ・ﾌﾞﾗｲﾄ・ﾕﾅｲﾃｯﾄﾞ (ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ)	現役
8	箕輪義信	ｼﾞｭﾋﾞﾛ磐田　他 ※2005年日本代表	引退
9	苫米地健一	水戸ﾎｰﾘｰﾎｯｸ	引退
10	芳賀博信	ｼﾞｪﾌ市原ー ｺﾝｻﾄﾞｰﾚ札幌	現役
11	赤井秀一	愛媛FC	現役
12	池上礼一	FC東京　他	引退
13	大橋良隆	ﾍﾞｶﾞﾙﾀ仙台ー AC長野ﾊﾟﾙｾｲﾛ(主将) ※2年連続(2011･2012年)、 JFLﾍﾞｽﾄｲﾚﾌﾞﾝ受賞	現役
14	金子恵	ザスパ草津	引退
15	細川淳矢	ﾍﾞｶﾞﾙﾀ仙台 ー水戸ﾎｰﾘｰﾎｯｸ	現役
16	奥埜博亮	ﾍﾞｶﾞﾙﾀ仙台	現役
17	蜂須賀孝治	ﾍﾞｶﾞﾙﾀ仙台	現役

※太枠は現役選手を示す。

蜂須賀さんの記者会見の模様【動画】(3分58秒)が本学ホームページでご覧頂けます。
※動画制作：スポーツ情報マスメディア研究所
映像アカデミー参加学生

「第17回新体操演技発表会」を開催

写真上：仙台大新体操競技部
中：渡邉真純（わたなべますみ）さん
（体育学科4年－山形北高校出）
下：庄司七瀬選手

写真上：仙台大ジュニア新体操教室
中：塚田早紀さん
下：三澤樹知選手

写真上：仙台大ブレイキン同好会
中：我妻彩（あづまあや）さん
（体育学科4年－青森山田高校出）
下：仙台大男子新体操同好会

12月2日(日)、本学第五体育館で仙台大新体操競技部主催の「第17回新体操演技発表会」が開催され、約350名の方々が来場されました。

まず最初に仙台大学を代表して、朴澤学長は「今回初めて第5体育館で発表会を開催することになった。皆様に楽しんで頂けるものと確信している。昨年建てられたばかりの第5体育館の広さや音響の良さも併せて実感してほしい」と挨拶しました。次に、同発表会を主催した仙台大新体操競技部の大山部長は「この日を迎えることができたのも、仙台大ジュニア新体操教室の保護者の皆様や大学の関係各位のご支援、ご協力のお陰」と感謝の言葉を述べ、「今回は、初めて仙台大ジュニア新体操教室の男子の演技が披露されるので注目してほしい」と見どころを紹介しました。

出演は、仙台大新体操競技部・仙台大ジュニア新体操教室・仙台大男子新体操同好会・仙台大ブレイキン同好会で、三澤樹知（みさわなち）選手（2008年北京オリンピック新体操競技団体代表）と庄司七瀬（しょうじななせ）選手（2007年佐賀インターハイ新体操競技女子総合優勝／史上2人目の3連覇達成）にも賛助出演して頂きました。会場内は各選手の大技が決まるたび大歓声や拍手喝采が起き、熱気に包まれました。

大学4年間の集大成とも言える発表会を終えた仙台大新体操競技部の塚田早紀（つかださき）主将(体育学科4年－群馬・富岡東高校出)は「これまで新体操を続けることができたのは、部長や監督をはじめ、多くの方々の支えがあったからこそであり、深く感謝している」と話し、「後輩達には今後も発表会を盛り上げていってほしい」とエールを贈りました。また、仙台大新体操競技部の河野監督は「発表会を無事終えることができ、ほっとしている。来年もさらに充実した発表会になるよう部員達を支援していきたい」と話しました。

今年で17回目を迎えた新体操演技発表会は、さわやかな余韻を残し、幕が閉じられました。

TOKYO2020招致支援で本学学生もロンドン2012応援感謝パレードに参加

ロンドンオリンピック・パラリンピックに出場した選手が12月2日（日）、仙台駅東口でパレードを行ない、関係者によれば沿道は約48,000人の人で賑わいました。

パレードには室伏広治選手（陸上男子ハンマー投げ銅メダル）や吉田沙保里選手（レスリング女子55キロ級3連覇）、村田諒太選手（ボクシング男子ミドル級金メダル）、そして宮城県気仙沼市出身の千田健太選手（フェンシング男子フルーレ団体銀メダル）など数多くのオリンピアンの他、ロンドンパラリンピックに出場した選手らも参加。

このパレードでは、本学の学生有志が2020年東京オリンピック・パラリンピック招致をPRする横断幕を招致委員会のスタッフとともに掲げ、オリンピアン・パラリンピアンと一緒に行進。笑顔で手を振りながら宮城野通りを練り歩きました。

学生にとっては、アスリートとともに行進する貴重な機会となりました。また、沿道からの沢山の声援を目の当たりにし、スポーツを学ぶ身として、スポーツの力を肌で感じたのではないかと思います。

＜寄稿：阿部篤志講師＞

【参加学生一覧】

NO	氏　名	学年	出身高校
1	伊藤ありさ	4年	古川黎明高校
2	佐々木里花	4年	一関第一高校
3	色川冬馬	4年	聖和学園高校
4	三浦崇悦	3年	福島東高校
5	青山史憲	2年	宮城広瀬高校
6	羽賀亜紀	2年	福島･橘高校
7	猪狩薫	3年	福島･桜の聖母学院高校
8	鎌上万里恵	3年	山形北高校

※NO1～6はスポーツ情報マスメディア学科所属。
NO7～8は体育学科所属。

デンマーク･リレベルト大学から教員2名が本学を訪問視察

左からメテ リヒター准教授、朴澤学長、アン マリー ディラ准教授、四釜さん、鎌田国際交流センター長、笠原准教授、高橋まゆみ准教授

12月3日（月）、国際交流協定校のデンマーク・リレベルト大学から教員2名が、鎌田幸雄国際交流センター長、高橋まゆみ准教授及び笠原岳人准教授と共に学長室を訪れ、デンマークに留学経験のある四釜千尋（しかまちひろ）さん（健康福祉学科3年－村田高校出）とも挨拶を交わしました。

今年9月に朴澤学長らがデンマークを訪問し、リレベルト大学と協定書を締結しました。今回の2名の訪問は、来年、リレベルト大学の学長が来学する予定のため、事前に視察を行うことが目的です。同大学からメテ リヒター准教授（国際交流センター長）とアン マリー ディラ准教授の2名が訪れました。

リレベルト大学の両准教授の予定は、3日（月）14時20分～本学教職員を対象とした講演会「社会起業家精神とは何か」をメテ リヒター准教授が行い、6日（木）12時40分～本学学生を対象とした講演会「北欧諸国の健康教育について」をアン マリー ディラ准教授が行う予定です。7日（金）には、亘理町で被災地の視察、9日（日）にデンマークに帰国するという日程となっております。

朴澤学長と菅原事務顧問がベトナムを訪問

ハノイ大学のLUAN総長と握手を交わす朴澤学長
左から2番目菅原事務顧問、3番目朴澤学長、4番目LUAN総長

独立行政法人日本学生支援機構が主催する「平成24年度日本留学フェア」が11月24日（土）～25日（日）に、ベトナムで開催されるのを契機に同フェアを視察するとともに、ベトナムの教育事情、留学生の交流の現状を把握し、今後のベトナムとの交流について本学の貢献すべき役割を構築することを目的として、朴澤学長に随行し渡航した。

ハノイで開催された同フェアには、我が国の国公私立大学等72機関が参加し、来場の日本留学希望の学生は866人、ホーチミンで開催された同フェアには、68機関815人の参加と発表があった。会場は熱気にあふれており、いずれも大変盛況で、日本留学熱の高いことを実感した。また、ハノイ大学を訪問し、LUAN総長と面談をした。その際、LUAN総長は「総長の職務として、向学心に燃えている学生に多様な勉学の場を与えることは、自分の職責の中でも最も重要なことと思っている」という趣旨のことを言われ今回の面談を大変喜んでおられた様子であった。「今後、学生の交流について、双方の国際交流の担当者間で実現の方向で詰めの協議を行う」ことで両学長間で意見の一致をみた。

また、ホーチミンに移動した際、ホーチミン社会科学人文大学の国際交流NGOC副部長と面談した後、ホーチミン市体育大学にTUNG国際交流部長の案内で訪問し、キャンパス内を視察した。両大学とも積極的に本学と交流を図りたいという意向を示し、ただちにハノイ出張中の学長の了解を得るとの説明があった。そのことを受け、今後国際交流担当者間で話を進めるべく意見の一致をみた。

その他、日本留学フェアに同行した各機関の多くの方々やベトナムで学んでいる日本からの留学生とも面談し、我が国の留学事情、ベトナムの留学事情、ベトナムの教育事情等々について実りある情報を得た渡航となった。

＜寄稿：12月7日(金) 菅原正弘事務顧問＞

リレベルト大学教員が被災地での災害ボランティアを見学

左から2番目アン マリー ディラ准教授、
3番目メテ リヒター准教授

デンマーク・リレベルト大学のメテ リヒター准教授とアン マリー ディラ准教授が12月7日(金)に、被災地である亘理町の公共ゾーン仮設住宅集会所で開催している災害ボランティアを見学し、「3.11の地震と津波のニュースをデンマークで聞いた時にはとても驚き、心配した。今回、日本に来て元気な皆さんにお会いできたことが嬉しい」と参加者に向け、お話されました。

また前日の6日(木)には、柴田町特定高齢者支援事業として開催している介護予防運動教室を見学し、実際に参加者に混ざり、プログラムに参加されました。「指導者が楽しい雰囲気で教室を進めているのはデンマークと似ている。行政と大学が協力してこのような教室を運営しているのはとても興味深い」とお話されていました。今回、両准教授に仙台大学で取り組んでいる健康づくりの現場に実際に足を運んでいただけたことで、今後のリレベルト大学との交流が更に深いものとなることを期待できると感じました。

＜寄稿：地域健康づくり支援センター＞

全日本柔道連盟指導者養成講習会

指導者養成講習会の様子

受け身について解説する南條准教授

12月9日（日）、仙台大学柔道場で、全日本柔道連盟指導者養成講習会が開催され、約130名の柔道指導者（学校・警察・スポーツ少年団等）の方々が参加しました。

同講習会は、全日本柔道連盟が平成25年度から実施する「公認指導者資格制度」への移行措置及び「安全指導」の徹底と指導者の「基礎指導力向上」を目的として開催されました。

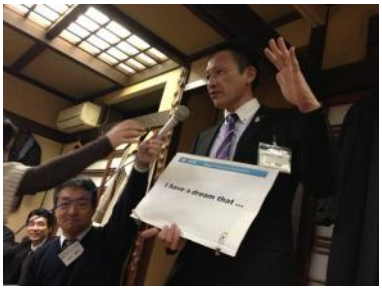
本学の南條充寿准教授（全日本柔道連盟強化委員会女子ジュニアヘッドコーチ）が同講習会の実技講師を務め、実演を交えながら「柔道の基本指導」をわかりやすく解説しました。

南條准教授は「他競技と比べ、柔道事故は突出して多い。この講習会を通して、常に危機感を持ちながら指導にあたってほしい」と力説し、「事故が起こらないよう環境を整える事故対応マニュアルや緊急連絡網の作成等が必要不可欠。正しい知識と迅速な対応の仕方を心得ておく必要がある」と話しました。

参加した受講生は、南條准教授の言葉に熱心に耳を傾け、メモを取る姿も見られました。

受講生からは「今回、改めて柔道の基礎・基本を学ぶつもりで参加した。南條先生の情熱が伝わってくるとても勉強になる講習会であり、参加して良かった」という声もあがるなど、大変有意義な講習会となりました。

「第8回スポーツを考える会」開催



仙台大学スポーツ情報マスメディア研究所（ISIM）は2012年12月13日（木）、仙台市内で「第８回スポーツを考える会」を開催しました。この会は地域スポーツクラブやスポーツ行政、マスメディア関係者、市民、本学教職員・学生など、スポーツに関係・関心のあるさまざまな方にご参加いただき、スポーツをテーマに情報共有や意見交換をしながらネットワークの構築を図るものです。

８回目となった今回の情報提供テーマは「デュアルキャリア」（話題提供者：阿部篤志講師）。デュアルキャリアとは、「高等教育の枠組みの中で、トップレベルで競技を行なうアスリートの、高いレベルでのトレーニングの継続を可能にするための環境・制度に対するアプローチ」をさします。アスリートにスポーツを「させる側」の責任や義務として、パフォーマンスと学業との実効性のあるバランスをいかに図るかがいま、欧州を中心に重要な政策課題の一つになっており、スポーツ基本計画にもその推進が明記されたことから、日本でも今後、さまざまな取り組みが行なわれていくとのことでした。

また今回の座長・土生善弘様（宮城県教育庁）からは、間もなく策定される「宮城県スポーツ推進計画」における今後10年間のビジョンとチャレンジについて、「I have a dream that…」というフレーズを用いた熱のこもったプレゼンテーションが。そのエネルギー溢れる姿に皆が引き込まれました。参加者はそれぞれの立場からこれらのテーマについて意見交換を活発に行ない、盛会となりました。

次回（第９回）の座長は宮城県高校体育連盟事務局長の鈴木秀利様にお願いをし、また新たなテーマでスポーツを考えます。

＜寄稿：スポーツ情報マスメディア研究所＞

健康づくり運動サポーター事業
「健康カフェ」及び「秋の健康収穫祭」合同報告会

12月10日（月）、本学学生食堂「なちゅら」で、平成24年度健康づくり運動サポーター事業の「健康カフェ」及び「秋の健康収穫祭」の合同報告会が開催され、本学教職員や柴田町役場等の方々計28名が参加しました。

同報告会の冒頭の挨拶で橋本実副学長（健康づくり運動サポーター事業推進責任者）は、「現在、国の基本方針として大学の人材育成に求められていることは、グローバル人材の育成・地域を活性化できる人材の育成である。本事業においては、「健康づくり」を通した地域活性化を実施できる人材育成に重点を置いており、実践的な教育の場として、今後も柴田町と密に連携を図りながら本事業を推進していきたい」と話しました。

学生達による発表では、自らの活動の成果を堂々と報告。「検証結果を生かして、今後に繋げていきたい」等々様々な意見を意欲的に述べました。

閉会の挨拶で小池和幸健康福祉学科長は、「健康づくり運動サポーター事業に関わった学生達は、健康づくりの場や教育の場で即戦力として活躍できると確信している。学生達は地域（柴田町）の参加者の方々に支えられ、温かく見守られているということを忘れないでほしい」と話し、「小さな成功体験の積み重ねを継続し、さらに力をつけてほしい。地域とより良い関係を構築し、社会に貢献できる人材育成を行っていきたい」と力を込めて話しました。

【「健康カフェ」発表学生】

NO	氏　名	学年	出身高校
1	泉幸	4年	米沢中央高校
2	田中亮	3年	新潟･村上桜ヶ丘高校
3	金山瑠里	3年	聖ドミニコ学院高校
4	後藤璃帆	3年	山形･九里学園高校

※NO1～NO4は健康福祉学科所属。
※「健康カフェ」は、10月10日～31日の水曜日（計4回）に船岡駅2F コミュニティープラザで実施。マンスリーレポート10月号で紹介しておりますので、ご参照下さい。

【「秋の健康収穫祭」発表学生】

NO	氏　名	学年	出身高校
1	奥山愛子	4年	青森･木造高校
2	松浦里紗	4年	福島西高校
3	四釜千尋	3年	村田高校
4	松原健人	3年	旭川大学高校

※NO1～NO4は健康福祉学科所属。
※「秋の健康収穫祭」は、11月4日（日）に槻木体育館及び下町集会所で実施。マンスリーレポート11月号で紹介しておりますので、ご参照下さい。

本学OBの植松鉱治選手と亀山耕平選手がDTBチームカップで体操日本チーム男子団体優勝に貢献

ＯＢ植松鉱治選手

ＯＢ亀山耕平選手

12月1日（土）、ドイツのシュツットガルトで行われた体操の「第30回ＤＴＢチームカップ」男子団体決勝に、日本チームの一員として出場した本学ＯＢの植松鉱治（うえまつこうじ）選手（KONAMI／H20年体育学科卒－大阪・清風高校出）と亀山耕平（かめやまこうへい）選手（徳洲会体操クラブ／H22年体育学科卒－埼玉栄高校出）が、日本チーム団体優勝に大きく貢献しました。2位はロシア、3位はイギリスという結果。

植松選手は、得意の鉄棒でDスコア6.9得点15.400、平行棒でもDスコア6.5得点15.166の高得点を連発。亀山選手も得意のあん馬でDスコア6.6得点15.366の高得点をマークするなど存在感を示しました。

今後も植松選手、亀山選手の活躍から目が離せません。引き続き、両選手へのご支援を宜しくお願い致します。

硬式野球部　宮坂基也さん、「プロ野球独立リーグ」に入団内定

本学硬式野球部の宮坂基也（みやさかもとや）さん（体育学科4年－帝京高校出、外野手、右投／左打、182cm／76kg）が2013年度新入団選手採用を目的としたプロ野球独立リーグ「四国アイランドリーグplus」のトライアウトに合格し、高知ファイティングドックス（監督は元南海ホークスの定岡智秋氏）から特別枠で指名され、12月10日(月)に入団が内定しました。

本学硬式野球部からプロ野球独立リーグへの入団は、初めてとなります。

宮坂さんは、入学時から硬式野球部に入部。3年次に投手から外野手に転向。野球が好きで、プロ野球選手になることを目指し、努力してきました。

宮坂さんは、50m6.0秒、遠投113mと高い身体能力を誇る選手。「大学4年間は思うような結果が残せず、悔しかった」と大学での野球生活を振り返り、「2月からのキャンプに向けて、コンディションを整え、絶対プロ野球選手になる」と今後の決意を力強く語りました。

夢の実現へ向けて歩み出した宮坂基也さんへのご支援を宜しくお願い致します。

第12回チェジュカップ柔道トーナメント（韓国・チェジュ島で開催）で岩瀬輝衣子さん（63kg級）、鈴木真佑さん（52kg級）が優勝

左：岩瀬輝衣子さん、右：鈴木真佑さん

12月8日（土）～11日（火）に韓国のチェジュ島で開催された「第12回チェジュカップ柔道トーナメント」で、岩瀬輝衣子（いわせきえこ）さん（63kg級／体育学科4年－愛知・大成高校出）と鈴木真佑（すずきまゆ）さん（52kg級／体育学科2年－京都文教高校出）が見事優勝を果たしました。

二人とも国際大会出場は初めての経験。仙台大学卒業後、柔道の実業団チームヤックスケアサービスで競技を続けることになった岩瀬さんは、「結果を残せたことは嬉しいが、内容は不満」と話し、「確実に勝ち切れる勝負強さ・技を身に付け、今度は日本代表になって、国際大会で優勝したい」と今後の抱負を語りました。

また、国内の大会で負けが続いていた鈴木さんは、「挑戦者の気持ちで臨めたことが良い結果に繋がったと思う。もっと強くなって、インカレでも優勝したい」と意欲を述べ、「さらに強くなるためには、広い視野を持つことが必要であり、人間的にも成長していきたい」と語りました。

仙台大学女子柔道部の南條和恵監督は、「海外に行って外国人選手との試合を肌で感じることができた。自分達が世界でも戦えると実感できたはず。もっと上の目標を目指し、意識を高く持って、出る杭になってほしい」と岩瀬さんと鈴木さんの今後の活躍を大いに期待しています。

その他の同大会出場選手は、仙台大学卒業後、柔道の実業団チームJR東日本で競技を続けることになった五味奈津実（ごみなつみ）さん（体育学科4年－東京・藤村女子高校出）が52kgで2位、瀬戸美里（せとみさと）さん（体育学科3年－東北高校出）が63kgで3位、松本友紀子（まつもとゆきこ）さん（体育学科3年－東大阪大学敬愛高校出）が70kgで3位という結果でした。また、団体戦は、初戦で韓国の馬山大学＜マサンダイガク＞に２－３で競り負け、残念ながら初戦敗退となりました。

引き続き、次の目標に向かって進み出した仙台大学女子柔道部への声援を宜しくお願い致します。

全日本大学サッカー選手権大会　総理大臣杯覇者・阪南大学に力負け

写真上下：前半1分、果敢に攻め上がった嶺岸光さん（赤いユニフォーム・背番号14）がシュートを放つも惜しくも外れる

12月19日（水）、江戸川区陸上競技場で平成24年度第61回全日本大学サッカー選手権大会1回戦が行われ、仙台大学は、今夏の総理大臣杯覇者の阪南大学と対戦しました。

仙台大学は立ち上がり1分、嶺岸光（みねぎしひかる）さん（体育学科3年－聖和学園高校出）がシュートを放ち、いつもの攻撃的なサッカーが出来ると思われましたが、相手の前からの早いプレッシャーに戸惑い、一方的に押し込まれる展開となりました。前半7分に失点。さらにセットプレーから前半33分に追加点を奪われました。そのまま０－２で前半が終了。

後半、少しずつチャンスが出来てきた仙台大学。後半17分、15日の練習中に右足首を捻挫して、ベンチスタートとなった主将の蜂須賀孝治（はちすかこうじ）さん（ベガルタ仙台入団内定／体育学科4年－桐生第一高校出）を投入。蜂須賀さんは攻守の要であり、チームの精神的支柱の選手。蜂須賀さんの投入によって攻守のリズムが良くなってきました。最大のチャンスは、熊谷達也（くまがいたつや）さん（全日本大学選抜／体育学科2年－柏レイソルユース出）のゴール前からのフリーキックでしたが、右ゴールポストに阻まれ決めきれず、また、途中出場の四分一龍之介（しぶいちりゅうのすけ）さん（体育学科2年－前橋育英高校出）がミドルシュートを放ちましたがゴールポスト上を僅かに外れました。最後までゴールを追い続けた仙台大学イレブンでしたが、結果は０－２の完敗。シュート数も仙台大学が4本（前半1本・後半3本）に対し、阪南大学は14本（前半9本・後半5本）という内容。

試合終了後、仙台大学の瀬川誠ヘッドコーチ（ベガルタ仙台からの派遣）は「相手の早いプレッシャーに仙台大らしいつなぐサッカーをやらせてもらえなかった。蜂須賀投入後は、選手達の気持ちが入った。蜂須賀はプレイだけでなく、声を出してチームに良い影響を与えてくれた。何回かはチャンスを作ったが、得点出来なくて悔しい」と試合を振り返りました。

蜂須賀主将は「今日の出場は無理だと思っていたが、仙台大の白幡恭子トレーナー（全米アスレティックトレーナー協会公認アスレティックトレーナー）の献身的なケアのお陰で30分間試合に出場することができた。試合には負けたが、大学サッカーに悔いはない」と冷静に話し、「仙台大は1･2年生主体の若いチーム。仲良しサッカーではなく、チーム内で切磋琢磨する仲間・高め合う仲間という強い意識を持って普段の練習を大切にして、全国でも勝てるチームに成長してほしい」と後輩達に熱いメッセージを残しました。

仙台大学サッカー部を支えて下さった皆様、試合会場まで応援に駆け付けて頂きました皆様に心からお礼申し上げます。

今回の敗戦をバネにして、さらに強く逞しいチームになることをご期待頂き、今後とも仙台大学サッカー部への応援を宜しくお願い致します。

全日本スケルトン選手権　本学OG小室希さん（仙台大職）が4連覇

写真右から米倉理絵さん、小室希さん、大向貴子さん
（写真提供：菊地志織新助手）

12月23日（日）、長野市ボブスレー・リュージュパーク（スパイラル）で2012年全日本スケルトン選手権が行われ、本学OGの小室希（こむろのぞみ）さん（仙台大職／H22年仙台大大学院修了－H19年体育学科卒－白石女子高校出）が堂々の大会4連覇（優勝は5回目）を果たしました。

バンクーバー冬季五輪女子スケルトン代表の小室さんは、一本目54秒94で1位につけ、二本目も55秒08で1位、2回の合計タイム1分50秒02で二本ともトップでゴールする完勝の滑りを見せました。また、本学OGの大向貴子（おおむかいたかこ）さん（丸善工業食品（株）／H18年運動栄養学科卒－石川・輪島高校出）が1分51秒02で2位に入り、米倉理絵（よねくらりえ）さん（運動栄養学科4年－利府高校出）が1分52秒46で3位という結果でした。

今シーズンの海外遠征ではなかなか結果を出せなかった小室さんは、「4連覇は意識しなかった。海外遠征の後半戦では、集中力を高められなかったこと、身体的・精神的な準備の調整不足等が反省点となった。今回の大会は、それらの反省点が生かされた大会になったと感じている」と振り返り、「一本目に自己ベストを更新することができた。来年のソチ冬季五輪を見据え、自分の力をさらに伸ばしていけるよう初心を忘れずに頑張っていきたい」と最後まで気を引きしめながら話しました。

これからも小室希さん、大向貴子さん、米倉理絵さん３名への温かい声援を宜しくお願い致します。

Sports For All ～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

Sendai University Public Relations

SENDAI UNIV.

Monthly Report

Vol.81／ 2013 Jan.

大河原町と「地域連携協力」に関する協定書を締結

前列左から2番目が朴澤学長、3番目が伊勢町長

仙台大学は1月23日（水）、大河原町役場で大河原町と「地域連携協力」に関する協定書を締結しました。調印式には、本学から朴澤泰治学長・丸山富雄副学長・藤井久雄運動栄養学科長・渡邉宣隆教職支援システムディレクター・渡邊一郎事業戦略室長の5名が、大河原町から伊勢敏町長・齋一志教育長・長山光一総務課長・高橋弘生涯学習課長・佐々木勝美学校教育専門監兼指導主事の5名が同席し、朴澤学長と伊勢町長とが協定書を取り交わしました。

今回の協定締結は、様々な教育上の諸問題に的確に対応するため、相互に連携協力し、双方の教育の充実・発展に資することを目的としています。事業内容は、①大河原町民の健康づくりに関すること、②児童・生徒の学校生活の支援に関すること、③教員養成や現職教員の研修に関すること、④生涯学習および生涯スポーツ事業への協力に関すること、⑤大学および学校における教育研究面での協力に関すること、⑥その他双方が必要と認める事業について連携協力を進めていきます。【次頁に続く】

目　次

大河原町と「地域連携協力」に関する協定書を締結	1
「管理栄養士合格修練会」第4回国家試験直前対策合宿講座	2
中国・台湾・タイからの留学生が日本の伝統文化に触れる	3
楽天4選手が体力測定 DAN DAN DANCE 9thを開催	4
仙台大学監修2013年カレンダー「楽しく！気軽に！カンタンに！トレーニング・エクササイズメニュー」が発行	5
OB・OG・学生の活躍	6

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
直通　0224-55-1802
内線　佐藤美保　256
渡辺誠司　271
土生佐多　200
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

調印式で伊勢町長は「大河原町と仙台大学は、これまでも教育実習・学習支援などを通して連携協定を行ってきた。この度、正式に連携協力に関する協定書を取り交わすことによって、小・中学校のみならず、幅広い連携が行われることを期待したい」と話し、朴澤学長は「本学は身体活動をベースに様々な分野への人材の育成という理念で教育活動を行っている。地域連携は、教育・研究とならぶ大学の基本的使命の一つとされており、協定取り交わしは遅れたが、実質的にはこれまでも長年に亘って大河原町とは連携を図ってきており、調印を機会にさらに連携を深め、様々な展開を図りたい」と述べました。

なお、本学における「地域連携協力」に関する協定書の調印は、宮城県・仙台市・柴田町等に続いて9例目となります。

固く握手を交わす朴澤学長（左）と伊勢町長

仙台大学「管理栄養士合格修錬会」第4回国家試験直前対策合宿講座

1月13日、14日の二日間（一泊二日）にわたり、仙台大学管理栄養士合格修錬会主催による第4回国家試験直前対策合宿講座（菊地志織寮長、服部恵未子第四代塾長、真木瑛事務局長）が仙台大学にて開催されました。本合宿では、残り2ヵ月と迫った国家試験に向けて、東京アカデミー講師による特別講義や国家試験問題を用いたレクリエーション、さらには深夜にまで及んだ集中学習など、多彩なプログラムが用意されました。今回は過去最多の8名の卒業生受験生が参加しました。

開会式では藤井久雄運動栄養学科長からの激励メッセージが紹介され、特別講義では、例年国家試験で最も配点が高いとされながら受験生にとって難しいとされる「臨床栄養学」と「人体の構造と疾病の成り立ち（解剖生理学）」について重点的に行われました。また、特別講義の他にも、体育系大学らしく大縄跳びをしながら問題を解くといった頭と体を使ったレクリエーションも行われました。学習室では深夜２時過ぎまで頑張る受験生の姿もありました。

合宿終了後には、「普段は毎日仕事をしながら、一人で勉強をしなければならない環境ですが、今回合宿に参加して、同窓生同士で母校にて励ましあいながら取り組めてよかった。同窓生全員で合格したいという気持ちが強まりました」や「お互い触発しあえる雰囲気の中で、わからないところを教えてもらったり、教えてあげたりで勉強そのものの楽しさも感じながら頑張れました」等々の感想を参加者より頂くなど、寝食を共にしながらの合格力アップの勉強に拍車がかかりました。

「合格修錬会」発足以来、本学国家試験の合格率は過去最高を毎年更新してきました（現在も更新中）。「合宿まで実施して卒業生を支援している大学は聞いたことがありません。大変ユニークであるし、こうした取組みそれ自体が仙台大学のアピールにもなっていくのではないでしょうか」（業界関係者談）

本年度の管理栄養士国家試験は3月17日（日）に行われます。関係の皆様のご理解ご協力に感謝しながら、管理栄養士合格修錬会は引き続き国家試験を受験する卒業生を応援して参ります。

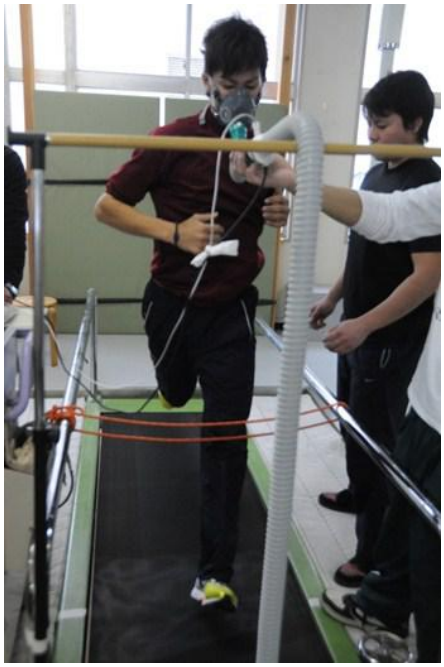
＜報告者：仙台大学管理栄養士合格修錬会
スタッフ佐藤幸子・堀江知世、主管：早川公康＞

プロ野球楽天新人7選手が体力測定

1月14日（祝･月）、プロ野球東北楽天ゴールデンイーグルスの2013年度入団新人7選手（森雄大投手・則本昂大投手・大塚尚仁投手・下妻貴寛捕手・島井寛仁外野手・柿澤貴裕外野手・宮川将投手）が本学を訪れ、身長・体重、最大酸素摂取量（全身持久力の指標）、脚筋力の測定を行いました。

最初に最大酸素摂取量の測定に臨んだ島井選手は「想像以上にきつく、最後は足がついていかなかった。自分の体力を数値で知ることができて良かった。来年はこの結果を上回る数値が出せるようにもっと体力をつけていきたい」。脚筋力の測定を終えた下妻選手は「疲れた。もともと体力には自信がないが、自分の脚筋力のバランスが悪いことを知ることができた。脚筋力の数値が明確になったので、肉離れ等の怪我防止につなげたい」。2013年度ドラフト1位の森選手は「このような科学的なトレーニングは初めてで、良い経験になった。この体力測定の数値結果を踏まえて、怪我の予防やパフォーマンス向上につなげていきたい」。

測定指導を行った本学の高橋弘彦教授（専門：運動生理学）は「測定結果の数値が高いか低いかによって、自分の体が疲れやすいのか、怪我を起こしやすいのかを知ることができる。1シーズン戦う総合的な体力を自分で高め良いシーズンにしてほしい」とエールを送りました。



最大酸素摂取量を測定する森雄大選手

中国･台湾･タイからの留学生が日本の伝統文化に触れる

－日本文化体験学習「着物をまとう」－

1月24日（木）、日本の伝統文化に触れることを目的として、中国・台湾・タイからの留学生14名が日本文化体験学習「着物をまとう」（主催：仙台大学学生支援センターインターナショナル・ラーニング・サポートグループ）に参加しました。

衣装提供や着付け等は、株式会社鈴乃屋（着物のレンタル事業等を展開）の全面協力を得て、着付け指導や着物の知識等に関する講義は、阿部武彦名誉教授（国文学）が行いました。

留学生たちは、初めて振り袖や紋付袴をまとうことに緊張しながらも、日本の伝統文化に親しみました。

上海体育学院（中国）から留学中の蘆健＜ロケン＞さん（男性）は「照れくさいが、かっこよくて気に入った。中国に着物はない。日本文化の素晴らしさを感じる。新しいことを経験し、すがすがしい気持ち」。シーナカリンウィロート大学（タイ）から留学中のスパウィ・サイタレーさん（女性）は「着物は日本映画で観て憧れだった。着物は綺麗で、着心地が良い。帯が少しきつくて動きづらいが、日本文化を理解する上で良い経験になった」とそれぞれ感想を述べました。

阿部名誉教授は「民族衣装をまとうことは、その国の人々の心に触れること。みんなよく似合っていましたね。同じアジアの民族として一衣帯水（いちいたいすい）の思いを深くしました」と話しました。

なお、日本文化体験学習では、引き続き「日本の宗教（禅寺と神社）」・「華道」等を行う予定です。

プロ野球楽天4選手が体力測定を実施

プロ野球東北楽天ゴールデンイーグルスの4選手（岡島豪郎選手・島内宏明選手・北川倫太郎選手・枡田慎太郎選手）が１月26日（土）、本学の最新機器を利用して、「脚筋力」・「皮下脂肪厚」・「最大酸素摂取量（全身持久力の指標）」の測定を行いました。

昨年10月24日に左脚膝蓋骨骨折をし、現在リハビリ中の北川倫太郎選手は「今回の脚筋力の測定目的は、右脚と左脚の筋力の差を知ること。右脚に比べて、骨折した左脚の方が3割程弱いという測定結果が出ました。脚筋力のバランスを左右同じに戻せるよう、地道にトレーニングを行い、1軍に上がって試合に出たい」。また、最大酸素摂取量の測定を終えた島内宏明選手は「今シーズンは、自分の体力の無さを実感した。7連戦・8連戦になると、思うようにバットが振れなかったり、ボールが投げられなくなったりします。シーズンを通して戦える体力を身につけ、レギュラーとして出場機会を増やしたい」と体力測定の重要性と来シーズンへの抱負を語りました。

最大酸素摂取量の測定補助を行った本学卒の難波昇吾（なんばしょうご）さん（仙台市健康増進センター勤務／H22年仙台大学大学院修了－H20年体育学科卒－兵庫県立相生高校出）は「体力測定の仕方やプロ選手の体力データを知ることができる貴重な機会。現在、仙台市健康増進センターで高齢者に対して、体力の維持・増進のために運動指導を行っているが、データの見方や分析の仕方を参考にしたい」と意欲的に話しました。

脚筋力を測定する北川倫太郎選手

「DAN DAN DANCE ＆ SPORTS 9th」を開催

今年で9回目を迎えた「DAN DAN DANCE ＆ SPORTS 9th」が1月26日（土）に「えずこホール（仙南芸術文化センター）」で開催され、約300名の方々が来場されました。

冒頭、主催者を代表して本学の山梨雅枝助教（ダンス）より「実行委員をはじめ、学生有志の頑張りや仙台大学の関係各位の温かいご理解・ご協力のお陰で開催することができた。28組の躍動感あふれるダンスをご覧頂きたい」と挨拶がありました。

トップを飾ったのは、気仙沼市から初出演した「なんでもエンジョイ面瀬クラブ」。“はまらいんや”の曲に合わせてオリジナルダンスを披露しました。仙台大学からは、新体操競技部・体操競技部・ブレイキン同好会・留学生ほか多数の団体が出演し、力強くかつ華麗な演技で会場を魅了しました。また、高校生やその他の団体も個性あふれるダンスを披露しました。

DAN DAN DANCE ＆ SPORTS 9thを終えた実行委員長の安部翔子（あべしょうこ）さん（体育学科4年－宮古商業高校出）は「無事に終えることができて一安心。周りの協力があって成功できた」と感謝の言葉を述べ、「人に的確な指示を出すことの難しさを実感した。何事にも失敗を恐れず、挑戦していきたい」と率直な感想と今後の抱負を話しました。

山梨助教は「当日の運営を学生たちに安心して任せることができた。責任感を持って取り組んでくれたことが嬉しかった。内容としては、もう少しダンスの出演ジャンルを増やしていきたい。来年は10回目と節目の年。ぜひ盛り上げたい」と意欲的に話しました。

当日ご来場頂きました皆様、「DAN DAN DANCE ＆ SPORTS 9th」の開催運営にご支援ご協力を賜りました皆様に感謝申し上げます。

明成高校県南地区一般入試を本学で初実施

1月28日（月）＜Ａ日程＞及び1月30日（水）＜Ｂ日程＞に、本学第五体育館302教室を会場として、本学と姉妹校である明成高校の県南地区一般入試が本学において初めて実施され、28日のＡ日程には34名、30日のＢ日程には19名が受験しました。両日、受験生たちは緊張した面持ちで試験に臨みました。

仙台大学監修2013年カレンダー「楽しく！気軽に！カンタンに！トレーニング・エクササイズメニュー」が発行に

㈱大日本印刷東北から制作依頼を受け発行された、クリーニング店（ホワイト急便）の2013年カレンダー『楽しく！気軽に！カンタンに！できるトレーニングやエクササイズメニュー』に12か月全て本学教員の提案内容が、右記の通り掲載されました。

このカレンダーは、北海道・宮城・山形・福島の4道県で5万部発行後、同クリーニング店の利用者の方々へ販売・配布され、家庭で一年を通し、カレンダーを見て気軽に運動やエクササイズができるように工夫された内容になっています。

学生募集の一助になるようにと、各先生方のご協力のもと制作協力し、橋本副学長に監修していただきました。

1月	美容と健康は正しい姿勢から	全米ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰ協会 公認ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰ 山口　貴久　講　師
2月	肩こり予防・解消 ｽﾄﾚｯﾁ＆ｴｸｻｻｲｽﾞ	全米ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰ協会 公認ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰ 高橋　陽介　助　教
3月	簡単ﾊﾞﾚｴｴｸｻｻｲｽﾞ ～ﾊﾞﾚｴのﾎﾟｰｽﾞでほっそりBody～	ﾏﾝｽﾘｰﾋﾞｸｽｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 山梨　雅枝　助　教
4月	ｲｷｲｷ過ごすための心のｾﾙﾌｹｱ	臨床心理士／認定ｽﾎﾟｰﾂｶｳﾝｾﾗｰ 菊地　直子　准教授
5月	美しく楽しくｳｫｰｷﾝｸﾞ	日本体力医学会評議員 宮西　智久　教　授
6月	腰痛予防のためのﾎﾟｲﾝﾄ 日頃の生活で腰痛にならないために	理学療法士 笠原　岳人　准教授
7月	熱中症予防 ～暑い夏を健康に乗り切ろう！～	医師・副学長 橋本　実　教　授
8月	うたいながら♪ｶﾝﾀﾝ 筋力ｱｯﾌﾟﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ	健康福祉学科長／ ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ 小池　和幸　教　授
9月	快適に眠るためのｺﾂ ～心地よい眠りで明日も元気に～	医師・副学長 橋本　実　教　授
10月	10秒で体を柔らかくする方法	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞｾﾝﾀｰ企画課 加賀　洋平　課　長
11月	ｽﾄﾚｯﾁで冷え症改善	全米ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰ協会 公認ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰ 山口　貴久　講　師
12月	免疫力ｱｯﾌﾟ！の食事と運動	管理栄養士／公認ｽﾎﾟｰﾂ栄養士 岩田　純　講　師

広報室・会計課でも今年のカレンダーとして使用していますので是非ご覧ください。

割引クーポン付のカレンダーは、毎年良く売れ、人気があるそうです。
（宮城県は1部200円で販売）

写真：仙台大学近くの店舗の様子

全日本大学女子サッカー選手権大会　初戦大勝発進

試合前の仙台大学女子サッカー部イレブン

2ゴールを決める活躍を見せた加賀孝子さん

12月26日（水）、兵庫県立三木総合防災公園（兵庫県三木市）で平成24年度第21回全日本大学女子サッカー選手権大会（以下インカレ）1回戦が行われ、仙台大学（東北第1代表）は、愛媛大学（四国第2代表）と対戦しました。

仙台大学は、立ち上がりから主導権を握り、ボールを支配しました。前半14分、落合優子（おちあいゆうこ）さん（健康福祉学科3年－東北高校出）からの折り返しを泉知里（いずみちさと）さん（健康福祉学科4年－富岡高校出）が押し込んで、どうしても欲しかった先制点を奪いました。直後の前半15分には、早坂佳苗（はやさかかなえ）さん（運動栄養学科1年－聖和学園高校出）のスルーパスから抜け出した門間香奈実（もんまかなみ）さん（体育学科1年－東北高校出）がGKをかわし、そのまま落ち着いて流し込み、２－０。前半24分、相手オウンゴールで3点目。前半35分、コーナーキックから早坂佳苗（はやさかかなえ）さんが頭で決め、４－０で前半を折り返しました。

後半に入っても仙台大学の攻撃の手は緩まず、後半25分、右サイドをえぐった相馬（そうま）みなみさん（体育学科3年－岩手・不来方高校出）からのクロスを小泉祥子（こいずみしょうこ）さん（体育学科4年－富岡高校出）が鮮やかなゴール。これで５―０となりました。後半36分、早坂佳苗さんからのクロスを加賀孝子（かがこうこ）さん（スポーツ情報マスメディア学科1年－ジェフユナイテッド市原・千葉レディース出）がボレーシュートで決め6点目。さらに後半39分、加賀孝子さんがこの日2点目となるゴールを決め、７－０と大量リード。後半40分、GKが弾いたこぼれ球を岩崎杏奈（いわさきあんな）さん（スポーツ情報マスメディア学科2年－前橋育英高校出）が押し込み、８－０。終始相手を圧倒し続けた仙台大学が大勝で見事初戦を突破しました。

インカレ初ゴールを決めた小泉祥子さんは「インカレの舞台で得点を決めることができて嬉しい」と笑顔で話し、「次も積極的に仕掛けてゴールを決めたい」と次戦に向けて意欲を見せました。

黒沢監督は「早い時間帯に先制点を取ったことが大きい。これでチームに勢いがついた」と話し、「次の姫路日ノ本短期大学戦は厳しい試合が予想されるが、攻守の切り替えを素早く行い、粘り強い守備で勝ちにこだわりたい」と次戦へ向けての抱負を述べました。

【次頁に続く】

全日本大学女子サッカー選手権大会　ベスト8進出ならず

※写真上：後半20分、加賀孝子さん（赤いユニフォーム・背番号20）のヘディングシュートがゴールポストに阻まれる
※写真中：後半ロスタイム、小島ひとみさん（赤いユニフォーム・背番号18）が頭で合わせるが、GKがパンチングで阻止
※写真下：試合に敗れ、涙を流す選手を励ます黒沢監督（左端）

12月28日（金）、冷たい雨の降りしきる中、兵庫県立三木総合防災公園（兵庫県三木市）で平成24年度第21回全日本大学女子サッカー選手権大会（以下インカレ）2回戦が行われ、仙台大学（東北第1代表）は、ベスト８進出をかけて姫路日ノ本短期大学（関西第2代表）と対戦し、1点を争う緊迫した好ゲームとなりました。

前半立ち上がりはお互いに流れをつかもうとしたため、落ち着かないゲーム展開で進みました。前半23分にゲームは動きました。相手のペナルティーエリア外からのロングシュートが守護神・遠藤穂奈美（えんどうほなみ）さん（体育学科3年－東北高校出）の頭上を越えてゴールへ吸い込まれました。先制点を奪われ、相手に流れが移るかと思われましたが、仙台大学もしっかり食らいついて、対等に戦い、前半を０－１[前半シュート数：仙台大学2本、姫路日ノ本短期大学4本]で折り返しました。

ハーフタイムで黒沢監督は「慌てずに、状況をしっかり確認して、ボールをつないでいこう」と指示。後半は加賀孝子（かがこうこ）さん（スポーツ情報マスメディア学科1年－ジェフユナイテッド市原・千葉レディース出）が広い視野と精度の高いパスで攻撃の起点となりました。

最大のチャンスは後半20分、岩崎杏奈（いわさきあんな）さん（スポーツ情報マスメディア学科2年－前橋育英高校出）からのコーナーキックを加賀孝子さんが頭で合わせましたが、ボールは惜しくもゴールポストにあたり、同点とはなりませんでした。後半ロスタイムにも岩崎杏奈さんの正確なコーナーキックから小島（おじま）ひとみさん（健康福祉学科2年－聖和学園高校出）がヘディングシュートを試みますが、GKのパンチングで弾かれ、得点にはなりませんでした。試合は０－１[後半シュート数：仙台大学7本、姫路日ノ本短期大学4本]で惜敗。残念ながらベスト８進出はなりませんでした。

試合終了後、「負けて悔しい。現状に満足せず、普段から良い環境でサッカーをさせて頂いているという感謝の気持ちを結果で示したかった。後輩達には、来年のインカレでもっと良い結果を残してほしい」（山田綾主将（やまだあや）、運動栄養学科4年－東北高校出）。「この大会を通して、選手達のメンタル面・技術面での成長を実感している。来年のインカレにつながる収穫の多い大会だった」（本多コーチ）。「ベスト４を目標に掲げていたので、この結果は悔しい。後半は幾度もチャンスを作ったが、ゴールを決めきることが出来なかった。こぼれ球でも貪欲にゴールをねらいにいくという執念が感じられず、まだまだ気持ちが足りない。もっとシュートやクロスの精度を高めるトレーニングを積み重ねて、この悔しさを来年のインカレにつなげたい」（黒沢監督）。とそれぞれに無念さや悔しさを滲ませながら話しました。

これからも高い目標に向かって前進し続ける仙台大学女子サッカー部への熱い応援を宜しくお願い致します。

サッカー部副主将　木内瑛さん、「JFLブラウブリッツ秋田」に入団内定

新入団選手の記者会見（1月17日）の様子
写真上段右端が木内瑛さん
（写真提供：ブラウブリッツ秋田）

1月17日（木）、本学サッカー部副主将の木内瑛（きのうちよう）さん（体育学科4年－秋田・西目高校出、DF、178cm／70kg）のサッカーJFL「ブラウブリッツ秋田」への入団が内定しました。本学サッカー部からブラウブリッツ秋田への入団は、大金祐輔（おおがねゆうすけ）さん（H22年体育学科卒－福島・湯本高校出）以来2人目となります。

木内さんは、秋田・西目高校サッカー部3年時に全国高等学校サッカー選手権大会に出場し、主将を務めました。本学サッカー部2年時に総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントで3位に貢献、1・2年時に北海道・東北選抜に選ばれ、4年時には副主将を務めました。

木内さんは「大学1･2年時はレギュラーとして活躍できたが、3･4年時は怪我が多く、思うような活躍ができずに苦しい思いをした」と語り、「1月22日（火）からチームに合流するが、練習から自分の持っている力を100%出していきたい。開幕スタメンが勝ち取れるよう頑張りたい」と意欲を見せました。

JFLではAC長野パルセイロ主将の大橋良隆（おおはしよしたか）さん＜2年連続（2011年・2012年）JFLベストイレブン受賞、H17年体育学科卒－浦和南高校出＞がチームの中心選手として活躍しています。木内さんと大橋さんの対戦が非常に楽しみです。

ボブスレー･リュージュ･スケルトン部　米倉理絵さん、全日本スケルトン選手権で3位入賞と大健闘

12月23日（土）、長野市ボブスレー・リュージュパーク（スパイラル）で2012年全日本スケルトン選手権（女子）が行われ、本学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部の米倉理絵（よねくらりえ）さん（運動栄養学科4年－利府高校出）が3位入賞と大健闘を見せ、自身初の表彰台を獲得しました。

前日の公式練習では6位とタイムが伸びなかった米倉さんでしたが、本番では、一本目56秒34と4位につけ、二本目56秒12と自己ベストを更新。2回の合計タイムが1分52秒46で、見事3位入賞を果たしました。

全日本スケルトン選手権で6位が最高成績だった米倉さんは「全日本で表彰台に立つことを目標に頑張ってきたので、すごくうれしい。」「公式練習では調子が悪かったが、本番ではあまり深く考えず、思い切って今までにないくらいの最高の滑走ができた。」と笑顔で振り返り、「今後も競技を続ける。オリンピックに出場したい」と抱負を語りました。

私はこの4年間スケルトン競技にのめり込んできました。練習を行うたびに滑走技術が上がり、100分の1秒でもタイムを伸ばそうと努力してきました。時にはうまくいかず、壁にぶち当たったこともありました。しかし、たくさんの方々の支えがあり、今回、全日本選手権で3位入賞という成績を残すことができました。スケルトンという競技は私にとって、自らを大きく成長させてくれた、かけがえのないスポーツです。

運動栄養学科4年　米倉理絵

＜取 材 日：1月23日（水）、
取材場所：仙台大学ボブスレープッシュトラック＞

ボブスレー･リュージュ･スケルトン部　全日本ボブスレー選手権　3位入賞

左から近藤さん、渡辺さん、三上さん、進藤さん

12月24日（日）、長野市ボブスレー・リュージュパーク（スパイラル）で2012年全日本ボブスレー選手権男子4人乗りが行われ、本学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部の三上大輝（みかみだいき）さん（体育学科4年－岐阜・中津高校出）、進藤亮祐（しんどうりょうすけ）さん（運動栄養学科4年－仙台商業高校出）、渡辺瑞基（わたなべみずき）さん（体育学科4年－札幌山の手高校出）、近藤康行（こんどうやすゆき）さん（スポーツ情報マスメディア学科1年－兵庫・松陽高校出）のチームが3位に入賞する健闘を見せました。

一本目で54秒27と2位につけ、二本目で54秒36のタイム。一本目に3位であったチームが、二本目には54秒26とタイムを上げ、合計タイム0.06秒という僅かな差で逆転を許しました。

パイロットの三上さんは「コース取りの悪さと操作ミスが重なり、速度が落ちたことが敗因」と悔しい表情を浮かべながら振り返り、「目標は2位だったので、3位という結果は悔しいが、表彰台に立つことができて嬉しい。大学生活最後に良い思い出ができた」と話しました。

＜取 材 日：1月23日（水）、
取材場所：仙台大学ボブスレープッシュトラック＞

今回、全日本選手権大会に仙台大学として、4年生の先輩方とチームを組んで戦えたことは本当に楽しく、良い経験になったと思います。

4年生にとっては、最後の全日本選手権大会だったので、最後に表彰台に4人で立つことができて嬉しかったです。

来年からは4年生が卒業されるので、自分たち新チームで先輩方に追いつけるように頑張りたいと思います。

ｽﾎﾟｰﾂ情報ﾏｽﾒﾃﾞｨｱ学科1年　近藤康行

この4年間は最高の4年間でした。良いことも悪いこともありましたが、今では全てが忘れられない思い出です。今大会では3位という結果でしたが、正直悔しいです。

もうこのメンバーでチームを組めませんが、最高のチームでした。卒業後、スケルトンでオリンピックを目指して北海道で活動します。仙台大学で培ったことを今後の競技生活に活かしていきたいと思います。

体育学科4年　渡辺瑞基

私がボブスレーに出会ってから4年が過ぎた。気がついたらもう卒業だ。ボブスレーには様々な経験をさせてもらった。3度の全日本選手権入賞やUSA/CANADAでの国際大会出場、どれも私には初めての経験だった。

仙台大学での4年間は私を大きく成長させた。ボブスレー部で培った経験を生かし、卒業後は消防士として市民の為に貢献したい。そしてチャンスがあればそれを生かし冬季オリンピックを目指したい。

「創意工夫」は人を成長させる。できないのではなく、思いつかなかっただけだ。どこかに良い方法はあるはず。だと後輩に伝えたい。

体育学科4年　三上大輝

4年間の集大成が発揮できた大会でした。もっと上に行くぞという気持ちで試合に臨んでいたので3位という結果に満足はしていませんが、初めてチームを組んだ4人でメダルを取れたということを誇りに思っています。

学生生活での競技は今回の大会で終わりですが、ボブスレー部で培ってきた人間力や集中力はこれからの人生でも活かしていきます。また、後輩たちには更に良い結果が出せるように、これからもトレーニングに励んでほしいです。私も負けないように頑張ります。

運動栄養学科4年　進藤亮祐

2013年女子世界フロアボール選手権大会アジアの日本代表チームに仙台大から3名選出

左から朴澤学長、泉さん、松浦さん、宇野澤さん、高崎部長

2013年2月20日（水）～24日（日）まで韓国・ポチョン市で開催される2013年女子世界フロアボール選手権大会アジアの日本代表チームに仙台大から松浦里紗（まつうらりさ）さん（健康福祉学科4年－福島西高校出）、泉幸（いずみさち）さん（健康福祉学科4年－米沢中央高校出）、宇野澤衣里（うのさわえり）さん（体育学科2年－宮城広瀬高校出）の3名が選出されました。

1月31日（木）、松浦さん・泉さん・宇野澤さんの3名と高崎義輝部長が学長室を訪れ、同選手権大会の日本代表チームに選出されたことを報告。朴澤学長から選出のお祝いの言葉と激励を受け、学生たちは初の国際大会へ挑む決意を新たにしました。

同選手権大会への参加国は、日本・韓国・オーストラリア・シンガポールの4ヶ国。日本代表チームは、2月19日（火）に韓国へ渡り、初戦となるシンガポール戦に備えます。世界の舞台で活躍する仙台大学生3名にご期待ください。

Sports For All ～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

Sendai University Public Relations

SENDAI UNIV.

Monthly Report

Vol.82／ 2013 Feb.

30歳でプロバスケットボールの世界へ
― OB阿部一貴選手（bjリーグ仙台89ERS）

写真：©SENDAI 89ERS/bj-league

写真：©SENDAI 89ERS/bj-league

2月5日（火）、本学ＯＢの阿部一貴（あべかずき）選手（H16年体育学科卒－酒田工業高校出、174cm／72kg、背番号10）が男子プロバスケットボール、bjリーグ仙台89ERSと正式契約を結びました。本学から仙台89ERSへの入団は、佐藤真哉（さとうしんや）選手（H11年体育学科卒－東北高校出、2005年～2010年シーズンまで仙台89ERSでプレー）以来2人目となります。

阿部選手は、仙台大学では主将を務め、大学卒業後は、地元山形の民間企業に勤めながら吹浦クラブ（山形県遊佐町）でプレーしていました。プロになる夢を叶えるため、昨年企業を退社。昨年7月に仙台89ERSのセレクションを受けて、9月から仙台89ERSの練習生として約5ヶ月間チームに同行するなか、遂に30歳で夢を掴みました。

阿部選手は「大学時代は主将として自由にさせてもらった。寮生活で仲間と過ごした4年間は、かけがえのない思い出。技術より精神的に成長できた4年間だった」と大学時代を謙虚に振り返り、「プロになれて正直ホッとしている」と笑顔で話し、「乾坤一擲（けんこんいってき）の人生の大勝負。早く試合に出て、とにかく結果を残したい」と厳しいプロの世界で戦う決意を語りました。

挑戦し続ける阿部一貴選手への温かいご声援を宜しくお願い致します。

【インタービュー記事：次頁に有り】

＜ 目 次 ＞

30歳でプロバスケットボールの世界へ ― OB阿部一貴選手	1
留学生が日本伝統工芸の「姉様人形作り」を体験	3
クロスカントリー教室を開催	4
大学院修士論文、リサーチペーパー発表会を開催	5
ボッチャ競技大会を開催	8
学生の活躍	9

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
直通 0224-55-1802
内線 佐藤美保 256
渡辺誠司 271
土生佐多 200
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

プロバスケットボール選手（bjリーグ仙台ERS）OB阿部一貴選手インタビュー

「乾坤一擲の人生の大勝負」

写真：©SENDAI 89ERS/bj-league

Q1. バスケットボールをしたきっかけは？

「地元にはバスケットボールのスポーツ少年団しかありませんでした。
本当は野球がしたかったのですが、仕方なくはじめたって感じです。」

Q2. プロになった感想は？

「ファンからの熱い声援を受け、改めて重みを感じています。
支えてくれている家族のためにも頑張りたいです。」

Q3. バスケットボールを続ける原動力は？

「続ける原動力は、やっぱりバスケットボールが**「好き」**だからです。
自分からバスケットボールをとってしまったら、何も残りません。」

写真：©SENDAI 89ERS/bj-league

Q4. 食事で気を付けていることは？

「単身赴任で一人暮らしなので、**「野菜」**と**「米」**を食べるように気を付けています。ウェイトトレーニングの後は、炭水化物を摂るように心がけています。」

Q5. 今の目標は？

「チームとしては、プレーオフに進出することです。
個人としては、早く試合に出場してチームの勝利に貢献したいです。」

Q6. 仙台大学で印象に残っている先生や講義は？

「主将を任された自分にとって、勝田先生の**「コーチング論」**は、リーダーシップやチームワークの大切さなどを学ぶことができ、本当に勉強になりました。宮城先生の**「海浜実習」**では、自信を与えてくれました。恩師の児玉先生には今でも頭が上がりません。」

Q7. 仙台大学で学んで今、生かされていることは？

「大学時代にトレーニングに関する基礎・基本を学ぶことができたと同時に、社会人としての**「基本的なルール」**を学ぶことができたと思います。今、身を持って生かされていると感じています。」

Q8. 仙台大学の後輩たちへメッセージをお願いします。

「大学卒業から8年経っても**「夢」**を思い続け、行動に移した結果、プロバスケットボール選手という**「夢」**を実現することができました。思い続けることが大事。やらずに後悔してほしくない。家族や先生方への感謝の気持ちを忘れず、何事にも積極的に挑戦してほしいです。」

PROFILE

阿部 一貴（あべ かずき）／プロバスケットボール選手（bjリーグ仙台ERS）

1983年1月6日生まれ。A型。山形県出身。174cm／72kg。ポジションはPG／SG。
趣味はドライブ・読書。好きな食べ物はエビチリ。ニックネームはカズ。
小学校4年生でバスケットボールを始め、山形県立酒田工業高校に入学、3年時は県ベスト8。仙台大学時代は主将。東北学生バスケットボール選手権では、優秀選手賞に選ばれ、得点王・3ポイント王を受賞。大学卒業後は、地元山形の企業に勤めながら吹浦クラブ（クラブチーム）でプレー。2006年から山形県国体チームに選出。2012年9月からbjリーグ仙台ERSの練習生としてチームに同行。2013年2月5日、仙台ERSと正式に選手契約を締結。プロバスケットボール選手として、試合出場を目指す。

留学生が日本伝統工芸の「姉様人形作り」を体験

写真上下：午前の部の様子
（前列中央が講師の大槻幸子氏）

写真上下：午後の部の様子

2月3日（日）、留学生たちが柴田町の第4区集会所で、日本の伝統工芸「姉様人形作り」を体験（主催：柴田町日中友好協会）しました。（留学生19名＜午前の部10名、午後の部9名＞が参加。）「姉様人形」は、江戸時代に流行した和紙を使った女の子のままごと遊びの一つで、和紙による人形作りです。

講師は、柴田町男女共同参画審議委員の大槻幸子氏（元小学校教諭）が務めました。大槻氏は「和紙は色彩の美しさ、精巧な模様、丈夫さ、どれをとっても世界に誇れるものである。姉様人形作りを通して、和紙の素晴らしさを外国の方にも知ってほしい」と話されました。

留学生たちは、細かい作業に戸惑いながらも真剣に「姉様人形作り」に取り組んでいました。台東大学（台湾）から留学中の李政欣＜リチュンシン＞さん（女性）は「とても楽しかった。今回も日本の伝統文化に触れることができ、良い経験になった。姉様人形を上手に作れたので、台湾に帰ったら母親にプレゼントする」。瀋陽師範大学（中国）から留学中の劉俊希＜リュウジュンシ＞さん（男性）は「難しかった。特に紙人形の胴体部分を作るのに苦労した。和紙の質や柄が素晴らしかった。姉様人形は中国の家族へのお土産にする」と嬉しそうに笑顔を見せながら話しました。

最後の挨拶で大槻氏は「男子留学生がたくさん来てくれたこと、みんなが真面目に取り組んでくれたことが特に嬉しかった。自国に帰ったら、日本の伝統文化を広めてほしい」。柴田町日中友好協会の加茂紀代子副会長は「今後も留学生が日本のことを知るための行事を計画していきたい。日本は優しい国であるということをわかってほしい。また皆さんとお会いできることを楽しみにしています」と述べられました。

姉様人形作り体験終了後、柴田町日中友好協会の平間忠一氏から日本の伝統行事の「節分」が紹介され、留学生たちは「鬼は外、福は内」と大きな声で豆まきを楽しみました。

クロスカントリー教室を実施

－大崎市教育委員会と仙台大学の連携事業－

写真上：児童にスキー指導する星川さん（赤いズボン着用）
写真下：クロスカントリー教室に参加した児童と共に
＜写真提供：村石好男鬼首小学校長（S55年体育学科卒）＞

1月31日（木）、大崎市教育委員会と仙台大学の連携事業の一環として、昨年に引き続き、オニコウベスキー場でクロスカントリー教室が実施されました。

同教室は、鬼首（おにこうべ）小学校の授業として全校生徒（約30名）が参加しました。全校をあげてスキー活動（クロスカントリー・アルペン）に力を入れている鬼首小学校児童に対し、本学関係者がスキー指導を行いました。

今回は、本学の藤井久雄教授、本多純子・渡邊克弥の各臨時職員、学生ボランティア有志3名＜星川陽介（ほしかわようすけ）さん（運動栄養学科4年－山形・楯岡高校出）、嶋田和晃（しまだかずあき）さん（運動栄養学科4年－東京・東亜学園高校出）、福地渉（ふくちわたる）さん（運動栄養学科4年－泉松陵高校出）＞がクロスカントリーを指導しました。

クロスカントリー教室では、はじめは緊張していた児童も学生とすぐに打ち解け、なごやかな雰囲気で行われていました。学生ボランティアとして参加した星川さんは「子どもたちとふれあえてとても楽しかった。仙台大学を卒業しても、こういったボランティアに積極的に参加したい」と話し、学生たちにとっても良い経験になったようです。

＜報告：2月5日（火）学生支援センター＞

3カ国15名の留学生が「華道」を通して日本文化を学ぶ

熊坂豊恵師範（右）から指導を受ける
台東大学（台湾）の李尚諭＜リシャンイ＞さん

2月5日（火）、仙台大学KMCH大会議室（クラブハウス）で、日本の季節感・感性を理解することや掛け軸と華との関係を学ぶため、日本文化体験学習「華道」（主催：仙台大学学生支援センターインターナショナル・ラーニング・サポートグループ）が行われました。同体験学習には、中国・台湾・タイの3カ国から留学生15名が参加しました。

はじめに、阿部武彦名誉教授が床の間と華との関係を解説。

続いて、小原流の熊坂豊恵＜くまさかほうえい＞一級家元師範による華型の説明の後、実際に留学生たちが華を生けていきました。

青海省体育科学研究所（中国）の蘇青青＜ソセイセイ＞さん（女性）は「華を生ける角度、空間の作り出し方などが難しかった。生け花を完成させた瞬間は、晴れやかな気分になった」。シーナカリンウィロート大学（タイ）のサラート・マイレーミさん（男性）は「タイでも生け花はあるが、タイの方が少し大きい気がした。正直難しかったが、綺麗にできたし、楽しかった」と感想を述べました。

熊坂師範は「留学生たちに生け花の決まりごとをわかりやすく伝えることが難しかった。興味を持って真面目に取り組んでいた。日本と自国の生け花の違いを感じたはず。異文化に触れることで新しい物の見方や考え方を身につけてほしい。」阿部名誉教授は「みんな真剣に行っていた。良いセンスをしていた。華道を通して、余白の美の文化を理解してほしい」と話し、日本文化を学ぶ意義を述べられました。

仙台大学大学院スポーツ科学研究科
平成24年度「第14回修士論文、第2回リサーチペーパー発表会」を開催

仙台大学大学院スポーツ科学研究科の平成24年度「第14回修士論文、第2回リサーチペーパー発表会」が2月9日（土）に本学大学院研究棟E301教室で開催されました。

はじめに、朴澤学長より「グローバル化社会の大学院教育（中央教育審議会平成23年1月31日答申）を踏まえ、国際的に通用する修士課程教育を通して、グローバル人材を育成することが本大学院の目指すところである。大学院生にとって、集大成となるような発表会が実施されることを期待したい」と挨拶がありました。

続けて、修士論文14名、リサーチペーパー2名、計16名の発表（発表時間は、15分／1人＜発表10分、質疑応答5分＞）がありました。緊張した面持ちの発表者たちは、「震災復興に地域スポーツクラブが果たす役割に関する研究」や「カヌー練習直後の補食提供から食事提供までの時間差異が及ぼす身体組成、運動能力及びコンディショニングへの影響」等、各16の演題（以下参照）について、事前に準備したパワーポイントで研究の成果を示しながら発表しました。また、発表後の質疑応答では、短い時間ながら活発な議論がなされました。

発表会の最後に丸山富雄副学長兼大学院研究科長から「修士論文やリサーチペーパーで努力した経験をいろいろなところでぜひ生かしてほしい」「仙台大学大学院で学んだ誇りと自信を持ってこれからも頑張ってほしい」とエールが送られ、発表会が締めくくられました。

「生活習慣に関する日中比較研究」について発表する東北師範大学（中国）からの留学生・高原＜こうげん＞さん

NO	演　者	演　　題
1	安　舒揚	バスケットボールの速攻における有利性の検証並びにミスプレーの構造分析
2	顧　一俊	被災地の子どもの生活および運動状況と体力との関係に関する研究
3	高　　原	生活習慣に関する日中比較研究
4	趙　梓淇	中国の子どもの遊びと生活時間の実態に関する研究 ～中国吉林省白山市の子どもと親世代の比較を通して～
5	劉　　思	ドライブ反撃の動感地平に関する分析 ～卓球競技のカット選手に対する新たな動感課題として～
6	劉　　璐	日中のスポーツ政策の比較研究～特に生涯スポーツに着目して～
7	林　　鑫	中国における高齢者に対する在宅サービスの現状～上海市を中心として～
8	李　　星	日本のＳ大学と中国Ｓ学院におけるバスケットボール選手の足関節捻挫受傷後の対処法に関する現状調査
9	祁　継良	運動習慣のある高地および平地居住高齢者の形態、体力・健康に関する比較研究
10	石垣　信人	高校の保健科における「共通教養」としての「保健リテラシー」に関する一考察
11	佐々木尚郁	陸上競技における競技意欲向上プログラムの実施による競技意欲と競技成績への影響について
12	佐藤　浩一	震災復興に地域スポーツクラブが果たす役割に関する研究 ～宮城県沿岸地域の事例を通して～
13	藤澤　良彦	体育における教育的可能性に関する研究～シュプランガーの教育学に基づいて～
14	山本光太郎	バスケットボールにおける審判体制に関する研究 ～M県内審判員の特性およびその組織体制の分析を通して～
15	渡邊　克弥	高強度領域での野球の打撃運動における主観的努力度とスイングスピードの対応関
16	古舘　伸郎	ｶﾇｰ練習直後の補食提供から食事提供までの時間差異が及ぼす身体組成、 運動能力及びｺﾝﾃﾞｼｮﾆﾝｸﾞへの影響

ボッチャ競技審判講習会を開催

写真上：学生たちにボッチャ競技の審判法を熱心に説明する村上氏（左端）
写真下：村上氏と参加学生たちとの集合写真

2月9日（土）、本学第一体育館でボッチャ競技の審判の知識や技術を学ぶため「ボッチャ講習会」が行われました。同講習会には、仙台大学障害者スポーツサポート研究部Co-Act.の学生20名、本学ボランティア学生1名、東北福祉大学ハンディースポーツアドバンスチームの学生5名、計26名の学生が参加しました。

ボッチャ競技は、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのカラーボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。障害によりボールを投げることができなくても、勾配具（ランプス）を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます。競技は男女の区別なくBC1～BC4のクラスに分かれて行われ、個人戦と団体戦（2対2のペア戦と3対3のチーム戦）があります。

講師は、日本ボッチャ協会強化指導部長の村上光輝氏（ロンドンパラリンピックボッチャ競技日本代表コーチ）が務め、学生たちは重度脳性麻痺の方への勾配具（ランプス）を使ったサポートの仕方やボッチャ競技の正しい審判法等を実際に体験し、メモを取るなどしながら熱心に学んでいました。

講師の村上氏は「学生たちは良い雰囲気で参加していた。ボッチャ競技のことをよく勉強している。質問されることも的を得ていた」と話され、感心していました。

仙台大学障害者スポーツサポート研究部Co-Act.の神田晃伸（かんだあきのぶ）さん（健康福祉学科4年－北海道・稚内大谷高校出）は「ボッチャ競技の審判としての心構えや正しい計測の仕方が学べた。第32回Co-Aピックボッチャ競技大会では困らず、自信を持って審判ができると思う。ぜひ大会を成功させ、参加者から来年も来たい、楽しかったと言ってもらえるような大会にしたい」と話しました。

なお、上記ボッチャ競技審判講習会に参加した学生たちは、同講習会で学んだことを生かし、2月17日（日）に開催された「第32回Co-Aピックボッチャ競技大会」の企画・運営・実施・審判等を行いました。**【P8に関連記事有り】**

上越教育大学 学長 若井彌一先生が「仙台大学高校会」に特別参加

挨拶される若井彌一先生

2月9日（土）、「仙台大学高校会」がホテル白萩（仙台市青葉区）で開催され、上越教育大学学長の若井彌一先生（教育行政学）が特別参加されました。若井先生は、本学で昭和53年2月～昭和58年3月まで教鞭を執られました。

仙台大学高校会は、宮城県内の高校に勤務する本学卒業生が会員となり、高校における体育活動の健全な普及発展と母校である仙台大学の発展並びに教職を目指す後輩の育成に寄与するために組織された会です。

当日は、高校会及び本学からも朴澤学長はじめ、丸山、鈴木省、橋本、佐藤滋各副学長らが多数参加。若井先生は「仙台大学は大学教員としての出発点。全身全霊をかけて教育と大学づくりにかかわった」「仙台大学の発展を嬉しく思っている」と挨拶され、懇親会では、同窓生・教職員と旧交を温め合いました。

タイからの留学生が帰国

左からｻﾗｰﾄ･ﾏｲﾚｰﾐさん、朴澤学長、ｽﾊﾟｳｨ･ｻｲﾀﾚｰさん、ﾆｼｬｰ･ｳﾄﾂｨﾘﾁｨさん、ﾍﾞﾝｼﾞｬｰﾏ･ﾏﾝｹｰﾄｺｰﾝさん

朴澤学長に感謝の手紙を読み上げるｽﾊﾟｳｨ･ｻｲﾀﾚｰさん

2月14日（木）、タイのシーナカリンウィロート大学からの短期留学生が、滞在中の御礼と帰国の挨拶を行うために学長室を訪れました。

今回帰国するのは、サラート･マイレーミさん、スパウィ･サイタレーさん、ニシャー･ウトツィリチィさん、ベンジャーマ･マンケートコーンさんの4名で、平成24年9月17日～平成25年2月15日までの約半年間、本学で学びました。帰国する留学生を代表して、スパウィ･サイタレーさんから朴澤学長へ感謝の手紙（右記参照）が読み上げられました。

留学生4名は、2月16日（土）～18日（月）まで東京を見学した後、2月19日（火）無事にタイに帰国しました。

朴澤学長先生

わたしたちは、タイのシーナカリンウィロート大学体育学部交換留学生として日本にきました。学長先生、そしてみなさま方このたびは、約半年間の間、この仙台大学で学ぶ機会を与えてくださりありがとうございました。

体育実技だけではなく、日本での生活をいろいろ経験できて、とてもうれしく思っています。

本当にここ仙台大学で学べたことをほこりに思います。ここで、得た経験をぜひタイに帰ってもいかしたいと思います。そして、もしまた機会があれば日本にもう一度来たいです。

ｽﾊﾟｳｨ･ｻｲﾀﾚｰ
ｻﾗｰﾄ･ﾏｲﾚｰﾐ
ﾆｼｬｰ･ｳﾄﾂｨﾘﾁｨ
ﾍﾞﾝｼﾞｬｰﾏ･ﾏﾝｹｰﾄｺｰﾝ より

健康づくり茶話会＋楽しい運動 in仙台大

楽しく運動をしている様子

2月15日（金）、仙台大学災害ボランティア活動の一環として、亘理町公共ゾーン仮設住宅で生活している方々を対象に行われている「エコノミークラス症候群予防運動教室（金曜日）」に参加している方々32名をお招きし、本学35記念館F101教室で「健康づくり茶話会＋楽しい運動in仙台大」（主催：仙台大学健康づくり運動サポーター事業）を行いました。

この企画は、同運動教室の参加者から上がった仙台大学来訪希望の声にお応えし、実現したものです。当日は、楽しい運動や茶話会に加え、本学の施設見学も行いました。

参加者たちは「仙台大学に一度来たかった。どの施設もきれいで、雰囲気がすごく良かった」「大学生になった気分になれた」「仙台大学に来て運動したことで、いつもと違う気分を味わえた」など楽しかった様子をたくさん話して下さいました。

健康づくり運動サポーターの穴沢直美（あなざわなおみ）さん（健康福祉学科3年－会津高校出）は、「女川での運動教室には行っていたが、亘理の方々とは初めて接した。仙台大学が約2年間、継続的に亘理で運動教室を行っているので、参加者とスタッフとの信頼関係が出来上がっていたように見えた。何事も継続が大切だと感じた」と感想を話し、「参加者から運動したり、お話したりすることがすごく楽しいという声が聞けた。これからも参加者の笑顔の手助けがしたい」と抱負を話しました。

ボッチャ競技大会を開催

－大会を通してボッチャ競技の普及と地域交流を図る－

写真上：ボッチャ競技大会団体戦決勝の様子
写真下：投球されたボールとジャックボール（白いボール）との距離を計測している学生審判

2月17日（日）、仙台大学第五体育館で、老若男女・障害の有無を問わず楽しむことのできるボッチャ競技を通して、ボッチャの魅力・楽しさに触れることやボッチャ競技の普及の場、さらには地域交流の場となることを目的として、第32回Co-Aピック「ボッチャ競技大会」（主催：仙台大学障害者スポーツサポート研究部Co-Act.＜コ-アクト＞）が開催されました。

ボッチャ競技は、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのカラーボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。障害によりボールを投げることができなくても、勾配具（ランプス）を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます。競技は男女の区別なくBC1～BC4のクラスに分かれて行われ、個人戦と団体戦（2対2のペア戦と3対3のチーム戦）があります。

ボッチャ競技大会には、ボッチャ愛好家や障害者選手など約120名が参加。参加者たちは日頃の練習の成果を発揮し、多くの熱戦が繰り広げられました。

同大会は、仙台大学障害者スポーツサポート研究部Co-Act.の学生及び有志30名、東北福祉大学の学生18名、仙台白百合女子大学の学生8名、計56名の学生たちが企画・運営・実施・審判等を行いました。

同大会実行委員長の志賀亜梨沙（しがありさ）さん（健康福祉学科4年－名取高校出）は「みんなよく動いて自分の気づかないところをフォローしてくれました。無事終了することができたのは仲間のお陰です」と感謝の気持ちを話し、また、ボランティアスタッフとして大会運営を支えてくれたOGの阿部智英（あべちえ）さん（塩釜高校勤務／H23年健康福祉学科卒－気仙沼高校出）は「勝っても負けてもみんな笑顔だった。それを引き出していた後輩たちを誇りに思う。元気をもらえた」と話しました。

仙台大学障害者スポーツサポート研究部Co-Act.の部長を務める高橋まゆみ准教授は、「年々参加者も多くなり、レベルアップしている。学生たちは、準備をしっかり行い、円滑な大会運営ができていた」と目を細めながら話しました。

同大会は、良い雰囲気のなかで競技が行われ、好スコアも出るなど健常者と障害者の交流ができ、大変有意義なものとなりました。

BLS部（スケルトン競技） 岸健太さん・西野入まなみさん、JOCジュニアオリンピックカップスケルトン競技会で優勝

西野入まなみさん（左）、岸健太さん

1月13日（日）に、長野市ボブスレー・リュージュパーク（スパイラル）で行われた「JOCジュニアオリンピックカップスケルトン競技会」において、本学BLS部（ボブスレー・リュージュ・スケルトン部）の岸健太（きしけんた）さん（体育学科1年－兵庫・日生学園第三高校出）＜合計タイム1分53秒63（1本目56秒23、2本目57秒40）＞と西野入（にしのいり）まなみさん（運動栄養学科1年－長野南高校出）＜合計タイム1分57秒68（1本目58秒55、2本目59秒13）＞が男女それぞれの部で優勝を果たしました。

大学からスケルトン競技をはじめた岸さんは「高校時代は陸上の円盤投げの選手だった。競技歴はまだ浅いが、スケルトンの魅力にのめり込んでいる。日の丸を背負えるように頑張りたい」。また、高校2年から本格的にスケルトン競技をはじめた西野入さんは「仙台大学に入学してから、競技力の面でも精神的な面でも自分の成長を実感している。オリンピックに出場したい」とそれぞれ今後の抱負を力強く語り、活躍を誓いました。

＜取 材 日：2月20日（水）、
取材場所：仙台大学ﾎﾞﾌﾞｽﾚｰﾌﾟｯｼｭﾄﾗｯｸ＞

漕艇部が優勝祝勝会を開催

決意表明する漕艇部（男子）の外崎海舟主将

2月23日（土）、ホテル原田inさくらを会場に、仙台大学漕艇部優勝祝勝会が開催されました。当日は柴田町長、柴田町ボート協会関係者、漕艇部OB・OGなど約80名にご出席頂き、昨年の全日本大学選手権大会の男子舵手つきフォアでの優勝と、U23世界選手権大会の日本代表に主将の外崎海舟（とのさきかいしゅう）さん（体育学科3年－青森・むつ工業高校出）が、ユニバーシアードの日本代表に中川（なかがわ）ひかりさん（体育学科2年－愛媛・宇和島水産高校出）がそれぞれ選考されたことなどが報告されました。

それに対して男女両主将は「エイト（男子）、舵手つきクォドルプル（女子）での優勝を目指し努力していく」との決意表明がなされました。

会の中で滝口茂柴田町長から「エイトでの優勝を目指しているということであるが、これまでにホップ・ステップの段階までは来ている。あとは最後のジャンプの段階を残すのみである。最後のジャンプに向けてさらに頑張ってほしい」とご挨拶を頂きました。また、朴澤学長からも「昨年の優勝に引き続き、今年も日本代表を選出することになった。これは柴田町ボート協会の方々はじめ多くの皆様からの応援の賜物である。選手諸君はこの応援を糧にエイト優勝に向けて頑張ってほしい」とご挨拶を頂きました。

漕艇部の2013年のシーズンは3月30日～31日に開催される「お花見レガッタ」が最初の大会となります。この大会で勢いをつけ、続く大会での優勝を目指します。

＜報告：漕艇部コーチ 石森靖明＞

平成24年 柴田町スポーツ賞表彰式

2月22日（金）、平成24年1月～12月までの間にスポーツで顕著な成績を挙げた個人および団体を表彰する「平成24年 柴田町スポーツ賞表彰式」が槻木生涯学習センターで開催されました。

本学からは、漕艇部・新体操競技部・体操競技部の3団体と13個人（漕艇2名・ボブスレー2名・スケルトン5名・体操競技4名）が受賞しました。

柴田町スポーツ功績賞（団体）を受賞した漕艇部主務の今井寿亮（いまいよしあき）さん（第34回全日本軽量級選手権大会男子エイト準優勝 他多数／体育学科3年－大阪・清風高校出）は「いつも柴田町の方々に応援して頂いている。本当に感謝の気持ちでいっぱい。来年は日本一を目指す」。柴田町スポーツ功績賞を受賞したボブスレー・リュージュ・スケルトン部の小林真衣（こばやしまい）さん（ノースアメリカンカップ女子スケルトン第13位／体育学科3年－名取北高校出）は「功績賞を頂けて大変光栄。家族や仲間の支えのお陰。来年は栄誉賞（国際大会で8位以上）を目指して頑張りたい」と話し、今後の更なる活躍を誓いました。

※赤字は団体表彰を示す。

NO	種　類	氏名(学科･学年)･団体名	出身校	競技種目	成　　績
1	個人　功績賞	池内　風　(体育4年)	京都･伏見工業高校	漕　艇	2012 U23 世界選手権大会 軽量級男子舵なしフォア 第12位
2	個人　功績賞	福田　海人(体育4年)	長崎･大村高校	漕　艇	2012 U23 世界選手権大会 軽量級男子舵なしフォア 第12位
3	団体　功績賞	仙台大学漕艇部	－	－	第34回全日本軽量級選手権大会 男子エイト 準優勝 他多数
4	個人　栄誉賞	黒岩　俊喜(栄養1年)	神奈川･橘高校	ボブスレー	2012/2013 ﾎﾞﾌﾞｽﾚｰ ﾉｰｽｱﾒﾘｶﾝｶｯﾌﾟ 第1戦 4人乗り 第3位 他多数
5	個人　栄誉賞	近藤　康行(情報1年)	兵庫･松陽高校	ボブスレー	2012/2013 ﾎﾞﾌﾞｽﾚｰ ﾉｰｽｱﾒﾘｶﾝｶｯﾌﾟ 第7戦 4人乗り 第7位
6	個人　栄誉賞	渡辺　瑞基(体育4年)	札幌山の手高校	ボブスレー	2011/2012 ｽｹﾙﾄﾝ世界ｼﾞｭﾆｱ選手権 男子ｽｹﾙﾄﾝ 第6位 他多数
7	個人　功績賞	菊地　貴志(体育4年)	利府高校	スケルトン	2011/2012 ｽｹﾙﾄﾝ世界ｼﾞｭﾆｱ選手権 男子ｽｹﾙﾄﾝ 第22位 他多数
8	個人　功績賞	米倉　理絵(栄養4年)	利府高校	スケルトン	2011/2012 ｽｹﾙﾄﾝ世界ｼﾞｭﾆｱ選手権 女子ｽｹﾙﾄﾝ 第20位 他多数
9	個人　功績賞	小林　真衣(体育3年)	名取北高校	スケルトン	2012/2013 ｽｹﾙﾄﾝﾉｰｽｱﾒﾘｶﾝｶｯﾌﾟ 女子ｽｹﾙﾄﾝ 第13位 他多数
10	個人　功績賞	明石　七海(体育4年)	名取北高校	スケルトン	2012/2013 ｽｹﾙﾄﾝﾉｰｽｱﾒﾘｶﾝｶｯﾌﾟ 女子ｽｹﾙﾄﾝ 第15位 他多数
11	団体　奨励賞	仙台大学新体操競技部	－	－	第65回全日本新体操選手権大会 女子団体総合 第7位 他
12	団体　奨励賞	仙台大学体操競技部	－	－	第66回全日本学生体操競技選手権 大会　団体総合 第3位
13	個人　奨励賞	山本　収一(栄養4年)	大阪･大成高校	体操競技	第66回全日本学生体操競技選手権 大会　種目別 跳馬 第2位
14	個人　奨励賞	菊池　収祐(体育3年)	岡山･関西高校	体操競技	第66回全日本団体･種目別選手権 大会　種目別 ゆか 第2位
15	個人　功績賞	小原　孝之(体育2年)	京都･洛南高校	体操競技	第5回アジア体操競技選手権大会 団体総合 2位(日本代表)　他
16	個人　功績賞	古谷　嘉章(体育1年)	大阪･清風高校	体操競技	第5回アジア体操競技選手権大会 団体総合 2位(日本代表)　他

Sports For All ～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

Sendai University Public Relations

SENDAI UNIV.

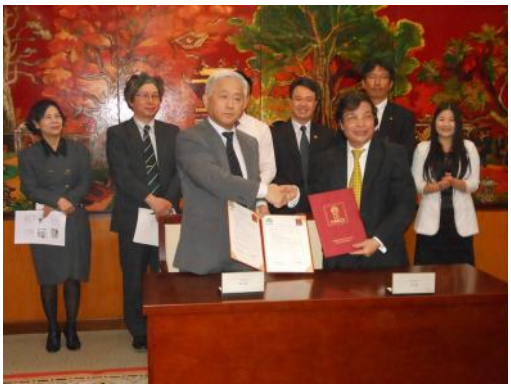
Monthly Report

Vol.83／ 2013 Mar.

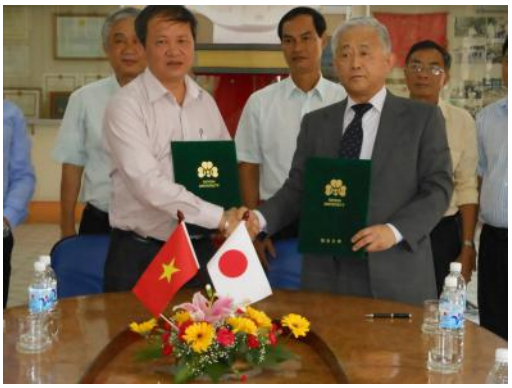
＜ 目 次 ＞

ベトナムの二つの大学と協定書を締結	1
平成24年度仙台大学卒業式を挙行	2
第8回健康福祉研究会を開催	3
海を超えて輝く学生達	6
CSULB 短期研修報告	7
学生の活躍	8

ベトナムの二つの大学と協定書を締結



ハノイ大学との調印式（3月7日）



ホーチミン市体育大学との調印式（3月8日）

３月にベトナムを訪問し、二つの大学と協定書を締結してきた。二つの大学とはハノイ市にあるハノイ大学（Hanoi University）とホーチミン市にあるホーチミン市体育大学（Hochiminh City University of Sport）である。

ハノイ大学との調印式は3月7日に行われた。ハノイ大学は外国語大学として発展してきたが、Luan学長によると、今後領域を広め、健康関連の学部の新設も検討しているとのことであった。調印式にはJICA関連のプログラムでベトナムにて「足こぎ車いす」の普及に務めている関矢准教授と関係者の方々も出席され、論文等も先方にお渡しした。今後の交流の進展に期待するところである。

翌3月8日にホーチミン市体育大学との調印式が行われた。ホーチミン市体育大学は本学と同様に体育科学を専門とする大学であり、共通する学科を備えている。今後、学生・教員間の交流や共同研究等の進展が期待できるものと思われる。

本学とベトナムの教育機関との協定書の締結は、今回が初めてとなる。今回のハノイ大学およびホーチミン市体育大学との協定書の締結が、体育・健康科学を中心とした今後の本学との交流の端緒となることを期待するところである。

＜報告：国際交流センター長　鎌田幸雄＞

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
直通　0224-55-1802
内線　佐藤美保　256
渡辺誠司　271
土生佐多　200
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

東日本大震災2年
仙台大学「東日本大震災慰霊式」を開催

3月11日（月）、学内に建立した慰霊碑前で「東日本大震災」の慰霊式を行い、津波で犠牲になった学生3名の死を悼みました。午後2時46分に柴田町の防災無線のサイレンが鳴り響く中、慰霊碑の前に集まった教職員ら約100名が黙とうを捧げ、献花台に花を手向け、焼香を行いました。

それに先立ち午前中には、津波で亡くなった桜井理仁（さくらいまさひと）さんの死を悼み、オーストラリアの英語教師アンドリュー・ランプさんが本学を訪れました。アンドリューさんは、桜井さんがオーストラリアに留学した際の英語教師。慰霊碑の前で手をあわせ桜井さんを偲んでいました。

アンドリューさんは、慰霊碑弔問後、桜井さんの出身地である「山元町追悼式」にもマーティ・キーナート副学長と共に参列し、桜井さんの父親との対面を果たしました。

写真上：仙台大学東日本大震災慰霊式の様子
写真下：ｵｰｽﾄﾗﾘｱの英語教師ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ･ﾗﾝﾌﾟさんが慰霊碑へ献花･焼香する様子

平成24年度 仙台大学卒業式を挙行

朴澤学長から「卒業証書･学位記」を受け取る体育学科総代の渡邉（わたなべ）まみさん（体育学科4年ー新潟江南高校出）

3月16日（土）、本学第五体育館で「平成24年度 仙台大学卒業式」（第43回体育学部「卒業証書・学位記」授与式並びに第14回大学院「学位記」授与式）が挙行されました。体育学部491名（体育学科295名・健康福祉学科91名・運動栄養学科70名・スポーツ情報マスメディア学科35名）及び台湾の台東大学との国際交流提携に基づく2回目のダブルディグリー制1名、並びに大学院スポーツ科学研究科16名のあわせて508名が所定の課程を修了し、「卒業証書・学位記」が授与されました。

開式に先立ち、本来であれば今年度卒業予定でしたが、「東日本大震災」で犠牲になった学生2名に対し、会場にいる全員で黙祷を捧げました。そのうちの一人である佐藤加奈子（さとうかなこ）さんの父親は「娘はきっと卒業式に出席したかったと思う。体育教師になる夢を叶えてやりたかった」と話し、加奈子さんの写真を抱いて卒業式に列席しました。また、スポーツ競技や文化活動等において、特に顕著な功績を挙げた方を表彰する「平成24年度学生表彰式」もあわせて行いました。

宮城県の教員採用試験に合格し、4月から県内の中学校で保健体育教諭として勤務することになっているスポーツ情報マスメディア学科総代の高橋悠（たかはしゆう）さん（スポーツ情報マスメディア学科4年ー宮城県第二女子高校出）は「仙台大学の4年間は本当に楽しかった。1年間フィンランドのカヤーニ応用科学大学に留学したので、1年遅れの卒業となったが、海外留学は自分を成長させてくれた」「4月からは、教師として期待と楽しみでいっぱい。仙台大での経験を大いに生かしたい」と力強く話しました。

卒業生のますますのご活躍とご健勝を祈念申し上げます。

「第8回健康福祉研究会」を開催

写真上：特別講演する宮城県レクリエーション協会の本多弘子会長（仙台大学名誉教授）
写真中・下：パネルディスカッションの様子

3月8日（金）に仙台ガーデンパレスにて、「第8回健康福祉研究会」を開催しました。本研究会は、介護や福祉・健康づくり等の現場に勤める方々と本学の健康福祉学科の卒業生、在校生、教職員が相互に学習研鑽できる環境づくりを進めるために、平成16年度より毎年開催しているものです。

今回は「体育系大学におけるレクリエーション指導者養成」をテーマに開催し、約260名が参加しました。

はじめに「大学教育におけるレクリエーション指導者」と題して、公益財団法人日本レクリエーション協会マネージャーの片山昭義氏より基調講演をいただきました。講演の中で、レクリエーションのもつ魅力に触れ、日本で初めてレクリエーション指導者養成に取り組んだ本学について、「レクリエーションの価値を踏まえ、レクリエーション指導者養成に尽力している」とコメントいただきました。

特別講演では、NPO法人宮城県レクリエーション協会会長の本多弘子氏（仙台大学名誉教授）より「仙台大学のレクリエーション指導者養成のはじまり」についてご講演いただきました。本多氏は、本学のレクリエーション指導者養成の礎を築いた方であり、本学のレクリエーション指導者養成のきっかけと、その歩みについて、当時のエピソードを交えながらお話をいただきました。

パネルディスカッションでは、小池和幸健康福祉学科長がコーディネーターを担当、パネリストとして5名の卒業生が登壇し、「大学でレクリエーションを学んで」をテーマに意見を交わしました。在学時に学んだレクリエーションについて、「コミュニケーション力やホスピタリティも自然と身に付き、社会に出た時にそれを100％活かすことができた」、「学生時代に先生方から学んだノウハウを発揮して、現在の職業に活かすことができている」と意見があがりました。また、「自分が楽しめば、周りも楽しみ、笑顔を引き出すことができる。レクリエーションにはそんな力がある」、「思いやりの心を感じた時にレクリエーションの力を感じる」など社会人基礎力育成の視点からも、レクリエーションの可能性があると再認識できたディスカッションとなりました。最後に小池健康福祉学科長が、「在学中にレクリエーションを学ぶことで、卒業生たちのようにマインドをもって人と関わることができる。今後もレクリエーション指導者の養成に努めていきたい」と会を締めくくりました。

その後の懇親会は、卒業生たちが本多氏を囲み、歌やダンスを披露するなど、大盛会のうちに終了しました。本多氏からは本学卒業生並びに教職員に対して感謝の言葉が述べられ、本学のレクリエーションを通じた繋がりの強さを改めて感じた一日となりました。

＜報告：GTセンター　新助手　齋藤まり＞

仙台大学に宮城県警より感謝状

感謝状を受け取る和泉隼臨時職員

2月25日(月)に宮城県警察本部にて、平成24年度大学生健全育成ボランティア「ポラリス宮城」の活動報告会が行われました。この活動は、少年と年齢的に近く、少年の非行防止及び健全育成活動に意欲と熱意のある大学生をボランティアとして登録し、社会参加活動の支援や街頭活動等を通し、少年の健全育成に寄与することを目的とし、平成16年から実施されています。

本学は、「ポラリス宮城」の発足時からボランティア学生の派遣等の支援・協力が評価され、宮城県警察本部生活安全部長より感謝状が贈呈されました。

また、本年度は本学から４人の学生が活動し、畑山尚生（はたやまなおき）さん（体育学科2年－古川黎明高校出）が大河原地区代表として活動報告を行いました。

活動の成果を発表する畑山尚生さん

非常に堂々とした姿勢と、ユーモア溢れた発表で会場は時々、笑いに包まれ、警察署の方々からもお褒めの言葉を頂くほどの素晴らしい発表でした。

＜報告：3月12日（火）
学生支援室臨時職員　和泉隼＞

「健康づくり運動サポーター認定証書授与式」を開催

－初級12名･中級5名･上級8名を認定－

朴澤学長から認定証を授与される学生

3月15日（金）、本学専門研究棟C201教室で、本学学生の「健康づくり運動サポーター認定証書授与式」が開催されました。今回は、健康づくり運動サポーターとして、初級12名･中級5名･上級8名の計25名が認定されました。「健康づくり運動サポーター」は本学独自の認定資格で、同サポーター養成プログラム（実践）を修了することによって認定されます。

朴澤学長は「健康づくり運動サポーター養成事業は、健康運動実践指導者や健康運動指導士資格との連動も加わってきている。同事業に携わってきた経験を生かし、社会の色々な場面で活躍してほしい」。小池健康福祉学科長は「学生の協力によって、今年度は地域の健康づくり事業を約100回実施することができた。亘理・女川における仮設住宅での健康づくり教室をあわせると約250回の実施になる。同事業は地域で定着してきた感があり、今後も積極的な学生の参加を期待している」とそれぞれ話されました。

最後に、上級認定者8名から「健康づくり運動サポーター養成事業を通して、自らの成長が実感できた」という内容の感想が異口同音に述べられました。

※地域密着型の「健康づくり運動サポーター」養成プログラムは、運動についての正しい知識をもち、「安全に」「元気よく」「明るく」「楽しい」運動指導のできるサポーターを養成し、体育系大学としての特徴を生かして、地域の健康づくりに貢献しようというものです。

平成24年度　学校支援ボランティア感謝状贈呈式

3月15日(金)、本学第5体育館大会議室において、平成24年度学校支援ボランティア感謝状贈呈式が開催されました。

今年度は仙台市から63名、柴田町から16名、岩沼市から7名、大崎市から3名、名取市から25名、計114名の学生に対し、４市１町の各教育委員会から学習支援や部活動支援活動に対する感謝状が授与されました。

朴澤学長からは「教員志望が多い本学にとって、実践教育の場としてこのような機会を与えていただき心から感謝申し上げたい。」との挨拶があり、表彰された学生を代表し4名の学生が学生支援ボランティアでの経験談を報告しました。仙台市教育委員会教育指導課千田博史指導主事からは、「東日本大震災を経た子供たちの心のケアを含め、引き続き今後とも様々な面でご支援いただきたい」との講評をいただきました。

わたなべ
渡邊まみさん（体育学科4年ー新潟江南高校出）
新潟市小学校教諭正採用（写真左）

教育実習の期間は、自分のことに精一杯で子どもと向き合う時間が取れないのが現実でした。学習支援ボランティアを通じ、学級の中で担任の先生と子供との対応や解決方法などを間近で見て接した経験は、自分のこれからの現場に活かしていけると思います。教員を目指す後輩たちには、積極的に教育ボランティアに参加したほうが良いと勧めたいです。

ゆうきけんた
結城健太さん（健康福祉学科4年ー楯岡高校出）
宮城県気仙沼支援学校常勤講師採用（写真中）

保健体育科教員を目指して入学しましたが、渡邊康男教授の授業を受講してから「特別支援」の教員を目指すようになりました。ボランティアとして3年生から近隣の小中学校にだいたい週１～2回の学習支援をしてきました。4月からは常勤講師として特別支援教育に関わります。子供たちの個性を受け入れ自立していくための指導をしていきたいと思います。

うじいえみのり
氏家美紀さん（体育学科4年ー一関第二高校出）
千葉県小学校教諭正採用（写真右）

教育ボランティアは、子供たちとの距離が近い存在です。在学中に教育現場で普段の子どもたちと接したことは、かけがえのない経験となりました。加えて、教職支援の先生方と通信制指導室の先生方の教科指導から面接指導まで手厚くご指導いただいたことに感謝しています。これからは子供たちの可能性を引き出せる教員になれるよう頑張ります。本当にお世話になりました。

海を超えて輝く学生達　Winter ～ Spring 2013

－ハワイ州立大学　英語研修NICE Program参加の3名－

写真右から甲田さん、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾃﾞｨﾚｸﾀｰのｼﾞｭﾃﾞｨさん、東海林さん、石川さん

2013年2月3日～24日の3週間、ハワイ州立大学（UH）アウトリーチ校で実施する３週間の英語研修NICE Programに、本学から3名の学生が参加し、「生きた英語」はもちろんのこと、チューター役であるUHの学生との交流やフラダンスへのチャレンジなど、英語圏におけるさまざまな異文化体験を通し、大いに学びました。

参加した3名は、東海林俊希（とうかいりんとしき）さん（ｽﾎﾟｰﾂ情報ﾏｽﾒﾃﾞｨｱ学科2年－鶴岡高校出）、甲田祐樹（こうたゆうき）さん（健康福祉学科１年－塩釜高校出）、石川開（いしかわはるき）さん（健康福祉学科１年－村田高校出）で、今回の参加理由を以下のように述べました。

東海林さん「 世界各国をめぐり沢山の人とコミュニケーションをした上で、自分の１番したい仕事を探したいと思った。NICEの授業はもちろん、UH校内で現地の学生達と話すのが楽しくて仕方なく、自分の言いたいことを言えない悔しさを痛感しているので、ちょっとした英語表現などを一つでも多く覚え、英会話力をあげたい。」甲田さん「卒業後の進路は介護福祉士を考えているが、もともと英語が好きで興味があったので、今回NICEプログラムに参加することで、別な可能性が広かるかもしれないと期待している。今は英語で書いた紙を見ないと、言いたいことが言えなくてもどかしいが、できるだけ英単語と短い文章を暗記して、スラスラ話せるようになりたい。」石川さん「卒業後の進路は健康運動指導士を考えているが、まだ漠然としていて決まらない。今まで英語が苦手で嫌いだったけれど、このままではいけないと考え決心した。」今回のNICE受講者は全部で145人、参加国は日本（61人）、韓国（38人　INHA　Universityより）、中国など。特に日本は、京都大学から29人もの多数参加があり、国立・私立を問わず英語を実施で学ぶことに各大学がより力を入れている印象を受けました。（内訳）京都大学29人、福岡大学20人、多摩大学1人、岐阜経済大学7人、北海道大学1人、仙台大学3人（他にはリタイアした方数名と、大学にたよらず個人で参加した学生など）

2月4日プログラム初日は、ＵＨ校内キューケンドール１０１に全員が集まり、アウトリーチカレッジの担当者から3週間で実施する概要を聞くなどオリエンテーションを経たのち、初歩（レベル1）から上級者（レベル5）まで5段階に分かれているクラスを決めるためのプレイスメントテストを受けました。最初はリスニングで50問、次に英語講師からマンツーマンでの英語によるインタビューを10分程度、両方の結果が翌日発表され、いよいよ授業開始です。

ﾚﾍﾞﾙ1のGregg先生と

東海林さん（レベル2）、甲田さんと石川さん（レベル1）は、各クラス10名程度のクラスメートと共に「Only English」の鉄則を守り、英語漬けの生活がスタート。3人はキッチンつきの安価なコンドミニアムタイプのホテルでルームシェアし、毎日勉強のために「公共バス」で通います。

車いすの市民がバスに乗る際には乗客誰一人苛立つことなく笑顔で迎え、ドライバーの指示のもとその方をみんなが自然にサポートする、高齢者が乗車してきたらすぐさま席を譲る、自分がバスを降りた後も次に続く人のためにバスの扉を抑えて待っているなど、彼らは他者を思いやる気持ちにあふれた「ホスピタリテイ」をも身に着け実践していました。

授業は自己紹介、他己紹介、クイズ形式のQ&A，UHの学生へのスポーツに関するアンケート調査他盛りだくさんで、学生達はフラダンスに挑戦し、週末にはダイアモンドヘッド頂上でさわやかな汗をかくなど、日々を充実させながらあっという間に3週間が過ぎました。

修了式では、それぞれが修了証書を受取りとても誇らしげな様子でクラスメイトや先生方と写真撮影や食事を楽しみました。彼らはスピーチをする代表ではなかったものの、それぞれ周りの学生などと英語で積極的にコミュニケーションを取って最後のひと時を有意義に過ごしたようです。

ﾚﾍﾞﾙ2のMonica先生と

二年生でHigh Basic（レベル2）のクラスに属した東海林さんは、「アルバイトでお金を貯めたら是非またハワイで勉強したい」と将来の目標を明確化したようでした。一年生の石川さんと甲田さんも「もっと英語が話せるようになりたい」と英語に対する苦手意識を克服した様に見えました。この研修を通して、言語だけではなく、ハワイの文化や礼儀作法なども経験する事で、国際交流の重要性を学ぶ事が出来たのではないでしょうか。

＜報告：佐藤美保、白幡恭子＞

CSULB　短期研修報告

研修先:California State University , Long Beach

講義:「アメリカにおけるビジネスとしてのスポーツの成り立ち」
SWOT分析発表の様子

2月12日～22日までカリフォルニア州立大学ロングビーチ校(CSULB)において「平成24年度仙台大学春季短期集中プログラム　スポーツ栄養＆スポーツマネジメントセミナー」が実施されました。

参加引率教職員、参加学生については以下に示した通りとなっています。

教職員	マーティ・キーナート副学長 柴田恵里香助教
	渡邊一郎事業戦略室長 加賀洋平新助手 白坂牧人新助手 佐藤幸子新助手 堀江知世新助手
学　生	高田瞬輔(体育学科3年－新潟･新発田高校出) 瀬谷千尋(体育学科3年－郡山東高校) 成澤　舞(運動栄養学科2年－酒田西高校出) 川田聡子(運動栄養学科2年－蔵王高校出) 千葉ありさ(運動栄養学科2年－東京･明星高校出) 小辻美希(運動栄養学科2年－函館白百合学園高校出) 及川美雪(運動栄養学科3年－東北高校出) 三品朋子(運動栄養学科3年－加美農業高校出) 羽賀亜紀(ｽﾎﾟｰﾂ情報ﾏｽﾒﾃﾞｨｱ学科2年－福島･橘高校出)

昨年度までは夏季に実施されていましたが、春季の開催となり校内がCSULBの学生で活気ついいた中研修を実施することができました。

体育館:Walter Pyramid, CSULB

研修2か月前より柴田助教による英会話の講座が開催されました。学生からは「勉強会を行ったことで、研修会での挨拶など自信を持って行うことができました」といった声が聞かれました。

事前講義として、笹生講師によるスポーツマネジメント講義及び運動栄養学科新助手によるスポーツ栄養の講義が行われました。初の海外渡航学生もいたため、加賀新助手による海外生活に関する質疑応答の時間も設けられ、学生から多くの疑問が投げかけられました。このように事前講義や勉強会が実施されたことにより研修に臨めたと考えられます。

今年度より研修期間が4日間延長され講義数や施設見学、スポーツ観戦の時間が増加し、より充実したものとなりました。

講義:「運動選手の体組成の評価」
Bod Pot測定

スポーツ栄養の授業ではスポーツ選手に必要な栄養素に関する基本的な内容からスポーツ選手の献立を考えるといった実践的な内容まで行われました。

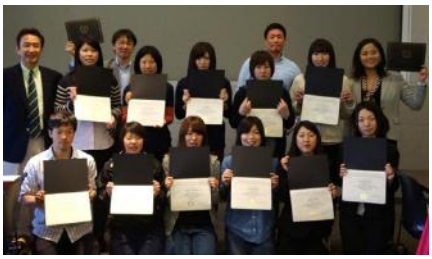
また昨年の10月に本学で開催された国際交流講演会に来日いただいたラルフ・ローゼニック博士による体組成に関する講義が行われました。

スポーツマネジメントに関する授業では学生2グループに分かれ、SWOT分析を用いて、仙台プロバスケットボールチームとプロサッカーチームの分析等を行いました。高田瞬輔(たかたしゅんすけ)さん(体育学科3年－新潟･新発田高校出)より「大学で学んだ講義とつながる部分があります。日本にも取り入れられる内容が多いと思いました。スポーツ栄養学は難しいですが、自分の競技に活かせるものが多く、もっと学びたいと思いました。」という意見が聞かれました。専門分野以外の講義で戸惑う様子も見られましたが、教員や周りの学生と話をしながら取り組んでいく様子が印象的でした。

CSULBの学生との交流会及び修了式では本学の学生及び運動栄養学科新助手が日本の12か月について英語で発表を行いました。各月ごとに工夫を凝らした発表となっておりCSULBの学生や教職員の方から笑いや驚きの声が上がりました。学生は海外との交流を持つことで日本の文化について改めて考えることができたのではないでしょうか。

来年度7月、CSULBから学生が来日する予定となっております。それに向け、学生の中にはマーティ・キーナート副学長による英会話教室へ参加し、より語学力を磨いております。

＜報告：GTセンター　新助手　堀江知世＞



全体集合写真:修了式

エアリアルで「2014年ソチ冬季五輪」を目指す南隆徳さん －国際大会で初の表彰台

左から朴澤学長、南隆徳さん、阿部篤志講師

エアリアル（スキー・フリースタイル競技の一つ）で「2014年ソチ冬季五輪」を目指す本学競技スキー部の南隆徳（みなみたかのり）さん（仙台大学大学院1年－北翔大卒－北海道・美深高校出、165cm／62kg、最高成績：ワールドカップ15位）が、国際大会で初の表彰台を獲得しました。

2月17日（日）にLake Placid（アメリカ合衆国ニューヨーク州）で行われたノースアメリカンカップ第5戦と、2月23日（土）にVal Saint-Com（カナダケベック州）で行われたノースアメリカンカップ第7戦で見事3位に入る健闘を見せました。

2月27日（水）に南さんは、阿部篤志講師と共に同カップ3位の成績報告に学長室を訪れました。

南さんは、北海道美深町の出身で、同町とJOC（日本オリンピック委員会）・JSC（日本スポーツ振興センター）が連携して進めるタレント発掘事業により輩出された選手。同町と本学との相互協力協定を通じてタレント発掘事業に携わっている本学の粟木一博教授（スポーツ心理学）、阿部篤志講師（スポーツ情報戦略）からの勧めと、競技終了後のことを視野に入れて仙台大学大学院への進学を決意。本学大学院「スポーツキャリア大学院プログラム（文部科学省委託事業）」の受け入れ第一号アスリートとして入学しました。

南さんは「国際大会で初めて表彰台に立つことができ、チームメイトからも祝福されて嬉しかった」と笑顔を見せ、「3月16日（土）に全道大会、3月17日（日）に全日本選手権大会が地元美深町で開催される。自分の得意技であるレイフルフル（3回転2回ひねり）を決め、成長した姿を地元の人にも見せたい」「ソチ冬季五輪出場が今年の目標。文武両道で頑張りたい」と気を引き締めていました。

今後も南隆徳さんへの熱いご声援を宜しくお願い致します。

平成24年度　仙台大学学生表彰式

3月5日（火）、本学「鹿島メモリアルクラブハウス（通称：KMCH）」大会議室で「平成24年度仙台大学学生表彰式」が行われ、新体操競技部・柔道部・体操競技部・男子バレーボール部・漕艇部の5団体及び10個人（柔道3名・漕艇1名・体操競技3名・スケルトン1名・ボブスレー2名）がスポーツ功労賞を受賞しました（柔道部・ボブスレー・リュージュ・スケルトン部は遠征中のため欠席）。

はじめに、粟木学生部長から「本学学生が課外活動としてスポーツを行い、顕著な功績を納め、本学の名誉を高めた学生に、スポーツ功労賞を団体・個人に対して表彰するものである」と趣旨を説明。続けて、朴澤学長から表彰状並びに記念品が授与されました。

男子バレーボール部の西村優輝（にしむらゆうき）主将（第67回国民体育大会バレーボール成年男子第5位／体育学科3年－弘前工業高校出）は「もう一つ勝てていれば、ベスト4に入れた。来年は、国体とインカレでベスト4を目指す」。漕艇部（女子）の前田佑美（まえだゆみ）主将（第39回全日本大学選手権女子舵つきクォドルプル第4位／体育学科3年－静岡・新居高校出）は「表彰されるのは気分がいい。今年は、昨年以上の成績が残せるように頑張りたい。最高学年としての自覚をしっかり持ってボートに取り組んでいきたい」と新たな決意を述べました。

最後に朴澤学長から「日々の努力の成果が表彰という形となった。この表彰を今後の生活の糧とし、これからも一生懸命頑張ってほしい。体育系大学の学生として、スポーツへの参加のみならず、スポーツの普及や指導等のいろいろな場面において、スポーツ活動に関与してほしい」と期待を込めた挨拶があり、表彰式が終了しました。

アメリカンズカップ男子ボブスレー二人乗り、OB鈴木寛さん・黒岩俊喜さん（仙台大1年）組が7位－「下町ボブスレー」が国際大会で初滑走

※写真：鈴木寛さん（前：パイロット）・黒岩俊喜さん（後：ブレーカー）組が「下町ボブスレー」を押しながらスタートする様子
（写真提供＝下町ボブスレーネットワークプロジェクト）

3月6日（水）・7日（木）、米国のレイク・プラシッドで行われた「ノースアメリカンカップ」男子ボブスレー二人乗り第8戦・第9戦で、日本代表のOB鈴木寛（すずきひろし）さん（マネックス証券／H8年体育学科卒－北海道・室蘭大谷高校出）・黒岩俊喜（くろいわとしき）さん（運動栄養学科1年－神奈川・橘高校出）組が「下町ボブスレー」を使用し、国際大会で滑走しました。「下町ボブスレー」での国際大会滑走は、初めてとなります。

結果は両日7位（出場国は1日目が11カ国20チーム・2日目が10カ国19チーム）。
優勝は、両日とも韓国という結果となりました。

ボブスレーイタリア代表はフェラーリ、ドイツ代表はBMWといった有名企業がボブスレーの開発をしていますが、日本代表はドイツ代表の中古のボブスレーを調達し、改良して競技に臨んでいるというのが現状。「下町ボブスレー」は、東京都大田区の金属加工が得意な中小製造業が中心となって日本人による日本人のための初の国産ボブスレーを開発し、2014年ソチ冬季五輪を目指す日本代表を応援しようというプロジェクトです。（詳細は、「下町ボブスレーネットワークプロジェクト公式サイト」をご参照ください。）

下町ボブスレーで初滑走したブレーカーの黒岩さんは「初めて下町ボブスレーに乗って、振動が大きいことが少し気になったが、空力設計や軽量化が優れており、乗り心地は良かった。下町の製造業の方々の「情熱」と「真心」が込められたボブスレーに乗せて頂き、感謝の気持ちでいっぱい」「体重を増やし、脚力（スピード）を付け、精神面を鍛えることが今後の課題。下町ボブスレーに乗って、ソチ冬季五輪に出場したい」と語りました。

今後も鈴木寛さんと黒岩俊喜さん、「下町ボブスレー」への熱いご声援を宜しくお願い致します。

2013女子フロアボールアジア太平洋選手権大会で日本チーム2位に貢献

※写真前列中央：松浦里紗さん（赤いユニフォーム）、
後列左から泉幸さん、宇野澤衣里さん、早坂優子さん

2月20日（水）～24日（日）まで韓国・ポチョン市で行われた「2013女子フロアボールアジア太平洋選手権大会」において、日本代表選手として出場したGK松浦里紗（まつうらりさ）さん（健康福祉学科4年－福島西高校出）・FW泉 幸（いずみさち）さん（健康福祉学科4年－米沢中央高校出）・DF宇野澤衣里（うのさわえり）さん（体育学科2年－宮城広瀬高校出）及び本学と姉妹校である明成高校3年のDF早坂優子（はやさかゆうこ）さんが日本チーム2位に貢献し、見事日本チームは12月にチェコで開催される世界選手権への切符（上位3チーム）を手にしました。

同太平洋選手権への参加国は、日本・シンガポール・韓国・オーストラリアの4か国。総当たりのリーグ戦を行い、上位3チームまでが世界選手権へ出場します。日本はシンガポールに5－0、韓国に6－1と勝利しましたが、オーストラリアに2－3と競り負け、惜しくも2位という結果になりました。

「2番手のゴールキーパーとして試合に出場した。国際大会独特の雰囲気に呑まれないように気をつけた。試合を重ねるごとにチームが一つになった」（松浦さん）。「特にオーストラリア戦は、体格差・体力差を感じた。日本の持ち味はスピード。世界選手権に向けてレベルアップを図りたい」（泉さん）。「オーストラリアは大型選手が多く守るのが大変だった。日本代表の練習を通して、ドリブル・パス・シュートの精度を高めたい」（宇野澤さん）。

12月にチェコで開催される世界選手権での活躍にご期待ください。

競技スキー部　南隆徳さん、フリースタイル「エアリアル種目」で優勝

写真中央：表彰台で笑顔を見せる南隆徳さん

3月17日（日）、北海道美深スキー場で「第33回全日本スキー選手権大会」フリースタイルエアリアル種目が行われ、北海道美深町出身の南隆徳（みなみたかのり）さん（仙台大学大学院1年－北翔大学卒－北海道・美深高校出）が3年ぶり2回目の優勝を果たしました。

一本目に2位につけた南は、二本目の演技で逆転。二本の合計得点は109.580点。2位とは僅差での優勝となりました。

今シーズンは、国際大会で初のメダル獲得、全道選手権・全日本選手権で二冠を達成した南さんは「地元（美深）から大勢の人たちが応援に駆け付けてくれた。優勝を飾れたことは嬉しいが、内容はやや不満。以前からあった腰痛が再発してしまい、一回転での出場となった。三回転を披露したかった」と悔しさを滲ませ、「腰痛のリハビリに専念し、今季目標に掲げている3回転3回ひねりが決められるよう基礎体力づくりに取り組みたい」と今後の抱負を話しました。

ソチ冬季五輪を目指す南隆徳さんへの温かいご声援を宜しくお願い致します。

瀬戸川彩友さん、「第25回全日本学生スノーボード選手権大会」で準優勝

2月1日（金）に長野県FS やまびこの丘温泉スキー場で行われた「第25回全日本学生スノーボード選手権大会」のスノーボードクロスの部に出場した瀬戸川彩友（せとがわあゆ）さん（運動栄養学科3年－札幌白石高校出）が2年連続準優勝を果たしました。

スノーボードクロスは、スノーボード競技の種目の一つで、同時にスタートする複数の選手が一つのコースに設置されている障害物をクリアし、ゴールを目指します。同時にスタートするという特性上、接触・転倒が多発するため、ヘルメットの着用が義務付けられています。勝敗は、順位で決定されます。2006年トリノオリンピックから正式種目となっています。

瀬戸川さんは「2年連続準優勝という結果は、嬉しいというより悔しい。メンタル面を強化し、来年は必ず優勝したい」と更なる闘志を燃やしていました。

瀬戸川さんのなお一層の活躍が期待されます。

＜取 材 日：3月25日（月）、
取材場所：仙台大学広報室＞